

UFO・超能力・宇宙哲学

# UFO contactee

SINCE 1961  
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・ESP・Cosmic Philosophy  
コンタクティー

WINTER  
1995

131

## アダムスキー問題と日本GAP

ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんぱんに出現!  
カイバーベルトはアダムスキーの主張を立証するか  
熱烈な呼びかけに応えたUFO  
私のUFO目撃と宇宙的な生き方

## 人間の実体・意識・テレパシー原理



CONTENTS *(Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness)*

〈巻頭言〉 宇宙時代の到来	1
<b>アダムスキー問題と日本GAP</b>	久保田八郎 2
アダムスキー大会に出席して	久保田八郎 8
ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんぱんに出現！	加藤 純一 12
私もワシントン市でUFOを見た	清水 正 15
カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか	植木 淳一 16
科学—SCIENCE	24
GAP短信	26
アダムスキー大会を思う	岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳 27
熱烈な呼びかけに応えたUFO	石井 一江 30
私のUFO目撃と宇宙的な生き方	忍田 裕昭 34
宇宙時代の夜明け	村上 博一 36
<b>人間の実体・意識・テレパシー原理</b>	G. アダムスキー 37
〈投稿欄〉 ユーコン広場	46
UFO contactee バックナンバー主要記事	48
本年度総会、大盛況	49
〈広告〉 新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

**GAPについて**

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”的な存在であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」がありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”的な研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・プラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることがあります。その中心思想は次のとあります。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・プラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

**表紙写真**

1959年6月にハワイのオアフ島南端の岬ダイヤモンドヘッドで撮影されたUFO。撮影者その他の詳細は不明。

**日本GAPへはいりませんか**

- 日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究団体です。会員は約1700名、世界でもトップクラスの研究集団として、世界の多くの研究団体や個人研究家と交流を保っています。
- 東京本部と地方の17支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学の研鑽について研究討議を行なっており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。
- 東京では毎月第一日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFO研究と宇宙哲学の大先駆者・久保田八郎会長の解説講義、超能力開発練習その他のプログラムを実施、会員が宇宙的な波動下に研鑽します。品格のある楽しい雰囲気に満ちています。
- 入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へ入会案内書をハガキでお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

今年九月にアメリカの首都ワシントン市で開催されたアダムスキーハー大会は、いわばアダムスキーパー派研究家の内輪の集会であり、小規模なものだったが、内容はありふれた会合ではなくて国際的なもので画期的であった。

こちらへ来て判つたのだが、アメリカではアダムスキーハー問題はほとんど知られていない。これは彼が撮影した母船やスカウトシップ（円盤）があまりにもシャープに写っているために、模型を吊り下げて撮影したトリック写真のように見えるせいらしい。この点は日本でも同様だ。

アダムスキーハーが宇宙哲学の弟子であつたマデリン・ロドファー夫人の邸宅で一緒に撮影した円盤型UFOの木の葉運動を示す8ミリ記録映画に至つては、やはりひどいトリック説が流れていた。大会会場で筆者の所へ挨拶に来た初対面のロドファー夫人は、気品に満ちた立派な老婦人であった。こんな人が子供だましなトリック写真を撮影して人をだますとは逆立ちしても考えられない。むしろ批判者の知性が逆立ちしているのではないか。

## 卷頭言 宇宙時代の到来



この世界では物証（物的証拠）がなければ信用にあたいしないとされる。この理由として、地球人には物事の真相を見抜くテレパシー能力がないからだとアダムスキーハーは言つている。確かにそうだらうが、それよりもむしろ、人間個々の生來の素質に、ある決められた格差または多様性が存在するに起因するのではないだろうか。金だけを求めてくだらぬ人生をする大人がいる一方、幼い少年が新約聖書を読んで自身の純粹化を図ろうとするこの差は一体何が原因なのだろうと、田舎でむかし知り合いの小学校長が述懐していた。この場合、少年は「生來の感知力」によって新約の価値を見抜いていたとしか考えられない。これはカントの『純粹理性批判』でいう「アブリオリの直感力」なのかもしれない。

アダムスキーハーの円盤や母船の写真類は、六インチ反射望遠鏡におそろしく旧式な手札判カメラを取り付けて、バクのピントグラスを覗きながらピントを合わせてネガホルダー一枚ずつ交換する方式による、かなりの熟練を要する撮影法で撮られたものである。熟練というのはおそろしい。多年にわたつてある一つの事柄を操作し続けていると驚異的な能力が発達して、いわゆる名人芸の域に達することがある。ジャグラーもその一種だ。ある家電メーカーの技術者は顕微鏡で微小さなチツ

鏡の使用が面倒になつたため、肉眼で凝視し続けていたところ、やがて視力が微視的に発達し、顕微鏡で見たのと同じよう微小物を巨大化させて見えるようになったという。これは実話なのだが、これでさえも否定する人はいるだろう。肉眼がそのように変化すれば、あらゆる物事の根拠や証明をいちいじ求めていたら、結局行き詰まるだろう。といって盲信もよくないとなれば、どうすれば物事の真相を見抜くことが可能になるか。

それこそアダムスキーハーの唱えるマインドと、内部に宿る「宇宙の意識」との一体化をはかつて、万事を知る意識から来る印象またはメッセージを感じて能力を伸ばす以外に方法はないだろう。そこそこアダムスキーハーの唱える「宇宙の意識」との一体化をはかつて、万事を知る意識から来る印象またはメッセージを感じて能力を伸ばす以外に方法はないだろう。それでもアダムスキーハー問題も浮上するだろうが、それを待たなくとも、我々は独自に自己開発によって太陽系の文明を知ることは可能である。地球上には多くの異星人が来ており、ひそかに地球社会の調査研究と救援活動に挺身しているにもかかわらず、学校教育によつて人間個々の能力や知識が一定レベルを保つように仕込まれるために、誰にその証拠は充分に存在する。空中に出現するUFO（未確認飛行物体）と呼ばれるものがそれだ。これに着目して研究活動を続けているのが日本GAPである。すでに多数の会員がUFOを目撃して写真にも撮っている。これは迫り来る宇宙時代の先駆をなすものであろう。したがつて子供の頃にはテレパシーな、または遠隔透視的な能力を持ちながらも、長づるに及んで消滅するという例がある。

普を検査する仕事をしていたが、顕微鏡によって解明されながら隠蔽されているといわれるが、来世紀にはこれが公開される可能性は大である。特に近未来にアメリカが実施する土星探査に期待をかけたい。これによって各惑星群の驚異的事実が表面化すると思われるが、それは来世紀の二〇年前後であると考えられる。遅くとも三〇年頃までには真の意味の宇宙時代を迎えるようになるだろう。

そうなればアダムスキーハー問題も浮上するだろうが、それを待たなくとも、我々は独自に自己開発によって太陽系の文明を知ることは可能である。地球上には多くの異星人が来ており、ひそかに地球社会の調査研究と救援活動に挺身しているアダムスキーハーは言つている。そしてその証拠は充分に存在する。空中に出現するUFO（未確認飛行物体）と呼ばれるものがそれだ。これに着目して研究活動を続けているのが日本GAPである。すでに多数の会員がUFOを目撲して写真にも撮っている。これは迫り来る宇宙時代の先駆をなすものであろう。したがつて悲觀は禁物である。大いなる希望をもつて前進を続けようではないませんかと声を大にして叫びたい。（久）

George Adamski And GAP-Japan  
by Hachiro Kubota  
(A Speech Given Before Friends of Adamski Conference in Washington D. C. in 1995)

# アダムスキー問題と日本GAP

## ★久保田八郎

（日本GAP会長）

去の九月八日より一〇までの三日間、米ワシントン市において、ロヂエスターUFO研究会主催のアダムスキー大会が開催された。主催者はアダムスキーの友人であったビル・シャーワッジ氏。（正式名称はFriends of Adamski Conference）この大会にアダムスキー在世中に協力した友人、GAP活動で活躍した各国GAP主宰者等、計九名が<sup>参考</sup>集。三日間に渡つて各自で研究結果や活動状況を講演によって披露し、多数つめかけた聴衆の熱意とともに会場のホリデイ・イン・ホテルのホールは熱気にもぎれられた。

日本からは日本GAP会長久保田八郎がアジア代表として、九日夜八時より一〇時まで出演。講演を約一時間、スライド六〇数点の映写と説明を一時間行ない、計約二時間、英語で熱弁をふるつて大喝采を博し、聴衆に多大の感銘を与えた。以下は講演内容。大会の詳細な模様は講演録に続いて掲載されている。

## アダムスキーに会わなかつた私

ありますロヂエスターUFO研究会の

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介

いたしました日本GAPの久保田

であります。本日はこの素晴らしい大

会にご招待にあずかりまして、心から御札を申し上げます。本日の主催者で

アダムスキーとたびたび会っていますが、

ムスキーとたびたび会っていますが、

私はアダムスキーに一度も会ったことはありません。したがつてシャーワッジ氏を羨ましく思いますが、彼は多年にわたつてアダムスキーに関する多くの情報を私に与えてくれました。そのことなども感謝致しております。

それからと、いうものは三日三晩奮して眠れなかつたことを覚えています。それまで私はUFOに全く関心はなかつたのですが、なぜかアダムスキーの

から出てきた金星人とコンタクトしたという記事を読みましたとき、飛び上がりんばかりに驚いて、直感的に「これは事実そのものが書いてあるのだ」という印象を受けました。

それで翌年になつてからアダムスキーに手紙を出したのですが、なかなか返事が来ません。ほとんど忘れかけていた頃の半年後に彼から返事が来たのです。それは非常に丁重な文面でありましたので、私は「この人は真実を語る人なのだ」と確信し、それ以来彼と文通を続けたのです。

## アダムスキーの書物に驚愕

さて、私がアダムスキーの書物に最初に出会いましたのは、一九五三年の九月であります。当時私は日本の島根県の益田<sup>ますだ</sup>という田舎町に住んでおりまして、高校の教員をやつております。

ある日の夕方、書店でアダムスキーの Flying Saucers Have Landed の日本版「空飛ぶ円盤実見記」を見つけ

## 真実の人、アダムスキー

てなにげなく読んでみましたら、彼が

一九五二年一月二〇日に、カリリフォルニア州ザートセンターで、金星から來た円盤が眼前に着陸して、その中

にいた金星人とコンタクトしたと、その驚いた次第です。

彼はアダムスキーの存命中にはアダムスキーとたびたび会っていますが、

そうこうするうちに、彼が二番目の





●ワシントン市のアダムスキー大会で講演中の久保田会長。

撮影／西川 太



▲アダムスキー大会の講演者一同(米ワシントン市、ホリディ・イン・ホテルの2階ホール)。前列中央は久保田会長。 撮影／西川 太

書物でありますところの Inside The Space Ships を出して、それを私に一冊送つてくれましたので、それを日本語に翻訳しようと思つたつて、結局、一九六三年にその本の日本語版を「空飛ぶ円盤同乗記」と題して東京のある出版社から出したのです。これは当時非常に大きな話題になつて、日本のUFO研究界に多大な影響を与えることになりましたが、その後も私はアダムスキーの書物の翻訳書を次々と出しておらず、一方ではアダムスキーと文通を続けておりました。

## アダムスキーは絶対に眞実

そして一九六一年には彼からの要請によつて日本GAPを設立しました。しかし私はさきほども申しましたように、彼と会つたことはありません。しかし彼は多数の書簡によつて私に宇宙的人間になるための指針を与えて指導してくれました。彼こそは私にとって最大の恩人であり、また今世紀における最大の偉人であつたと私はみています。

さて、結論から申しますと、アダムスキーの体験や言動はすべて絶対に眞実であつたと私は確信しています。そのことは、来世紀になつて、彼が言うように、我らの太陽系の全部の惑星に偉大な進化をとげた人間が居住し、大文明を築いている事が事実として地球上であります。

**アダムスキー全集発行は日本だけ**

しかし私は日本のかなりの有名人や科学者が、ひそかにアダムスキーの書物を読んでいることを知っています。

人に認められる時が必ず来ますから、そのときになつて確証されることになります。それまでは不信論者や懷疑論者達と闘うことになると思いますが、しかし、地球は確實に宇宙時代へ前進しつつありますから、私は樂観的に活動を続けております。

## 米ソの情報工作

アダムスキーは一時期非常に有名になりましたが、一九六五年に亡くなりましてから急速に名前が忘れ去られました。その理由は、彼の書物が世界的に出なくなつたこと、第二に米ソの惑星探査機による調査の結果、太陽系の地球以外の惑星には知的生命は存在しないことが「分かった」という情報が流れてしまつたのと、学校でそのように教えるために、世界中の人が一〇〇パーセントそのとおりに信じてしまつたからです。現在、日本でも大部分の人人が、やはりそのよう信じています。

したがつて、率直に言つて、日本におけるGAP活動はそれほど急速に拡大しません。現在の日本GAPの会員數は約一七〇〇名です。

## 太陽系の真相を隠す米政府

話を元に戻しますと、私達の太陽系には、アダムスキーによりますと、全部で一二個の惑星があるとのことで、そのいづれにも偉大な文明が存在して、各惑星の住民達は戦争、病気、貧困などのない天国のような生活をしているといふことです。しかし一般の人はこの話を一笑に付して相手にしません。本当に各惑星は生物のいないカラッポの天体なのでしょうか。

これについては私の多年の親友であるダニエル・ロスが素晴らしい本を出しておりますから、それをお読みにな

アダムスキーの書物の日本語版は私が翻訳しました新アダムスキー全集という形で全部で一〇巻出しています。これにはアダムスキーの著作のほとんどが網羅されていますが、しかし私の長年の文通仲間でありますアリス・ボマロイ女史が数年前に送つて下さった膨大なアダムスキー講演集がまだあります。これを私達の機関誌でありますところの UFO contactee 誌に連載で掲載しております。全部掲載しましたならば、これもアダムスキー全集に加えるつもりですから、そうなればアダムスキー全集は最終的には二〇巻ぐらいいになるでしょう。こんなに多数のアダムスキー関係の翻訳書を出している国は、日本だけであろうと思います。

アダムスキーの書物の日本語版は私が翻訳しました新アダムスキー全集といいます。これによりますと、アメリカ政府、特に NASA (米航空宇宙局) の高官達は、惑星探査機によつて金星や火星に偉大な文明が存在することを知つてゐるにもかかわらず、それを隠しているというのです。その本は UFO Complete Evidence From Space (邦訳版「宇宙からの完全な証拠」と題して今でも出されています。その内容は非常に興味深いもので、UFO 問題に関する人にとっては必読の書物です。なぜ彼らはそんな重大な問題を隠すのか、正直に公表すればよいではないかと思われましようが、この世界はそんなに安穏な世界ではありません。第二次大戦後五〇年経過した今でも、世界各地で戦争をやつています。民族の対立、宗教の対立、経済戦争、そのほか難問が山積しています。こんなとき、もしアメリカが「太陽系の地球以外の各惑星に大文明がある」と公表しようものなら、世界で大パニックが発生して收拾のつかない状態になるでしよう。むしろ「そんなことはアメリカの謀略だ」といつて、逆に大戦争の引き金になります。もっと大衆が宇宙に目を向けて、UFO 問題が一般に浸透するまでは、米政府の隠蔽策は必要なのかも

しません。

## アダムスキーの名が知られる

### ていの日本

さて、日本は戦後アメリカと日米安保条約を締結して、アメリカの保護のもとに大發展をとげました。それが幸いしたのだと思いますが、日本は言論の自由な国として、どんな思想信条も表明できますし、それに対しても妨害することは出来ません。したがってUFO問題も自由に研究することがで

きます。  
そこで私は一九六一年以来、日本GAPというアダムスキー支持の研究団体を主宰してまいりました。これを継続させるには困難も伴いましたが、不思議と長続きして今日に至つております。それはひとつには、日本にはアダムスキー問題に関心の深い人が多いという事実があります。現在、日本の人口の多数の人がアダムスキーの名前を聞いたことがあると思われます。これでは私が広めたせいもありますが、根本的には、日本人は非常に精神的な民族で、特にアダムスキーの宇宙的な哲学に引かれる性質があるからであろうと思われます。

## 日本GAPの活動

JAPで日本GAPの活動状況をお話しあらわす。日本GAPは東京の私

の自宅を本部にしまして、全国に一八ヵ所の支部があります。本部と各支部は毎月一回月例セミナーを開催して、主としてアダムスキーの宇宙哲学を研究します。これに使用するテキストはアダムスキーの Telepathy - The Cosmic or Universal Language (全集第二巻「超能力開発法」) または彼の最後の書物となりました Science of Life (全集第三巻「生命の科学」) です。これらをテキストにして私が毎回少しづつ解説講義をして、それを録音したテープや録画ビデオ等を全国の各支部へ送ります。そこで支部では各自の月例セミナーでそれを再生して講義を聞いた上で討論を行ないます。東京月例セミナーではその解説講義のあと、全員でテレパシー練習を行なつたり、質疑応答を行なつたりします。終了後は希望者だけでレストランへ行つて楽しく夕食会を開催します。

実はこの東京月例セミナーは昨年八月でもつてちょうど三〇〇回に達しました。これは私が一九六九年に故郷から東京へ移住してすぐに月例セミナーを開始してから毎月実施してきたのが三〇〇回目に達したわけです。それでそれを記念して今年の三月には東京本部で月例セミナー三〇〇回達成記念の特別セミナーを開催しました。

また東京本部では毎年一回秋に総会を開催します。これは全国から会員が二〇〇ないし三〇〇名ぐらい集まつて、

講演を聞いたり、テレパシー練習を行なつたり、いろいろなプログラムを楽しみます。夜は希望者だけで立食形式の大夕食会を開催して、親睦を深めます。

昨年の一〇月にはアメリカGAP主宰者で今回の大会にも出演しましたダニエル・ロス氏と、フランスから日本へ来て東京に住んでいるアダムスキー派の研究家であるミッシェル・ジルガ

ー氏に講演を行なつて頂きました。ミ

## 地

### 球にはスペーススピーブルが沢山いる

日本にはスペーススピーブルとコンタクトした人が沢山います。しかも円盤や母船に乗った人も少なくありません。しかし彼らはすべて黙秘しています。公表すればサイレンスグループに狙われて危険になるからです。ですから、スペーススピーブルにコンタクトしたり、彼らの宇宙船に乗せられたりした人は、世界でアダムスキーだけではないのです。これからみてもアダムスキーの体験が真実であったことがわかるはずです。

日本の東京にもスペーススピーブルは沢山います。しかし見かけは地球人と変わりませんし、服装も地球人と同じような服装ですから、誰も気づきません。私はこれまでにスペーススピーブルに会つたことが何度あります。日本だけではなくて外国でも会いました。アメリカのシャトルで会いましたし、イスラエルでも見かけましたし、バチカンのサンピエトロ大聖堂では修道士として働いていた金星人に会つて、案内をしてもらいました。

スペーススピーブルは世界中に沢山いるのです。私は今年五月に東京のある場所で若い女性の異星人に会いました。彼女も別な惑星から来た人のようですが、見かけは日本人タイプで、大変な美人でした。彼女は「私達のように明

るく楽しく、他人に親切にして生きなさい」と、私は示唆してくれました。彼女に会つたのはそのとき一回だけです、あととは会つていません。しかし東京の街ではスペースピープルが歩き回っています。みんなが何かの職業についていて、地球の状態を研究して地球の向上を援助しているのです。

## スペースピープルの見分け

私以外にもスペースピープルに会つたり見かけたりする人は、日本GAP会員の中に少数います。どうして相手を見分けるのかといいますと、まず相手のオーラを見るのです。異星人は地球人とは違う独特のオーラを放っていますから、それで区別することができます。次にテレパシーを応用します。たとえば異星人らしい人を見かけたら、声を出さないでテレパシーでもつて「あなたは別な惑星から来た人ですか」とたずねるのです。そうすると相手が何らかの反応を示すことがあります。

こんな重要な事実に地球上の大部分の人が気づかないで、いまだにアダムスキーをインチキだとか言っている人が多いのですから、地球人は盲目だと悲観的ではありません。以前にも申しましたように、来世紀になれば地球の文明は飛躍的に宇宙の方向へ向かうよ

うになりますから、今はムキになつて騒ぐ必要はありません。私達は静かに穏やかに活動を続けているだけです。

## テレパシーで呼んでUFOが出現

いわゆるUFOといわれる宇宙船も日本では多数見られています。特に日本GAPの会員はUFOをザラに見ますが、これは偶然に見るのではなく、テレパシーで空中に向かつて呼びかけるのです。「別な惑星からいらつしやいました宇宙の兄弟の皆様方、よろしければ姿を見せて下さい」という想念波動を送りますと、大抵の場合は出現します。そこで日本GAPでは、ときどき夜間に郊外の広い草地へ行って、UFO観測会を実施します。大勢でテレパシーで夜空に向かつて呼びかけるのです。するとUFOが出現することがあります。それを全員で歓声をあげながら目撃します。私自身は過去に無数のUFOを見ていました。偶然に見ることもありますが、やはりテレパシーで呼びかけて、それに応えて出現するほうが多いのです。

## デザートセンターで巨大な母船型UFOが出現

ついでながら、私達はかなり以前から毎年のようにカリフォルニア州のデザートセンターへ調査を行っています。ここは一九五二年一一月二〇日、アダ

ムスキーが金星人と会見した場所ですがこの場所は六年前に調査に行つたとき見つけたのです。それはコンタクトの当時に撮影された写真を参考にし

私達は三年前の一九九二年一月二六日、日本GAPから五名、ロサンジェルスでダニエル・ロスと合流して計六名が、またもデザートセンターへ調査に向かいました。

そして翌日の二七日、午後二時過ぎ、突然、左の西の方向から巨大な白い葉巻型の物体がゆっくりと飛んで来るのが見えました。一人を除いて五名が目撃し、そのうち三名は双眼鏡で見たのです。

その物体は翼が全然なくて、細長い形をしており、音もなく飛んでいました。その物体のうんと下方を一機の戦闘機が並行して飛んでいましたが、それと比較すると物凄く巨大な物体であることがわかりました。たぶん全長は数百メートルあるでしょう。胴体の中央より少し後ろの方に縦に黒いスジがあるのが見えました。あとは何もない真っ白な胴体です。

これは約三分間見えましたが、右の方向から別な戦闘機がそれをめがけて飛来したら、急に物体は消えてしまつたのです。これは不思議なことでした。大体にこの日はテレパシーで呼びかけたというよりも、私自身は何かどう

予感がしていたのですが、それが実現したわけです。一同は歓声をあげて祝福しました。この夜一同で祝杯をあげたのですが、そのときのワインがおいしかったことは言うまでもありません。

これからみましてもカリフォルニア州のデザートセンターが非常に意味の深い場所であることは間違ひありません。今年の一月にも若手会員達とともにデザートセンターへ行きましたが、このときには何も出ませんでした。スペースピープルは忙しいでしようから、そうたびたびはサービスして下さらな

いでしよう。

また私達はアダムスキーリ問題について、けつして狂信的にならないようになります。むしろ常識豊かな紳士淑女の集団として、礼儀正しい言動をなし、社会とよく調和して活動を続けようと努力しております。ですから、アダムスキーリ問題を攻撃する人達に対しても反撃するようなことはしないで、ただ信ずることだけで活動を続けようとしているだけです。

## 狂信的にならない私達

一つの絶対的な法則があります。それは「真実は必ず勝つ」という法則です。現在アダムスキーリは一般からほとんど顧みられない状態ですが、いつかは世界で最も偉大な人物として、万人の尊敬の的になるときが必ず来るもの

と確信します。

## 地球の未来は明るい

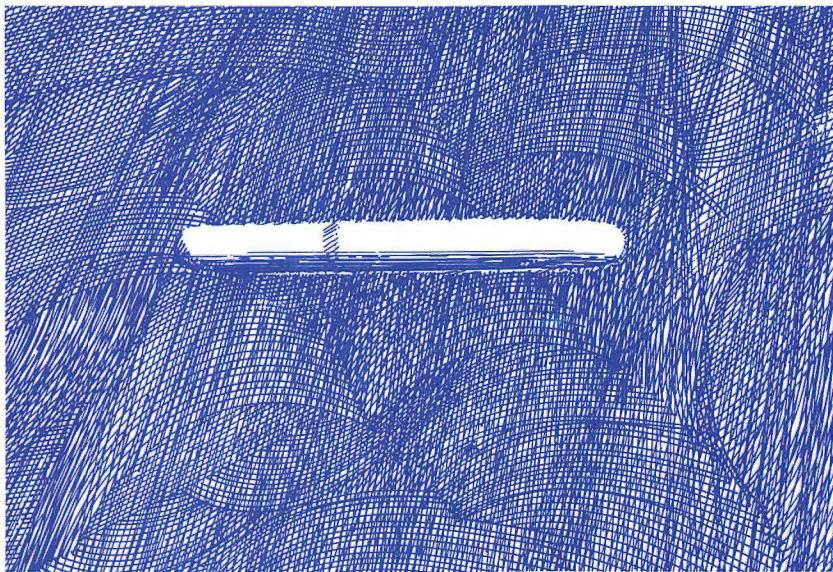
アダムスキー問題に関しては、アメリカでは彼の書物があまり出ていないようですから、詳細を知ることは不可能でしょうが、それはアメリカで出ている古いUFO関係の資料によつて、ある程度はわかると思います。またローチエスターUFO研究会主宰者のヴィリアム・シャーワッドも年齢を超えて活動を続けていますので、今後は彼もアメリカのUFO研究界のために、かなりの貢献をなすものと確信しています。

## 樂観的に前進

以上のような次第でして、私達は現在アダムスキー問題が一般に認められないからといって、けつして悲観的ではありません。むしろ明るい希望に満ちた想念と良きイメージを持ちながら活動を続いているのです。

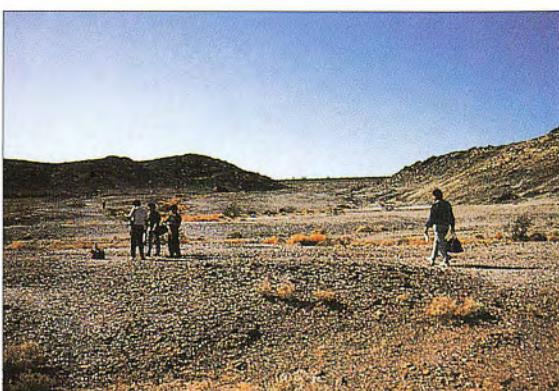
現在、世界のUFO研究界は混乱に満ちていますけれども、これは永久に続く現象ではありません。地球の社会は必ず良くなるのです。明るい希望をもつて前進しようではありませんか。ご静聴有難うございました。

## ●デザートセンターに 大母船型UFO出現！



▲1992年1月27日午後2時3分、デザートセンターのコンタクト地点に近い砂漠地帯に偶然集まっていたGAP調査団の頭上に、突然、葉巻型の物体が出現したのを加藤純一が発見。左の西方から右の東方へゆっくりと飛行する物体を久保田八郎、田中淳、篠芳史、ダニエル・ロスが目撃して一同驚嘆、歎声をあげて約3分間観測した。その内3名は双眼鏡で観測して翼等が全くないことを確認した。物体のはるか下方を1機の戦闘機が並行して飛んでいたが、それと比較すると物体の長さは数百メートルある巨大なもので、全体は白色。胴体の中央より少し後方に縦に黒いスジがついていた（これは別な惑星のマークであることが後日判明した）。双眼鏡で追跡しているうちに、やがて右手からスクランブルをかけるかのように1機の別の戦闘機が物体の航路に対して直角に接近したら、物体は不思議にも急に消滅した。

イラストは久保田八郎による。



▲コンタクト地点へ向かう。  
撮影／松村芳之



▲デザートセンターの砂漠地帯に到着した一行。  
撮影／松村芳之

## アダムスキー大会に出席して——久保田八郎

今回の大会は米ワシントン市のナショナル空港近くにあるホリデイ・イン・ホテルの一階の一室で九月八日から一〇日まで三日間開催された。

出演者は九名ばかりで、なかには私の知らない人達や、名前は知っているが初対面の人が多く、多彩な顔ぶれだった。ダニエル・ロス氏も講演者の名簿に名をつらねていたが、お父さんが急病のために急きよ参加を中止したと聞いた。残念だが仕方がない。したがつてプログラムの一部が変更された。

この大会は一般に宣伝して大ホールに数百名の聴衆を集めるのかと思つてみたら、そんな大がかりなものではないということだった。

会場は二階の五〇人定員ほどの部屋で、シャーウッド氏の主催するロチエスターUFO研究会のメンバーや国内外のアダムスキー派研究家仲間、UFO研究の友人知己に主催者が個々に通知して集まつた内輪の会合らしかつた。しかし国際色豊かな画期的な集会なのでUFO研究史に残るだろう。

私は初日から出席したが、元大統領を乗せた飛行機のパイロットだつたと

いう人が自分のUFO目撃体験を話していた。一方、同行した日本GAP旅行団はこの日、ワシントン市内観光に出かけたので、会場の人数が少なくて、パツとしない雰囲気だった。

ビル・シャーウッド氏がネクタイなしのラフな格好で司会をやつていたが、八〇歳というのに、すごく元気な人である。昔からの文通仲間だが会見はこれが最初。長くコダック社の光学関係技師をつとめていたが、今は引退して悠々自適の生活らしい。日本語の勉強をやつているというが、私の前で日本語を話そうとはしなかつた。ローダ夫人は明朗な人。

私は、メイン州からかけつけたアリス・ボマロイ女史と久しぶりに会つて、並んで座つていた。この人が私の知らない講演者のこといろいろと説明してくれる。

夕方は日本GAP旅行団一同でホテル近くの日本料理店において夕食会を開催。そのあとで私だけはまた会場へ出かけた。夜はシャーウッド氏の講演でアダムスキーの想い出話を続いた。

ここでは昔からの私の文通仲間でやはり初対面のジョン・ローリーー夫人（サンフランシスコ）とも会つた。大変愉快な婦人で、よく笑う快活な人。かなり若く見えるので「失礼ながら、

あなたの年齢を」と小声で聞いたら、「五五歳」と笑いながら答える。「えらく若く見えるね」と言うと、

アハハと大声で笑う。大体に四〇歳なればにしか見えない。明朗な人は健康で年をとらないという宇宙哲学的な生き方の見本みたいな人だ。いまはサンフランシスコの保険会社に勤めている

他のには、昔アダムスキーと一緒に円盤の8ミリ映画を撮影したマデリーン・ロドファー夫人も見えていた。白髪の多い上品な老婦人である。また、ヴィスターのアダムスキー・ファンデイションからグレン・ステックリング君も来ていた。昔の高校生の頃を知つてゐる私は、中年の堂々たる大男に成長しているのを見て驚いたが、彼は私をよく覚えていて、にこやかに挨拶した。彼は講演のあとでアダムスキー関係の写真をビデオで公開したが、これ

は良く出来ていた。

以前に日本へ来たデンマークのハンス・ピーターセンもいて、久しぶりに語り合つた。

大会初日と二日目は、各講演者がそれぞれの体験やら思想などを語つた。特別に驚くほどの内容を伝えた人はいなけれども、初めて見るマデリン・

夫人には二〇歳ぐらいのきれいな娘さんがいて、これがテープのBGMで歌をうたつた。

この女性はハワード・メンジールの奥さんであった。昔の写真で知つてゐる面影よりもかなり老けているが、若き日を思わせる風貌は残つてゐる。意識という言葉をひんぱんに用いて哲學的な講演を行なつた。

夫人には二〇歳ぐらいのきれいな娘さんがいて、これがテープのBGMで歌をうたつた。

が、私は昔からずいぶんこの人の話を聞いているので、目新しい内容ではない。スライドで美しい草花を次々と映写しながら素晴らしい宇宙哲学を淡淡と説いているのが印象的だつた。

二日目の午前、コニー・メンジール夫人がイギリス発音に近い格調高い英語で講演を行なつた。他の講演者達とは違うので、この人の英語は立派だねと、そばに座つていたアリスさんに言ふと、これは一流大学で高度な教育を受けた人の話し方なのだと言う。

夫人がイギリス発音に近い格調高い英語で講演を行なつた。他の講演者達とは違うので、この人の英語は立派だねと、そばに座つていたアリスさんに言ふと、これは一流大学で高度な教育を受けた人の話し方なのだと言う。

夫人がイギリス発音に近い格調高い英語で講演を行なつた。他の講演者達とは違うので、この人の英語は立派だねと、そばに座つていたアリスさんに言ふと、これは一流大学で高度な教育を受けた人の話し方なのだと言う。

▲主催者ビル・シャーウッド氏と共に。



## 一応、成功した私の講演

私の講演は二日目（九日）の夜八時から一〇時までとなつていた。胸がドキドキするのを極力押さえながら、マイク片手に大声で開始した。日本語の講演には慣れきつているものの、英語による講演は数年前にデンマークで体験しただけで、正直に言つてあまり自信はない。しかもアメリカという英語の本場の首都ワシントン市という場所柄か重圧を感じる。

しかし意外にもアメリカ人の聴衆は非常に冷静な表情で静肅に聴いている。全然聞き取れないのかと思つて、「あなたがたは私の英語がわかりますか？」と逆に聴衆にたずねると、前方の席にいるジョン・ローリーノさんがアハハと笑う。あとでわかつたのだが「ちゃんととした英語をしゃべりながら今更何を言つているの」と思つて笑つたらしい。

単なる原稿の棒読みになつてはいけないので、ときどき顔をあげて場内を見渡す。そして原稿に書いてないジョークをときたま即興でとばすのに誰も笑わない。そのたびに焦りがつのる。これを自己弁護的に解釈すれば「デザートセンターのアダムスキーコンタクト地点を見出した男」とプログラムに最も大きく紹介してある日本人が何を話すのかと、好奇心のかたまりになつていた米人達は、くだらぬジョー

クなどはやめて早く先をしゃべれとう「待ちの姿勢」が強かつたのだろうと思う。参加したGAP会員の川上純

君も後日そのように言つていた。

ついでながら同君のお父さんは某国駐在大使、お母さんがドイツ人なので、一見外人のように見えるが、実は慶大法学部出のれつきとした日本人。幼少時から外国生活が長かったので、日英両語を自由にあやつるバイリングuis

トである。

約五〇分間の講演が終わつてから、すぐにスライド映写に移つた。機械の操作は加藤純一、私の英文説明原稿を懐中電灯で照らすのは津田篤孝、映写画面とキヤブション番号を照合するのは川上純の諸君。今度は暗い室内で映画を見ながらしゃべるのだから気楽にやれた。

六五点のスライドを映写し終わつて、大汗をかきながら最後の挨拶をすると、意外にも盛大な拍手をあびた。一人の中年のアメリカ人男性が飛び出て握手をし、私にTシャツを贈呈してくれる。

シャツの表面には「WASHIN-GTON」と大書して国会議事堂の絵が描いてある。そのあと次々とアメリカ人達が挨拶にきて名刺を求めたりするので戸惑つてしまつた。そのうち上品な老婦人が近づいてきて、素晴らしい講演でしたねと言つて、どうさに誰だかわからず、「お名前をお聞かせ下さいませんでしょうか」と丁寧な言

葉でたずねたら、マデリン・ロドファーという。「ああ、あの有名なご婦人ですね」というと、彼女は楽しそうに笑つた。

私の講演が成功したのかどうか自分でもよくわからなかつたが、ふだんお世辞を言わないアリスさんが最大限の賛辞を呈してくれたから、たぶん成功だつたのだろう。私のみるところ、講演よりもむしろスライド映写が効を奏したと思う。日本と同様、現在アメリカでもアダムスキーキ問題があまり普及していないと聞いているので、東京月例セミナーの状況等の写真による日本GAPの活動ぶりに一驚を喫したにちがいない。またデザートセンターのコンタクト地点の写真も彼らには珍しく、同行して下さつた旅行団の方々は黎

明会幹事の加藤君の指示どおりにみんなで私にTシャツを贈呈してくれる。背広ネクタイ姿で盛装して礼儀正しく出席していた。ラジオ曲のRCAが二台のビデオカメラを持ちこんで取材した。日本側は、毎月東京月例セミナーのビデオを作製している伊東芳和君がワシントン市まで重い器材を運んで撮影してくれた。こうしてわが旅行団は終始万全の態勢で協力しあい、見事な成果をあげることができた。深謝したい。

## UFOを目撲!

同行した加藤純一君は日本でもひんぱんにUFOを目撲する特殊なタイプの人間だが、一〇日の昼頃、ワシントン市で私達が宿泊したシェラトンシティセンターホテルの自室にいた私の所へ、突然同君がやつてきて、いまUFOが出たからすぐ見にこいという。

飛んで行つて彼の部屋の窓から津田君とともに三人で見上げると、左の遠い空に白銀色の細長い物体が静止しているのが見えた。「母船だ！」三人で騒ぎながらしばらく目撲していたら、やがて消えた。

この他にも加藤君はワシントン市内で他の人達とUFOを見ているし、二日にニューヨークのエンパイアステートビルの展望台からもUFOを見つけて私に知らせてくれたので撮影した。スペーススピープルが私達を祝福しているのではないかと話しあつたが、今後も目撲は続くと思う。

り感謝したい。多彩なUFO研究家の中にあつて氏は全く中立の立場にあるらしい。温和で賢明な人だ。

多年のGAP活動の体験によつて、アダムスキーキ問題を主体にしたUFOの研究啓蒙活動の複雑困難さを今更のように感じるが、私としては今後もあらゆる障壁を乗り越えて前進するのみである。

▲9月11日午前10時10分から約10分間、ニューヨーク市のエンパイアステートビルの展望台から大勢で目撃したUFO。このとき4機出現し、中心部のUFOは赤く光り、大きく見えた。この写真的物体はその内の1機。左から右へ移動していた。撮影／久保田八郎。ニコンFE2。28~70mmズーム、70mm側。フジクロームセンシア100。これは写真の一部分。

## 大富豪のハワード・ディヴィッド・ウイツツ氏夫妻と再会

一〇日は一同でニューヨークへ行くために私も旅行団も大会を欠席し、夕方の飛行機でワシントン市を出発。ニューヨーク市に着いて、かねてから招待を受けていたディヴィッド・ウイツツ氏のお宅へ参上した。同行者は加藤君とアリス・ボマロイさん。

デ氏はニューヨークの五番街にそびえる超高層ビルのトランプタワーの上層階に住んでいる。ここは超豪華なマンションで、入口と一部の床は大理石。不動産王のトランプ氏が建てたビルで、内装はきらめくような豪華版。奥さんの邦子さんは一見外人のような美人だが、静岡県出身の日本人で、古くからの日本GAP会員であるために私達が招待を受けたのである。しかし私はご主

人と奥さんは以前にニューヨークと東京で何度もお目にかかるつているから旧知の間柄だ。

ここで日本食をご馳走になりながら愉快に歓談して楽しいひとときをすごした。デ氏はいまや新聞とテレビでひんぱんに紹介される不動産の大実業家として有名人だという。

翌日の一一日には一同で快晴下のニューヨーク市内を観光。ガイドさんの話によると、二年前に交替した市長が犯罪防止対策を強化したため、いまニューヨークは非常に治安が良くなつて、女性が一人で繁華街を夜間歩きまわっても安全であり、快適な生活を楽しめるという。市街の環境の良否は為政者できまるこどもを痛感する。

## 不思議な現象が発生

一週間という短期間だったが、きわ



▲エンパイアステートビル展望台から一緒に見たUFO。撮影／加藤純一（ビデオ画面を撮影したもの）



▲エンパイアステートビルの展望台から同時に撮影したUFO（ビデオ画面を撮影したもの）。物体は2個に分かれ見える。撮影／大曾根匡史

めて有意義な旅を終えてニューヨークから一三日に直行便で全員無事帰国した。途中下方の白い雲海に黒くて長いスジが投影され、先端に丸い影がつき、その周囲をニジのような光輝が見えるという不思議な光景が長時間展開したのを一同で窓から見た。これは絶対に飛行機の影ではない。日光で生じる飛行機の影ならば、主翼や尾翼等が映るが、そんなものは全くない謎の黒いスジである。数時間後に消えた。後日この写真を秋山眞人氏に見せたら、スペースビープルからの何かのサインではないかということだった。

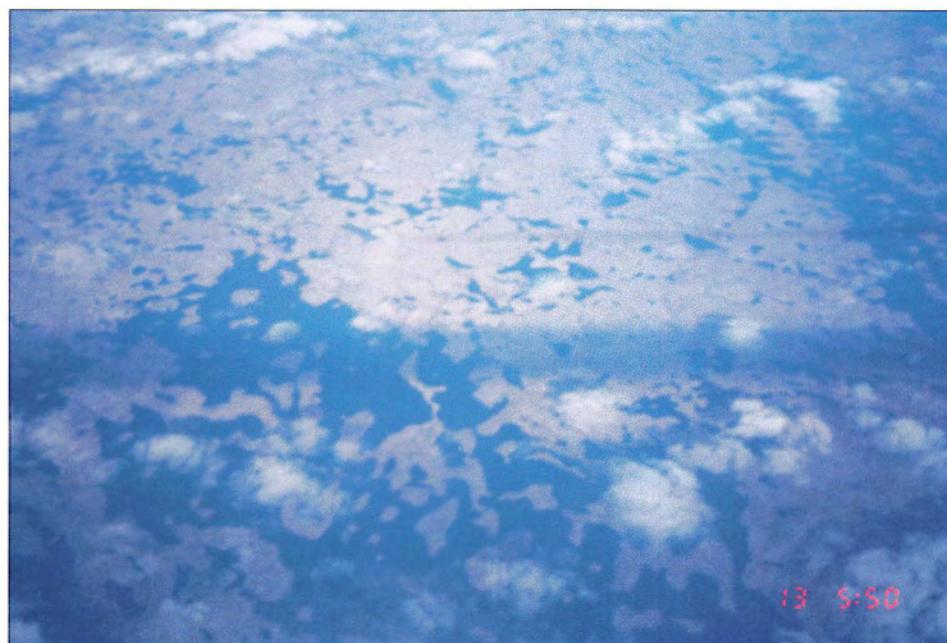
以前、デザートセンター調査を終えてロサンゼルスから帰る途中にも、海上にとてつもなく長くて黒いスジが出現したのを飛行機から目撃したことがあり、これを松村芳之君が撮影した。この写真も秋山氏に見せたら、針状母船の影だということだった。

地球の周辺には不思議な現象が発生し続いているのだが、一般人は空を見上げないのでほとんど気づかない。しかも目撃者の話を聞くだけで自分で現象を見ない人が、それは何かの誤認だと簡単にかたづけてしまう。こうして貴重な目撃例が葬り去られる例が無数にある。地球人が高度な洞察力を身につけるにはまだ数世紀はかかりそうだが、いつかはスペースビープル並みに進化するだろう。そのような希望を持ち続けて活動に専念したい。



▶右よりハワード・ティヴィッドウェイツィ氏、久保田ハ郎、アリス・ポマロイ、ティヴィッドウェイツィ邦子夫人。  
撮影／加藤純一

▲九月一二日、帰国途中カナダ上空で不思議な黒い細いスジが海上に出現。しばらくして別な太くて黒いスジが同時に下方に出現して長時間目撃された。これらは飛行機の影ではない。情報によると、こうした不思議な現象はどきたま旅客機の乗務員に目撃されるが、会社の箱口令（かんこうれい）によって口止めされているという。



撮影／加藤純一

# ワシントン、ニューヨーク両市で UFOがひんぱんに出現！ 加藤純一



Many UFOs Appearing over Washington D. C.  
and New York City!

by Junichi Kato

堂々たる講演  
今こうしてアメリカの旅を終えて私の心に深く印象づけられているのは、あの久保田会長の堂々とした大講演です。旅行参加者も全員、まるで会長と一緒に化したように、英語で語られるアダムスキー問題と日本GAPの活動について熱心に聞き入っていました。

の力で今まで日本GAPを指揮されたきたのだな、ということに気付かされましたようにも思います。ましてや久保田会長は今大会の他の講演者とは異なり、アダムスキー氏にも一度もお会いしていないにも関わらず、世界最大のアダムスキー問題の伝導者として、三十四年という長きに渡り日本GAPを組織し、継続されてきたのですから、私などは会長の信念の力とその偉業の前にただただひざまづくばかりです。

また会長はその間に多くの困難を越えながら、機関誌のUFO contacteeの他に英文版のUFCNの発行、8月に達成した東京本部月例セミナー三〇〇回達成（現在も記録更新中）、アダムスキー全集の刊行などの啓蒙活動によつて多くの人々の精神的指導者として休む間もなく活動してこられました。

また会長の講演は出席者全員がその内容を真摯に受け止めため、会場が水を打つたように終始静まりかえつたことでも印象深く、講演終了時にはたとえようのない感動を覚えました。私と黎明会代表の津田氏は会長と共に過ごす時間が多いため、今回の長旅の疲れが相当たまっている様子が手に取るようにわかつていました。そのため、会長の体調を心配していたのですが、最後まで講演をやり抜いた会長の不屈の信念を強く感じた次第です。そしてここ一番という時にこそ己の力を発揮することが真の実力であり、その力で今まで日本GAPを指揮されたきたのだな、ということに気付かされましたようにも思います。ましてや久保田会長は今大会の他の講演者とは異なり、アダムスキー氏にも一度もお会いしていないにも関わらず、世界最大のアダムスキー問題の伝導者として、三十四年という長きに渡り日本GAPを組織し、継続されてきたのですから、私などは会長の信念の力とその偉業の前にただただひざまづくばかりです。

また旅行中は度々UFOの出現があり、我々GAP旅行団のみならず地元のアメリカ人達も驚かせることになりました。今回の数回に渡る出現に関してもスペースビープルの方々の統制された指導系統が存在するということを強く感じました。また、彼らが単純に出没によって我々を喜ばせるという正式ではなく、その裏に殺意とした態度があるようを感じ取れました。

まず第一に会長の講演が終わるまでにどんなに晴れていても目撃出来なかつた事。大会第一日目の八日は観光の日で、特にアダムスキー氏の墓のあるアーリントン墓地の付近で出現するかななどと思っていたのですが、結局最後まで目撃出来ず、二日目も同様でした。（会長の講演はこの二日目の夜八時から行なわれました）

しかし、大会三日目の一日は朝から高尚なフィーリングがあり、津田氏と「今日は出るね」と語り合つていました。この日は午後からニューヨークへ出発のため集合時間の二時半までは自由行動でした。チェックアウトの約二〇分前の一一時二〇分頃、自室で外を眺めていた津田氏は母船型UFOを見つけておられるその巨大なテラマのほんの一部でも見えられる人間にになろう！ というそんな力強い勇気が湧いてくるようなご講演でした。

## UFOをひんぱんに目撃

また旅行中は度々UFOの出現があり、我々GAP旅行団のみならず地元のアメリカ人達も驚かせることになりました。今回の数回に渡る出現に関してもスペースビープルの方々の統制さ

れた指導系統が存在するということを浮かんでいるのを津田氏が発見後には消えるようにして見えなくなつてしましましたが、やはり予感は的中しました。すると一機は母船で、もう一機は母船から発射されたスカウトシップだったのでしょうか？

我々三人はチエックアウトの後、昼食を食べ、ホテルの周りを散歩しましたが、ファーリングは強く強くやつてきました。そしてこの日二回目の日撃は二時過ぎにホテル前まで帰つてきました。真っ白い円形の物体が我々の眼前の上空を一瞬横切つた。ロビーには清水正氏と黎明会のメンバーが居ましたのでUFOの件を伝えると、すぐに数人がホテルの裏通りへ

と走つてゆきました。私も用事を済ませてから少し遅れてゆくと、アメリカ人の若い男性もメンバーと共に上空を見上げているではありませんか！ 津

田氏は見事にカメラに收め、私も四機出現した内の一機をビデオに收めることが出来ました。特に最初の機体は青白く光つており、はじめて見るその不思議な光に驚いたことを覚えています。

また空中に突然出現した機体があり、それが中心的な役割をしているように感じたのですが、とにかく最後には編隊で三機がフォーメーションをとつて飛んでいたようでした。

この日と同じ出現の仕方が翌日のニューヨーク市内観光での目撃となるわけです。はじめに注意を引く機体が出現した後、今度は赤く光る機体が我々の眼前に現されました。その周りには二～三機ほど球形の物体を従えており、その様子はまさに前日の目撃内容と酷似するのです！ この時は大根田君がビデオを撮り、会長と私はカメラで数枚撮ることが出来ました。特にビデオの方は動きが良くわかり、光を発している様子も撮っています。その後、私が見た範囲ではその内の一機が我々一行の上空をつねに飛んでおり、エンパイアスカイビル前後、国連本部ビル近く（これは津田、西川両氏も目撃）と、五番街の上空でも強烈な光で合図している様子が目撃されています。その後

あのスカウトシップ群はどこへ行つたのでしょうか。

## 大母船が出現！

さて、この日のハイライトは夕食会後に大根田君と見た母船の出現でした。

その姿はアダムスキーフ氏が一九五二年五月一日にパロマーガーデンズから六インチ反射望遠鏡で撮影した金星の大母船と全く同じものでした！ しかも

船体がオレンジから黄金色に輝き、窓のようなものや、船体の線、くびれまで見えるのです！ まさに金星の大母船と同型ではないか！ あまりに突然のことでの大根田君と二人で道に転げ回つて喜び合いました。

その直後ハリウッドの映画俳優アーノルド・シュワルツェネッガーを追いかけて行つていた津田氏らが転げてゐる私共の所に戻ってきたので、今度は五人で一ブロック先へ走り確認すると、かなり上昇しているようでしたが、母船とはつきりわかる程度に船体全体が光っていました。近くにいたアメリカ人も一緒に目撃しましたが、その内の一人はなんとブロードウェイで現在上演中の「Cats」のチエロの奏者だということで、プロのベース奏者たちも喜び、これも縁というものです。

ノルド・シュワルツェネッガーを追いかけて行つていた津田氏らが転げてゐる私共の所に戻ってきたので、今度は五人で一ブロック先へ走り確認すると、かなり上昇しているようでしたが、母船とはつきりわかる程度に船体全体が光っていました。近くにいたアメリカ人も一緒に目撃しましたが、その内の一人はなんとブロードウェイで現在上演中の「Cats」のチエロの奏者だということで、プロのベース奏者たちは大喜び、これも縁というものです。

そのアメリカ人は二人ともアダムスキーフ氏のことは知らないと言つていまし

下さったので、我々日本GAPやアダムスキーフ問題が少しだけでも伝えられて満足しています。チエリストの方には後日Uコン英文版とビデオを送ることを約束し、こうして不思議な一日は終わつたのでした。

そこで一連の目撃から、先に書いた件について触れてみたいと思います。  
①ワシントン市で母船からスカウトシップを発射。

②ホテル裏通りで三～四機の円形UFOが出現。

③翌日ニューヨーク市内で②と同じようにして数機のUFOが連続出現。

④その夜に母船が出現。スカウトシップはこの母船に帰つて行つたのだろうか。

これら①～④については私と津田氏が全てを目撃しています。そしてこの出現では、母船～スカウトシップ（スキンニングディスク）～母船というシステムを我々に見せ、また同時に彼らの統制された指揮系統が存在することを氣付かせる目的があつたように思います。ちなみに、今までの旅行の中で、こんなにたくさんの出現を目撃出来たのははじめてです。

旅行を締めくくる現象として、帰国途中の機内から二時間に渡り目撃出来た巨大な影？は彼らスペースピープルからのサインだったのでしょうか。その影の先端には美しい虹が見え、まるで旅行団の調和をあらわす象徴のよう

にも見えました。

これら一連の出現は次のような確信を私に与えてくれました。

保田会長と日本GAPを見守つていらつしゃる。

①スペースビープルの方々は確実に久

じた。

②今回の出現はかなり大規模な計画になつた。

③その出現に関しては一定の特徴があつた。

④この出現計画を指揮する統制されたスペースピープル側の強い意図を感じた。

以上のことは国際的に活躍された久保田会長をはじめ、参加された会員の方々全員の名譽であると思います。そ

して目撃の際にはいつもあの「ハイ、リング」が大きな役割を果たしたことを見記致します。思うに日常生活に追われて、上空に意識を向けなくなると心はそれに慣れてしまい、彼らの宇宙的なフレーリングを受信しにくくなるよう

です。旅先では充分リラックス出来、心を解放し、宇宙の意識と一体化する

よう努めていましたので、いつもの感覚が戻つてきたのです。それによつて心の受信アンテアが広がつたのだと解釈しているのですが。

さて、大会は三日間行なわれました

が、日本GAPでお馴染みのアリストマロイ女史が二日間に渡り講演とスライド映写をされました。今回の大会に関して後日ポマロイ女史が語つた言

葉は、実際にアダムスキー氏と関わってきた一人の人間としての大変重みのある内容でした。それは「当時アダムスキー氏の周りには多くの支持者や弟子が集まつたが、それぞれの関心的のが別々であった」ということでした。

つまり久保田会長やポマロイ女史は哲学方面へ、ある方は金星文字の解説、またある方は思い出話、という風に、今回集まつた講演者同士も、もちろん友人ではあります、それぞれが別な方向を見ている、ということを示唆されたのです。

### アダムスキーが伝えたこと

私は夕食会の席でこの話をお聞きしてからアダムスキー氏は一体何を伝えるために地球に生まれてきたのだろうと考えていました。彼らの使命は何だったのかと。答えは会長による月例セミナーやアダムスキー全集の中にあるました。またポマロイ女史も八三年度の日本GAP総会の席上で我々会員に向けてこう語っています。

「彼が何度も述べていたことです、大切なのは話題の的になつた宇宙船の来訪ではなく、この地球の人類の向上のためのメッセージであり、これが最も重要だということです。」中略「プラザーズは宇宙の法則が全人類に開かれることを望んでいたのです」

これらの事実に直面する時、やはり日本GAPの活動の素晴らしさと、そ

れを指導されてきた会長の手腕に対し

て、感謝の念がこみ上げてきます。そして実際私もアダムスキー哲学との出会いにより今まで決して得ることの出来なかつた心の平安を得て、宇宙の意識という時間にも空間にも束縛されない偉大な存在に気付くことが出来ました。いまだにアダムスキー氏の主張に異議を唱える人々がいる中で、彼の真意が遠くで見え隠れしているのです。

そしてその真意を知り、実践してゆくことが我々人類の新しい第一歩な

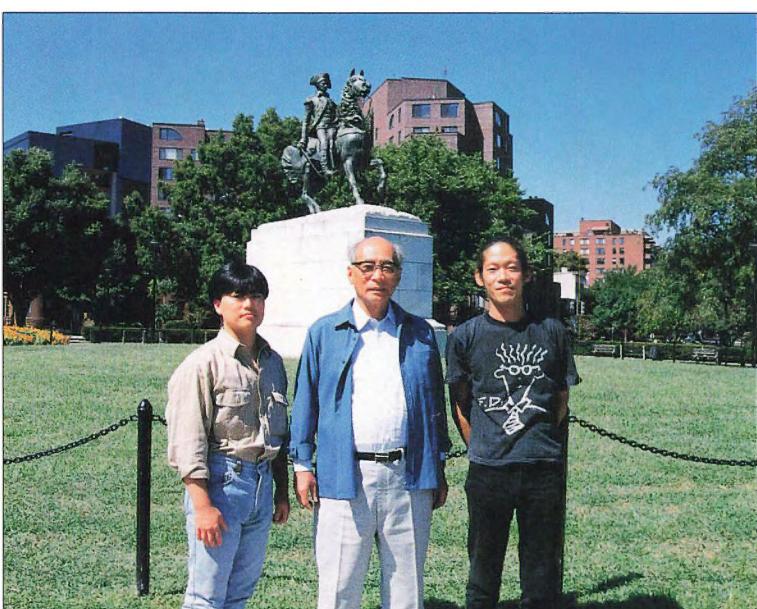
かもしません。このように会長が一貫してアダムスキー問題を提示し続けられていることの意義が極めて重要なのであるということが私にはようやく理解出来たようになります。そしてこのような良きレッスンの場を与えて下さり、なおも活動を続けられている七歳の久保田八郎という一人の男の生き様を金星や土星のマスターの姿に重ねてしまふ今日この頃です。そして微弱ながら会長のお手伝いが出来たことを誇りに思います。久保田会長、本当にご苦労様でした。きっとスペースビーブルの方々も見守つて下さったことでしょう。そして今回この黎明会企画の応援旅行に参加して頂いた会員の皆様と、旅行社の小林社長をはじめ激励して下さつた支部代表の方々に心からお礼を申し上げると共に、旅行の報告とさせて頂きます。

### 付記

旅行出発前の九月三日の午後四時に海外出張から戻つた弟と二人で白金色に光るUFOを目撃しました。この時は近所のおばさん数人も同時に目撃しております。

弟はこの目撃により、二人がまだ幼稚園に行く前の幼い頃、巨大なオレンジ色に輝く橈円形のUFOを私と共に見たことを思い出したと言っています。

た。七月、八月とスランプ気味で、いつものように目撃出来なかつた私でしたが、この一件で彼らは幼い頃からずっと私を見守つていて下さつたのだと思つて、久保田先生、これからもご指導のほどよろしくお願いと確信しました。このあたたかなフィーリングを忘れずにこれからも前進してゆこうと思います。久保田先生、これからもご指導のほどよろしくお願いと確信します。



▲1995年9月10日、ワシントン市のジョージ・ワシントンの銅像をバックに、左より加藤純一、久保田八郎、津田篤孝。通りかかった見知らぬアメリカ人に撮影を依頼。このあとホテルに帰ってまもなく付近でUFOの出現騒ぎが発生した。

I Saw UFOs In  
Washington D.C.  
by Tadashi Shimizu

# 私もワシントン市でUFOを見た

清水 正（横浜支部代表）

今回の旅は日本GAP内部の若手会員で組織している黎明会主催ということ。若い方々にすべてをパワーフルに久保田先生のお手伝いをして頂きました。このことは旅行の少し前から理解していましたので、旅行は私が考えていましたが、順調に素晴らしい旅ができました。本当に黎明会の方々には役割分担、旅行での管理の仕事等で大変お世話頂きました。ありがとうございました。

アダムスキー大会は小規模ながら、昔からアダムスキー氏を知る方々が集合されて、ゆったりとした時間の中に次々と講演が行なわれました。しかし言葉の理解ができないために講演内容がわからず、それ以上にアダムスキー氏を知る他の人達やアメリカの若い方々と交流してお話をうかがいすることができます。なかつたのは大変残念です。こんなこと

を言つても何とも仕方のないことですが。二つの成果があります。一つはワシントンでのUFO目撃。三泊したシェラトンシティーセンターホテルで、そろそろここを出ようと待機していたときに、ロビーに来た『UFO男』こと加藤純一氏が、まだUFOが見られるというので外に飛び出したところ、見事に上空にUFOが出現しているのを目撃！ 次々と仲間が加わって一緒に見ることができました。

二つ目はニューヨークで姉の家に一泊してすごしたとき、義兄がアメリカ人で、この人からUFO問題について質問を頂いて、これに答えましたが、ここでは宇宙哲学については一〇〇パーセント信ずると言つてくれたことです。こんなにゾクゾクして話をしたのは久しぶりでしたので、来て良かつたと思っています。

全体を通じてこの旅行はアダムスキー大会が中心でしたので、大会スケジュールもあって、かつてのGAPの海外旅行のような束縛された団体行動ばかりではなくて、各自の自由行動が多くあり、少人数で好きな場所へ行けたことがまた良かったと思います。旅行のおかけをもちまして、いつもの習慣的な生活から離れて自分を見つめ直すことが出来ました。その結果はやはり可能性と喜びだったのではないかと思います。



▲1995年9月10日（日）午後2時20分頃から約10分間、ワシントン市ニューハンプシャー通りにあるシェラトンシティーセンターホテルの左側の上空に4機のUFOが出現。これを加藤、津田、清水、久保田、その他アメリカ人も加えて大勢で目撃した。これより約3時間前にはホテルの窓から加藤、津田、久保田の3名が巨大な白銀色の母船を確認している。右側の建物は旅行団が宿泊したホテルの1部分。撮影／津田篤孝

# カイパーベルトは アダムスキーの主張を 立証するか

Does Kuiper Belt Prove  
Adamski's Caimes  
to be True?

by Junichi Ueki

◎ 植木淳一

ジョージ・アダムスキーによれば、  
我らの太陽系には九個ではなく一二個  
の惑星があり、そのいずれにも人間が  
居住して大文明を開いているという。  
ということは太陽の放射線は距離の二  
乗に反比例して弱まるという物理学の  
法則とは無関係に悠遠の惑星にまで均  
等に熱と光が与えられていることにな  
る。

これに関してアダムスキーはテレビ  
受像機のプラウン管を例にあげて、正  
の第一アノード、第二アノード、第三  
アノードが負の電子ビームを吸引して  
加速するのと同じように、正負が逆で  
はあるが似たようなシステムによって、  
太陽系にも火星と木星のあいだに第一  
アノードに相当する第一アステロイド  
帯があり、これが正の太陽のビームを  
負電荷の第一アステロイド帯が吸引加  
速し、海王星と冥王星のあいだに存在  
する負の第二アステロイド帯がさらに  
ビームをさらに吸引加速しているから、  
全一二個の惑星群に均等に熱と光が与  
えられているのだという（詳細は新ア  
ダムスキーアルバム第六巻「UFOの謎」  
に収録。中央アート出版社刊）。

ところが近年、海王星の外側に第一  
アステロイド帯と思われる小惑星群が  
発見され初めて俄然天文学者の注目を  
とつてカイパーベルトと呼ばれている。

ジョージ・アダムスキーによれば、  
我らの太陽系には九個ではなく一二個  
の惑星があり、そのいずれにも人間が  
居住して大文明を開いているといふ。  
ということは太陽の放射線は距離の二  
乗に反比例して弱まるという物理学の  
法則とは無関係に悠遠の惑星にまで均  
等に熱と光が与えられていることにな  
る。

ここで、皆様の信念にプラスとなる  
G. アダムスキー氏の著述に関して、  
その真実性を証明すると思われる天文  
学的事実が、また一つ加わりましたこ  
とをご報告させていただきます。

最近になって、天文学界でも第二ア  
ステロイド帯（カイパーベルトとい  
う）の存在に関心をもつ人が増えてき  
ました。現在のところ海王星の外側と  
いう、太陽系のいちばん外側に軌道を  
もつこれら小天体群の発見は、一九九  
二年からはじめました。その最初の  
ものは1992QB1（直径200km  
m=250km）として知られ、以後、  
1993FW、1993ROなどが  
続々と発見された結果、一九九五年六  
月末現在では全部で二四個になってい  
ます（表1参照）。これらの天体は、  
太陽系最外側の海王星より遠方にある  
ため、超海王星天体とも呼ばれます。

この天体群が一九九二年にな  
つて発見されるようになったのは、高  
感度CCD素子（荷電結合素子）の利  
用があげられます。

この全容が解明されればアダムスキーの言説の正しかったことが証明されることになる。以下は日本GAP会員の植木氏が豊富な資料を駆使して解説した科学記事。

●第二アステロイド帯の存在を書で予言していたアダムスキー氏のアダムスキーアルバム第六巻の中では、太陽系の構造とその中に存在する三つのアステロイド（小惑星）帯について述べています。（図1参照）これは、アダムスキー氏が著した「さらば空飛ぶ円盤」の内容だと訳者の久保田先生からうかがっています。

これら天体群の発見により、アダムスキー氏の述べる「二つ目のアステロイド帯」の存在が「今や明確になりつつある」ため、今後、彼の証言への信頼性と注目度が、飛躍的に高まるこ  
になるでしょう。

このような新天体が一九九二年にな  
つて発見されるようになつたのは、高  
感度CCD素子（荷電結合素子）の利  
用があげられます。

この電子素子は、最近のビデオカメラにも使用されていますが、この発達  
により、CCDを装着した口径20cm  
の望遠鏡が、過去の5m反射望遠鏡  
に匹敵するくらいの能力になつたと  
「天文学を変えた新技術」では述べら  
れています。つまりそれだけの高感度  
で宇宙空間を観測できるようになつた  
のです。

以下、「カイパーベルト候補天体  
群」発見の経過から、それが第二小惑  
星帯である可能性、さらにアダムスキ

## ブラウン管と太陽系との比較図

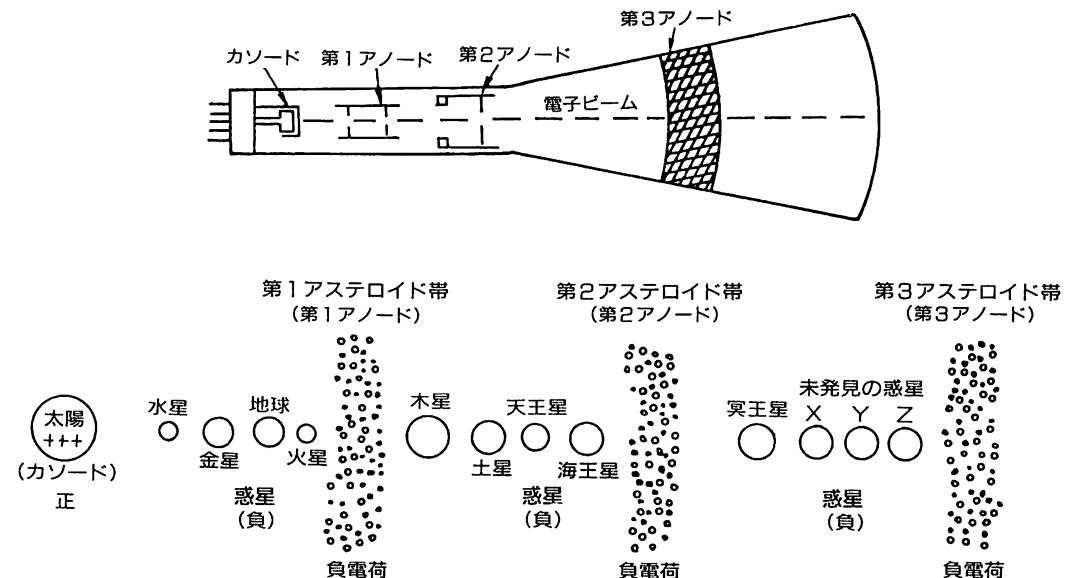


図 1

### ●最初のカイパー・ベルト候補 天体の発見

一氏の述べる「アステロイド帯の機能」に関するかもしれない天文學的發見について述べさせていただきます。

ハワイ大学の D・ジェウイット (Jewitt) とカリフォルニア大学の J・ルー (Luu) は、一九九二年八月三〇日に、マウナケア山頂にあるハワイ大学天文台の 2・2m 反射望遠鏡に CCD を接続して観測した結果、春分点付近で二二、八等級の微光天体を発見しました。この微光天体は毎時三秒 (角度) の速度で逆行していたのです。この報告を受けた B・G・マースデンは、それを小惑星に準じて「1992 QB1」と命名しました。さらに彼は、四ヶ月間この天体を観測した世界各地の天文台の測定データを元に暫定的な軌道要素を算出したのです。

その結果、この微光天体は、太陽から最も遠ざかった場合には四四・四天文単位 (太陽 - 地球間の距離の四四・四倍。六六億四千十三万 km) の距離に位置し、最も太陽に近づいた場合には、三九・六天文単位のところを公転していることがわかりました。

ここで、一天文単位というのは、太陽と地球の間の平均距離を「とした単位で、約一億五千万 km です。(— A U とも書きます。) たとえば、現在、太陽系の第八番惑星である海王星は、

1992 QB1 が発見されたとき、太陽系の最外側に存在することから「第一〇番惑星」の発見ではないかと騒がれました。しかし後に、天体の直径がその明るさと距離から推算されると、直徑二五〇 km 程度の大きさなので、彗星の核にしては大きすぎると、惑星としては小さすぎるということがなりました。

とはいっても、小惑星に関しては今でも大きさがそれほど正確には計測されていないのが現状です。さらにこの天体の場合、非常に遠方にあるため、その「大きさ」にはかなりの誤差が含まれているとみてよいと、ある国立天文台職員は言つていました。

ちなみに地球の赤道直徑は一万二七五六 km、太陽系最小の惑星である冥王星の直徑は二三〇〇 km 程度と計測されています。また 1992 QB1 は、小惑星としては既に発見されているジュノー (直徑二四〇 km) と同程度の大ささとなります。

### ●短周期彗星の供給源への考察とカイパー・ベルトの命名

これまで、主として火星と木星の間に小惑星が多数存在することが知られていました。しかし、その小惑星帯と

は別に、太陽から数えて一番目に位置する小惑星帯に関しては、天文学会では太陽周囲を回る短周期彗星の遠日点の分布から、海王星の外側に「彗星の巣」となる微小天体群があるのでないかという「仮説」として考えられていました。

天体写真などで見かける彗星は、そうした微小天体が太陽の近くにやつていて太陽の放射により熱せられ、含まっている水分やガスが宇宙空間へ放散するので、あの独特の尾ができます。しかし、それが太陽より遠方にある場合には、そうした放散がないので、小天体として個体の状態で存在しているのです。つまりカイパーベルトくらいの位置に存在する小惑星は、このような意味で彗星核と考えられます。

ここで説明の都合上、彗星に関して少し知識を補足したいと思います。  
ご存知のように彗星には二つの種類があります。

一、周期彗星 これは、定期的に太陽近くに戻ってくる彗星で橢円軌道をもつ。軌道周期が二〇〇年以下が短周期彗星、それ以上を長周期彗星といいます。

二、それ以外の彗星 放物線軌道や双曲線軌道をとり、一度太陽に接近した後遠ざかり一度と戻つてこない彗星。

オランダのJ・H・オールトは、放物線やそれに近い細長い橢円軌道をも

つ彗星の原始軌道を調査し、一万一千天文単位のところに、総計一千億から一兆個に及ぶ彗星の巣があるといいました。またそれらは、太陽系の生成期に存在した微惑星（＝小惑星）や宇宙塵の残存物と考えられています。

前述のように、周期彗星は太陽の周囲を橢円軌道を描いて回っている彗星ですが、その例としてハレー彗星があげられます。それは七六年周期で太陽の近くに戻ってきては、また宇宙のかなたに橢円軌道を描いて遠ざかって行きます。この軌道で最も太陽から遠ざかる位置のことを遠日点といいます（ちなみにハレー彗星の遠日点は三五・三天文単位です）。

ところで、長周期彗星の遠日点の分布は球状であるのに對して、短周期彗星の遠日点の分布は惑星の公転面と同じ黄道面上に分布しているので、その起源は別のものではないかと思われています。

こうして軌道を計算された短周期彗星（現在二〇〇個くらい発見されている）のうち、遠日点が海王星軌道の外側に位置するものがいくつか存在したので、その辺りに短周期彗星を供給する帶状の「彗星の巣」があるのでないかと考えられたのでした。

行する小惑星が、相互に引力を及ぼし合ったり、近くを通過する惑星などの天体が約二〇〇〇個発見されています。もちろんさらに直径の小さなものの説を一九五〇年に発表しました。それは太陽系を球状に取り囲んでいると考えられ、「オールトの雲」と呼ばれていました。またそれらは、太陽系の生成期に存在した微惑星（＝小惑星）や宇宙塵の残存物と考えられています。

外側に位置する「彗星の帯」仮説に相当する候補天体が次々と見つかってきました。そのため、この仮説を一九五一年に提唱した米国天文学者のジエラード・カイパーの名前をとつて、天文学者達は「カイパーベルト」と呼ぶようになりました。また、カイパーベルトはもつと遠方に存在するオールトの雲が、黄道に沿って太陽系内側に入り込んだのです。また、カイパーベルトはもとの直径九〇kmから二九〇kmの大きさのものなので、まだ未発見のものが今後次々に発見されることを想定すると、カイパーベルトの中にも火星と木星の間に存在する小惑星帯と同じように、さらに小さな微惑星や小惑星が多数存在していると想像してよいのではないかでしょうか。

直徑一〇kmから一〇〇kmの大きさの天体が約二〇〇〇個発見されています。もちろんさらに直径の小さなものは、もつと多く存在しているはずです。（「天文の事典」平凡社）

いつまでも、カイパーベルト候補天体は、まだ二四個しか発見されていないので、とても比較できる段階ではないのですが、今まで発見された天体のいづれもが直径九〇kmから二九〇kmの大きさのものなので、まだ未発見のものが今後次々に発見されることを想定すると、カイパーベルトの中にも火星と木星の間に存在する小惑星帯と同様の小惑星帯ではないかと考える学者もいるようです。

しかし、アダムスキーウィー氏の言うように、第十、十一、十二番惑星がカイパーベルトより外側に存在した場合には、惑星の引力のため小惑星の軌道が乱され、これらの惑星の近隣には小惑星はほとんど存在しなくなるはずです。それで、この場合、小惑星帯が存在するには海王星外側近くの軌道に集中している可能性が高いと考えられます。

## ●カイパーベルト候補天体数の予測

雑誌「ネイチャ」一九九三年四月号には、「カイパーベルト候補天体1992QB1の発見」と題する記事が掲載されていて、そこに発見者のジエウイット氏とルー氏の論文が掲載されています。

彼らは「これだけから推定することは難しい」としながらも、〇・七度角の範囲で一つの天体が見つかることにより、黄道から南北四度の範囲には、同様の天体が四×三六〇一一、四四〇（個）以上見つかるだろうとの予測をしています。

そこには軌道要素の分かつてある直径一〇〇km以上の天体が約二〇〇個、

### ●カイパーベルト候補天体の発見は、第一のアステロイド帯の発見か？

小惑星帯はこれまで、火星と木星の間に存在することが知られていますが、そこには軌道要素の分かつてある直径一〇〇km以上の天体が約二〇〇個、

また、一九九五年四月号のネイチャーフィードでは、「最初の七個のカイパーカー天体が一・二度角の範囲で発見されたことにより、直径一〇〇kmを越える天体は、黄道から緯度で八度以内の範囲、三〇一五〇天文単位の距離に約三五〇〇〇個存在するだろう」との見解を掲載しています。

一九九五年六月一六日付けの朝日新聞の夕刊には、NASAが行なったハッブル宇宙望遠鏡を用いたカイパーベルト天体の観測結果が掲載されています。それによると「全部で二億個以上の小天体が太陽を広く円盤状に取り巻く形で存在している」という結論が得られたと述べられています。

また、パソコン通信のコンピューターには、天文のフォーラムがあります。この中にある「SKY AND TELESCOPE'S NEWS BULLETINE 22-Apr-95」には、HSTにより約二八等級の明るさで直径二〇km程度の大きさの、カイパーベルト天体を観測したことが書かれています。この観測による試算では、「黄道付近で緯度四度以下の低い軌道には、約一億個の短周期彗星の核があることになる」と述べています。

以上の状況証拠から、カイパーベルトに関する今後多くの天体発見の報告があるはずなので、その小惑星帯としての存在は確かなものになりつあると思われます。

## ●すばる天文台稼働への期待

一九九三年一二月の天文月報（日本天文学会 VOL86. NO.12）には、カイパーベルト天体の発見にちなんで、新しく国立天文台がハワイに設置する、口径八mの大反射望遠鏡「すばる」のことが記述されています。

同記事の執筆者である国立天文台員の渡部潤一氏は、海王星外側に新しく天体が発見されたことにより、海王星外側に存在する天体探しをこの大型望遠鏡で行なおうという意欲を示しています。その理由として、

一、八mクラスの大型望遠鏡で彗星探索のできる「主焦点広視野サーベイメード」が行なえる目的で設計されているのは「すばる」だけであることです。このモードは明るく広い視野で観測が行なえるので、遠方の小惑星や惑星、彗星などの探索に適している。

二、CCD素子をモザイク状にたくさん並べ、一挙に広い視野をカバーできるモザイク型撮像装置を開発しているが、このCCD装置は天体の探索効率を飛躍的に高める。

三、カイパーベルトは天体の数が多量にあるため、天体相互の軌道問題など様々な研究課題対象となりうる。

四、カイパーベルトの研究は、太陽系の創成期に沢山あったと考えられる

「惑星を作り上げた微惑星」の残存物の研究として、太陽系起源論への新たな問題提起となります。

五、すばる望遠鏡は、ハワイ大学の二・二m反射望遠鏡に比較して、二八等級の天体まで探索でき、同じ天体を十分の一の時間で検出できる。また、1992QB1クラスの天体を百天文単位の距離まで発見可能であり、同じ距離なら直径五〇kmくらいの天体まで検出できる能力をもつていて。

などをあげ、『カイパーベルト天体の発見を、今後はすばるで独占できるのではないか』と述べています。

また、最後に「夢追い人の夢は、世界に類を見ないすばる望遠鏡のオリジナルな重点計画の一つとして、この種のサーベイ計画を実現させることだ。そして、その夢の実現は近い」と結んでいます。

アダムスキーグリッドによると、これらの三つが存在するといいます。

これらアステロイド帯は負であるため、正である太陽放射線を引き寄せて、その速度を増加させます。これは、その構造が增幅用真空管やプラウン管のグリッドのように隙間が多いため、太陽からの放射線を加速しながら通過させてしまい、さらに最外側に存在するアノードの役目を果たす第三アステロイド帯により引きつけられてゆきます。

こうして、太陽から遠く離れた第一二番惑星まで充分な太陽エネルギーを到達させるのに役立っているというのです。

アダムスキーエネルギー全集には、「あらゆる惑星がそうであるように、これらの惑星群も本来は負があるので、光と熱を得るために必要な正の微粒子を宇宙空間から引き寄せる。」（『UFOの謎』

れる太陽からのプラズマ流は、水素原子が電離した陽子主体の陽電荷と、自由電子の混在したものに太陽磁場が付随したものとなっています。それが地球などの公転面である黄道面に沿って、太陽系周辺部へ秒速300kmから80kmの速度で流れていることが感

物の研究として、太陽系起源論への新たな問題提起となります。

アステロイド帯は、

一、火星と木星の間

二、海王星とその外側の冥王星の間

三、太陽系の一番外側

アダムスキーグリッドによると、これらの三つが存在するといいます。

これらアステロイド帯は負であるため、正である太陽放射線を引き寄せて、その速度を増加させます。これは、その構造が增幅用真空管やプラウン管のグリッドのように隙間が多いため、太陽からの放射線を加速しながら通過させてしまい、さらに最外側に存在するアノードの役目を果たす第三アステロイド帯により引きつけられてゆきます。

こうして、太陽から遠く離れた第一二番惑星まで充分な太陽エネルギーを到達させるのに役立っているというのです。

アダムスキーエネルギー全集には、「あらゆる惑星がそうであるように、これらの惑星群も本来は負があるので、光と熱を得るために必要な正の微粒子を宇宙空間から引き寄せる。」（『UFOの謎』

「惑星の大気中の無数の微粒子はその通過された太陽の放射線によって刺激されると、可視光線を放つのである。大地はこれらの放射線を吸収し、かわりに赤外エネルギーを放つ。こうして放たれるエネルギーが惑星を直接取りまいている大気を活性化し、それによつて熱が生じ、これが惑星を暖かく保つのである。」（『UFOの謎』二八頁）と書かれています。

アダムスキー氏はさらに、これらアステロイド帯は、太陽系の中で惑星を生み出す子宮のような役割を持つていると言います。

この説は、天文学でいうところの、惑星が微惑星の衝突集合により生まれたとする惑星誕生説にも合致する部分があるようです。しかしそれはアダムスキー氏の言うように、惑星がアステロイド帯の中で誕生したという考え方にはまだ至つていません。

### ●アステロイド帯の働きの傍証となる現象①

ここで思い起こされることは、惑星探査機ボイジャー一号がアステロイド帯を通過した時に、搭載していたプラズマの温度計測器が高温を測定したというニュースがありました。（ダニエル・ロス著「UFO—宇宙からの完全な証拠」中央アート出版。四二〇頁参考照）

宇宙空間での高温度というのは、粒子の持つ運動エネルギーをあらわしていて、地上で計測する温度とは別の意味を持ちます。しかし、そこで空間のプラズマが高いエネルギーを有しているという観測結果は、前記のようなプラズマを加速する特殊な機構が作用した結果と考えた方がよいでしょう。

雑誌「日経サイエンス」一九九五年六月号には「太陽圏の果てを求めて」と題して、太陽の力が支配的な領域（太陽圏・ヘリオスフェア：太陽風と太陽磁場の及ぶ範囲）末端部への探査報告がされています。それによると、海王星の軌道を越えてはるか外宇宙への旅をし続けているバイオニア一〇号、一号、ボイジャー一号、二号の四つの探査機は、太陽から放出されたプラズマ粒子と太陽磁場を伴つた太陽風が、秒速四〇〇kmという平均速度で、海王星を越えた数十天文単位の果てまで及んでいることを発見したといいます。

ご存知のように、太陽を発した太陽風は地球近傍で一〇万度の温度をもち、平均速度が秒速三〇〇一八〇〇km（磁場の方向の変わり目で早い）といふ速度で、渦巻き状に太陽から遠方に放出されています。ところが今回の調査で、太陽風はその速度がほとんど衰えずに、太陽から大変遠いとされる海王星のはるかかなたまで到達していることが確認されたわけです。

いずれにしても、太陽重力に抗して太陽プラズマが地球と太陽間の距離の数十倍のところまで、速度が衰えずに到達するためには、何らかの加速力がこの長大な距離間に作用していなければ説明がつかないでしょう。

天文学者達はこの理由として、太陽圏の外縁、つまり銀河系空間との界面にある「衝撃波帯」（ヘリオボーズ）や、太陽風中に生じる磁気波動（アルベーン波）にその加速原因を求めていますが、私たちはアダムスキーの言う三つのアステロイド帯が、もしかしたらその遠達力の原因ではないかと期待できるように思われます。

### ●異星人から伝えられた太陽系内の変化②

本誌第九六号の一三頁には、アダムスキー氏がスペーススピーブルから与えられたとされる書簡が掲載されています。

この書面には、上段左に太陽系の惑星らしき図が太陽を左端にして描かれ、その二つめの惑星に印が付けられていますので、「金星」からもたらされたものではありませんか？ という推測ができます。

私は当初、この書簡に関しては宇宙文字で書かれていて読めないので、太陽とそれに連なる惑星の配列にしか興味がありませんでした（ちなみに、この図によると、第九、一〇、一一番惑星は、地球と同じ小さな惑星であるのではなく、太陽から見て左側に位置する惑星のどれかが崩壊する」という印象にとれました。もちろん三つ全部が崩壊するわけではないのでしょうか？

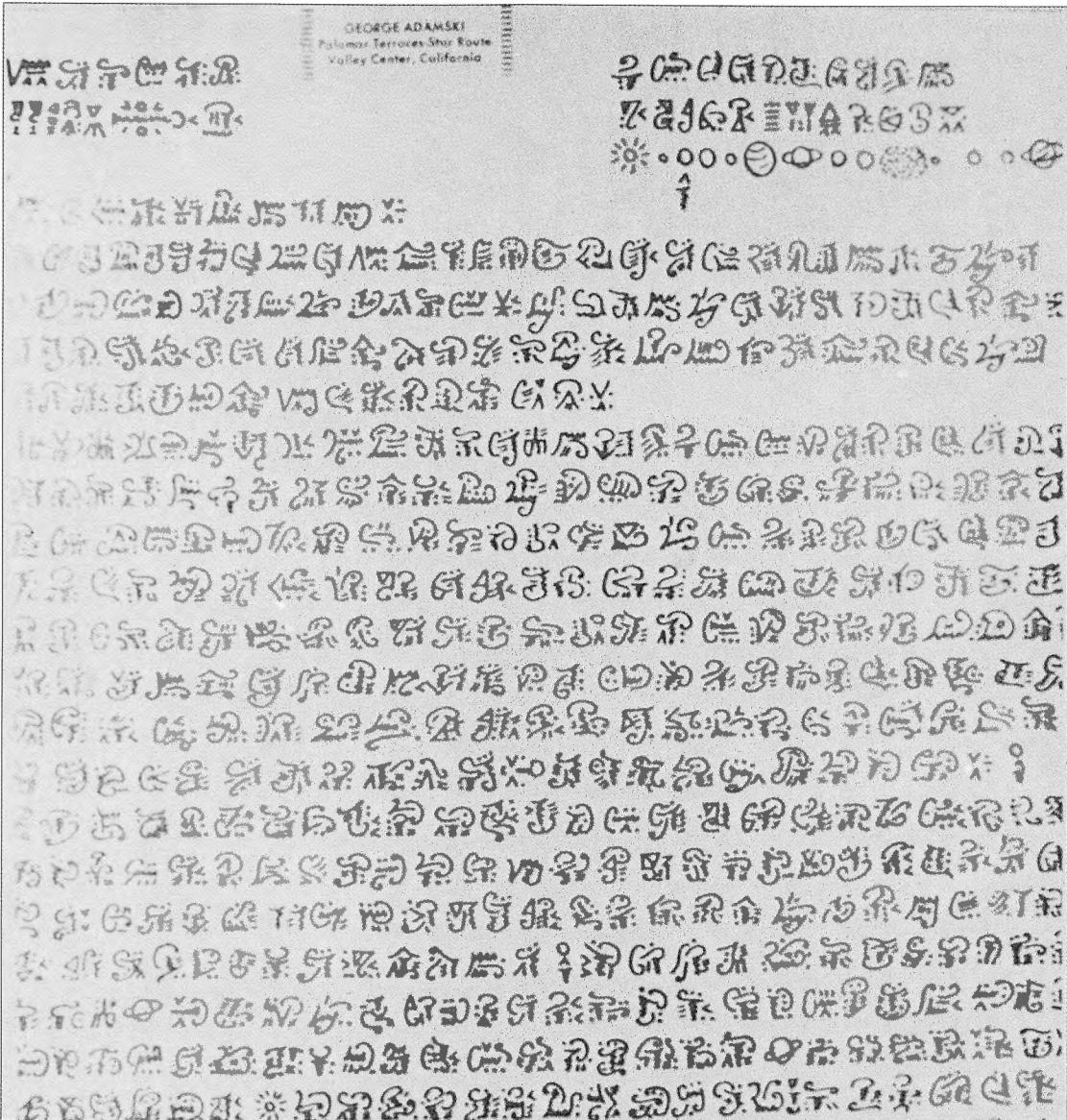
私の想像では、「マークの付いてい

いたり、輪があるように描かれています）

ところが、私がはじめて海外旅行に参加させていただいた年に開催された一九九一年のGAP総会で、ある重要な発見をしたのです。それは、夕食会でハンス・ピーター・セン氏が持参された様々な資料中にあつたのでした。彼の資料は閲覧のできるようになつていて、端にあるテーブル上に並べられていました。

私は他の多くの資料と一緒にそれを閲覧したのですが、その資料は機関誌に掲載されたものと同じでした。しかし、その資料には機関誌に掲載されない、下の部分すべてが見えるようになつていていたのでした。

私の興味を引いたのはこれまで見れなかつた部分中に、上に描かれている惑星の配列と似た「惑星の配置図」が記載されていることでした。（機関誌の写真にもその行の一部が少し見えている）。しかし、その配列は全く同じではありません。異なるのは、その第九番、一一番、一二番目の惑星が同じ不思議なマークに置き換わつていることでした。これは一体何を意味しているのでしょうか。



▲アダムスキーが秘蔵していた、インディアンから与えられたという謎の文字。右上に太陽系の図があり、13個の惑星が描かれている。「UFOと異星人の真相」の主人公M氏によれば元は全星文字であったという。

### ●海外研修旅行でのある体験

ある理由から、そのうちの一つがその対象となることを暗示していると感じたのです。

じつは、これには別のジグソーパズルの一断片に相当する話があります。一九九一年夏のGAP海外研修旅行では、ロサンゼルスのリトル東京で同行の大木氏とともに都市上空に出現した二つのUFOを目撃したのです。大木氏は、途中からその映像をビデオに録画しました。これは、デザートセンターからの帰途であつたため、次の日のパロマー天文台行きと合わせて何かの象徴と感じたのでした。

私は旅行に出かける前に、寝室の天井にUFO母船の写真を張り付け、毎日それを眺めていたのでした。それは様々な想念を送ったり、スペーススピーブル達と想念を一体化させるのに好都合だと考えたからでもあります。

こうして私と日本GAPの前途に何らかの啓示をくださいという願いが通じたのか、旅行中に幸運な目撃体験ができたのです。

この時、UFOは二つ現われたのですが、それ以後、一九九五年現在までに、天文学的事件が奇しくも二つ生じています。それは、カイバベルト天体の発見と、千年に一度という木星へのSL9彗星の衝突です。

この大木氏が帰国後、ダニエル・ロス氏から聞いたというある話をしたのでした。それによると、現在、太陽系に新しく「三番目の惑星が誕生したのだ」といいます。それによって、今まで各惑星を維持・活動させるために太陽系に注がれ各惑星に配分されている自然界の「フリーエネルギー」の配分量が変化して、各惑星が不安定になつているというものでした。

また、一つの太陽系の惑星は一二個が安定だという法則に基づき、それまで存在していた惑星のうち最も古いもののどれか一つが崩壊しなければならないというのです。

これらを総合してみると、結局、冥王星とその外側に存在する第一〇番と一一番惑星のいずれか一つが崩壊するのかもしれません。

その辺を考慮すると、前記の文献の上段に図示されている惑星の配列図には、右から五番目に、何かもやもやした固まりのような、惑星とは思われない不思議なものの正体が分かつてきます。それはちょうど海王星の外側、カイペベルトの位置にあります。

それはたぶん、小惑星帯ではなく、新しく誕生する惑星であつて、まだ充分に固まつていらない状態を図示したものではないかと想像します。

最近になつて、天文学者達が惑星は微惑星が集まつてできるとする仮説を立てました。そのように、小惑星帯に

はその惑星誕生の初期状態として、小さな惑星や微惑星が集積した状態として、二つめの小惑星帯の中に存在しているのではないかと思うのです。

この文献がいつアダムスキーリー氏にもたらされたのか不明ですが、秋山眞人はその文献がアトランティスやムーン時代にさかのぼるくらい古いものだと述べている点が注目されます。

### ● 太陽磁場の逆転現象と地球の受けける変化

太陽系の変化に関しては、新アダムスキーリー全集第五巻「金星・土星探訪記」の二二頁に、「この太陽系中の全惑星が異常な気象状況を体験しつつあるのですが、地軸だけは『地軸傾斜期』と

太陽系の変化との両方から影響を受けています。しかし、科学者はこの変化に気付いていません」と述べられています。

残念なことに、この太陽系の変化がどのようなものなのか明確ではありません。このことに関して、全集第六巻「UFOの謎」六五頁には、太陽磁場の逆転現象のことが書かれています。

今ではこの太陽の一一般磁場（黒点磁場ではない）の逆転現象は、約一年ごとに定期的に発生することが知られていますので、こうして一年ごとに太陽の磁場が地球の磁場と同じ向きになつた時期には、磁場同士の反発力によって、地球に対して何らかの影響が現

われることが考えられます。

ところで、こうした太陽磁場の逆転現象は、太陽黒点の消長としても計測されています。つまり、太陽黒点数が極大に達した後、太陽磁場が逆転を起こすという過程が存在しているうえ、黒点数の消長も同じ一年の周期に従っているのです。そのため、黒点数の変化と太陽磁場の変化とは密接な関連があるものとして太陽磁場の理論がつられています。

このことから推測すると、黒点数の消長はチューリッヒ天文台により西暦一七〇〇年から計測されているので、一七〇〇年当時から、太陽磁場の逆転現象は存在していたのではないかと想像できるのです。

それで、私は太陽磁場の逆転現象の影響は、アダムスキーリー氏の参加した土星会議ではそれほど主要な議題ではありません。しかし、科学者はこの変化

く、むしろその元になる各惑星の維持エネルギー変化の方がこの場合重要な要因ではないかと考えたのです。そこで問題となるのが、前述のような惑星の創成と崩壊による、太陽系全惑星への影響でしょう。

しかし、この解答はそれほど確定的なものではなく、たまたま手元に集まつたジグソーパズルのいくつかの断片を組み合わせた単なる「憶測」であることをつけ加えさせていただきます。

今はこの太陽の一一般磁場（黒点磁場ではない）の逆転現象は、約一年ごとに定期的に発生することが知られていますので、こうして一年ごとに太陽の磁場が地球の磁場と同じ向きになつた時期には、磁場同士の反発力によって、地球に対して何らかの影響が現

### ● 冥王星の位置について

現在、冥王星はその軌道がいびつな楕円型であるため、ほとんど円に近い軌道をもつ海王星の内側に入り込んだ形になつていて、太陽系の一番外側の惑星という地位を、海王星にゆずっています。

これは、冥王星の軌道の形が原因なのですが、天文学者達の間には冥王星の大きさが小さいことから、もとは海王星の衛星であったものが、何らかの要因ではじき出されて今の軌道に移ったものではないかという説があります。また冥王星はこれまで発見された最大の小惑星セレス（直径一〇〇.3 km）の二倍ほどの大きさなので、カイペベルト天体の一つではないかという議論さえでています。

また、冥王星はその大きさに比較して、半分の大きさの衛星カロンを従えていますが、これはカイペベルト天体の一つが補足されたのではないかと容易に想像できます。さらに将来、冥王星が再度カイペベルトを横切る場合、推定されるほどの数の天体群がアストロイド帯に存在するなら、きっといつかは冥王星に衝突する小天体があるはずです。

このように冥王星は、前述の考え方からすると、惑星の生成と崩壊の対象になりうる惑星なので、今後とも関連

したニュースには気を付けたいと考えています。また、地球的規模で発生している大気や環境の問題、海洋の変化、月や他の惑星の姿なども容易に知る」とができるようになりました。

## ●天文学者の仮説むらタグハイターの口へ々々くじりこぐ

これは全くの想像なのですが――。

一九五〇年にオールドが「オールドの雲」仮説を提示し、一九五一年にカイパー氏が「彗星の帶」仮説を提示しました。そして、翌年の一九五二年にアダムスキーエ氏がデザートセンターでコンタクトしたことは、単なる偶然とは思えないのです。

一年ごとに、うまく出来事が順番に起きてこますが、それはもしかしたら『スペースプログラム』に沿った活動ではないかと思うのです。

さらにパロマー山は当時としては世界最大の望遠鏡が設置されたのと、アダムスキーエ氏がその近くに住んだりとも、同様に計画性を感じます。

いやした望遠鏡による観測と、その後に起きた宇宙開発は、その動機を同じくするものでしょう。それは「宇宙をもうとよく知ろう」という人類共通の願望によるもののはずです。つまり、それは人類の知識欲を満足させるためであり、また人類の活動と探求の範囲が広がつてきているからでもあります。

そして、宇宙開発により私たちは世界各地で発生した事件や出来事を、居間にいて知ることが出来るようになります。しかし、世界中の人々と電話で話が

できます。また、地球的規模で発生している大気や環境の問題、海洋の変化、月や他の惑星の姿なども容易に知る」とができるようになりました。

これは打ち上げられた通信衛星や探査機による恩恵ですが、また宇宙開発を推進した人達のおかげと言えます。

現在、こうした活動に関してマイナスな要素が存在しているにも確かな所ですが、それは一体どういう位置づけがなわれるのか、改めて考え直してみるのも必要ではないかと思います。

今の所、太陽系が崩壊する兆候はないのですが、近くの新しい太陽系の惑星群に移住を開始している近隣のスペースペーパル達は、そこで新たな社会を築いているとアダムスキーエ氏はいいます。これは、聖書にある「新しい天と地」に相当するものでしよう。

それで、将来、私たちも彼らのようになります。

また、カルマを清算したり高度な精神状態に達した人は、生まれ変わりに星に移住することができるようになります。

このように、私たちの前には無限の可能性が開けているので、前途には大きな希望をもち、意識の力を落とすことなく、今生を悔いのないよう生きる」とが大切ではないかと思います。

意識的な宇宙という大海には限界がない、それと一体となる」とによつて、私たちは無限の存在と等しくなるのですから。

【参考文献】

(五六頁)  
●「天文ガイド」一九九三年四月号  
(一五四頁)

(五三頁)  
●「月刊天文」一九九三年四月号

●ベリーフリトハ天文館

MPEC L12: DISTANT MINOR PLANETS (1995 JULY 2.0 TT) M.P.E.C. 1995-L12 Issued 1995 June 9, 13:12 UT

Minor Planet Center, Smithsonian Astrophysical Observatory, Cambridge, MA 02138, U.S.A.

●「現代天文百科」(岩波書店)

●「天文学を変えた新技術」(朝倉書店)

●「マイクロ宇宙講座」(廣済堂)

●「天体の軌道計算」(誠文堂新光社)

●「新記概論天文学」(地人書館)

●「新アダムスキーエ全集」第五巻「UFOの謎」(中央アート出版社)

●「新アダムスキーエ全集」第六巻「土星・金星探訪記」(中央アート出版社)

●「UFO～宇宙からの完全な証拠」(中央アート出版社)

●「JAPAN HYPNOTHERAPIE」第九六号 (一川眞) (日本GAP)

●「天文の事典」(平凡社)

●「現代の惑星学」(東海大学出版社)

●「朝日新聞」一九九五年六月一六日夕刊三三四面

「すばるの故郷・太陽系の奥深く」

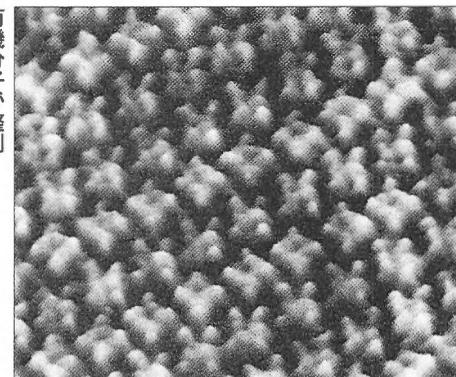
●「天文月報」(日本天文学会)  
1993 vol.86 no.12 一一四頁

●「朝日新聞」一九九五年六月一六日夕刊三三四面

「すばるの故郷・太陽系の奥深く」

●「天文月報」(日本天文学会)  
1995/vol.88 no.7 七四頁

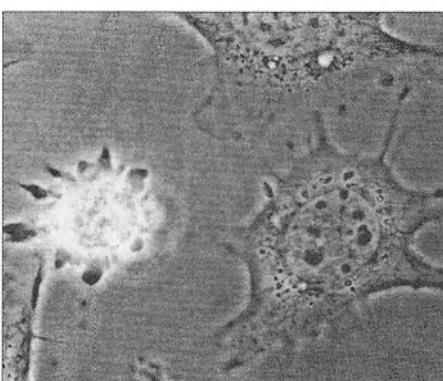
●「科学報」一九九三年一一月号



### 有機分子が整列

新技术事業団の研究グループが、液体中でばらばらに存在する有機分子を金属板上に規則正しく並べ、分子一つ一つを鮮明な画像で撮影することに成功した。生体反応の分子レベルでの解明や、半導体に代わる次世代分子素子の開発に役立つという。

鉄魚は鰯の突然変異  
天然記念物に指定されている宮城県の魚取沼に生息する「テツギョ（鉄魚）」は、鰯の突然変異であることが判明した。東北大の教授が研究したもので、これまでの「鰯と金魚の交配種」説を覆した。アイソザイム遺伝子分析法により、五



### 土星に四つの新衛星

NASAのハッブル宇宙望遠鏡が撮影した土星の写真から四つの新しい衛星が発見された。輪が地球に対して真横になり、見えなくなつた状態で撮影したため、行コースや姿勢を制御しながら減速し着陸する。(8・12朝)



### 日本版シャトル実験機

日本版スペースシャトル「HOP-E」

の自動着陸技術を確立するため、科学技術庁航空宇宙技術研究所と宇宙開発事業団が共同開発した小型実験機「ALFEL EX」が完成した。ALFEL EXは来年一月から三月にかけて、オーストラリア南部の砂漠地帯で自動着陸に挑戦する。全長約六メートル、重さ約七六〇キロで、HOP-Eの三分の一の大きさである。エンジンはついておらず、ヘリコプターから機体を釣り下げて高度一五〇〇メートルで切り離してから、地上からの誘導電波により自分で飛行コースや姿勢を制御しながら減速し着陸する。(8・12朝)

種類の金魚の遺伝子構造を比較調査した結果、鉄魚は尾の長いのが特徴で、これを金魚との交配すると、金魚特有の遺伝子が鉄魚にも見られるはずだが、これが見られなかつたという。

尾が長い特徴は、野生の金鮒の祖先に

突然変異した遺伝子を保有する個体があり、これが魚取沼のように隔離された自然環境のもとで現われたものであるといふ。(6・21読)

### 細胞の自殺の瞬間

桜映画社が学術映画「アポトーシス」を作成した。アポトーシスは、時間がたつと自動的に細胞が死ぬ現象である。写真の場面は、アポトーシスを引き起こす蛋白質を培養細胞に加えたところ、左側の細胞が凝縮して死んだ瞬間。右側の細胞はまだ正常である。アポトーシスはオタマジヤクシの尾の細胞が成長とともにに消えていく現象で知られているが、癌や自己免疫病などにも関係あることがわかつた。(6・28朝)

### 単一電子で計算成功

日立ケンブリッジ研究所と英ケンブリッジ大学の共同チームが、電子の群れである電流ではなく、わずか一〇個程度の電子を制御して論理計算をする「単一電子論理素子」の原理実験に成功した。

同チームは、ガリウム砒素で作った素子をマイナス二六九度に冷やし、一〇個の電子を操作し、NOR（否定和）の論理計算をさせた。NORができれば基本的な論理計算ができることになる。同チームは単一電子記憶素子の原理実験にも成功している。論理素子と合わせて「单一電子コンピューター」ができれば、同じ電力でこれまでの一〇〇〇倍の素子を働かせることができるといふ。(7・5朝)

ムが悪性の乳癌に対し、非常に予防効果の高い抗体療法の動物実験に世界で初めて成功した。癌の治療や予防に役立つ画期的な成果として注目されている。

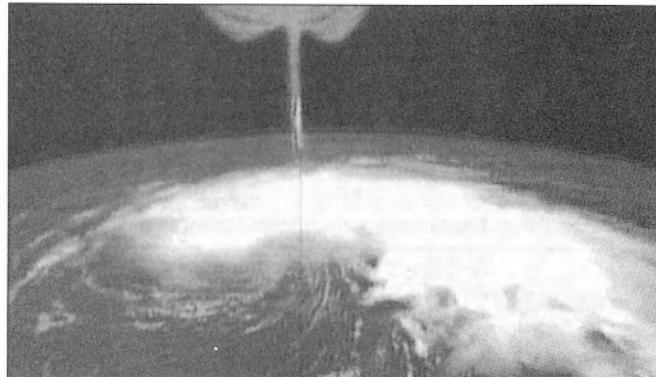
同チームは、遺伝子操作によって人と同一タイプの悪性乳癌を発症させたマウスを開発してから、癌遺伝子が細胞表面に産み出す蛋白に作用するモノクローナル抗体を作り、マウスに注射をした。

モノクローナル抗体と同じ作用をもつ薬ができれば、副作用なしに癌の再発予防ができるという。(7・1読)



## 木星の謎に挑む

NASAは木星を目指して飛行を続けた惑星探査機「ガリレオ」から探測機を切り離し、木星大気圏の直接観測に向けて放出した。二月七日に大気圏に突入する。ガリレオは一九八九年に打ち上げられ、地球や金星の重力を利用して加速しながら、五年九ヶ月かけて木星から約八〇〇〇万キロの地点に到達した。探査機は、直徑一・二メートル、高さ八六センチの円錐形で、時速約一七万キロで大気圏に突入後、パラシュートで降下する。突入後は大気の成分や、密度、温度などを測定し、得られたデータをガリレオ経由で送信する。(7・14読)



## ハリケーンをとらえる

ブルートリコ上空を飛行中のスペースシャトル「ディスカバリー」が大西洋で発生したハリケーン「チャンタール」を撮影した。中央上部に見えるのはディスカバリーの機体の一部である。(7・19朝)

### 遺伝子を100パーセント細胞内に

宝酒造バイオ研究所が生まれつき欠けている遺伝子などを患者の体内に入れる遺伝子治療で、遺伝子をほぼ100パーセント導入させる技術を開発した。これまでの技術では一パーセント前後しか導入できなかつた。

遺伝子治療は無毒化ウイルスなどのベクターに必要な遺伝子を組み込んで患者の体内に入れ、その遺伝子の働きで病気を治す最先端の治療である。

細胞同士を接合させるフィブロネクチンという蛋白質を敷いた容器に、リンパ球のもとになるネズミの造血幹細胞と、ADA酵素を作るヒトの遺伝子を組み込んだベクターを混ぜたところ、遺伝子はほぼ100パーセント細胞内に入った。フィブロネクチンが、造血幹細胞とベクターを接合させ、さらに細胞膜を変化させてベクターを受け入れやすくさせたためである。この細胞をネズミの体内に戻したところ、ヒトの遺伝子は一ヵ月働いたといふ。(7・28朝)

## アルゼンチンにUFO

日本初の遺伝子治療  
生まれつきアデノシンデアミナーゼ(ADA)という酵素が作れず免疫力がほとんどない男児に、酵素を作る正常な遺伝子を入れる日本で初めての遺伝子治療が、北海道大学医学部付属病院で始まつた。治療は一ヶ月の間隔で繰り返され、約半年後に効果が出る。遺伝子治

療は、癌、エイズなどを治す可能性を秘めた「究極の医療」とされるが、安全性や効果はまだ確立されていない。

男児は、重い免疫不全のため風邪をひいても命を落とす恐れがあり、週に一度注射で酵素を補充する治療を受けているが、危険な状態が続いているといふ。今回の治療では、「ベクター」と呼ばれる「遺伝子の運び屋」として無毒化した癌ウイルスに、正常なADA遺伝子を組込み、男児の体内に入れられる。(8・1朝)

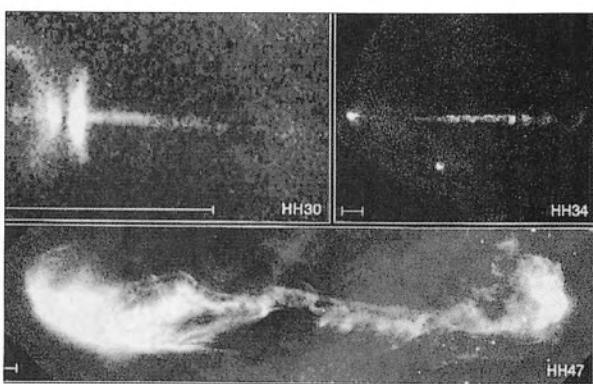
## 縄文早期にも大集落

北海道埋蔵文化財センターが、函館市の函館空港拡張工事現場で発掘調査を進めている遺跡群から、七〇〇〇—八〇〇〇年に渡つて、五〇〇軒以上に及ぶ大集落が発見された。これまでの発見例は一〇〇軒程度であり、縄文社会の在り方を見直す貴重な発掘である。

住居跡は、直徑約二・五メートルの支柱のない円形のものから、縦約八メートル、横約五メートルでいくつかの支柱を伴うものまで、様々な種類が見つかっている。同一の場所に重なつて発掘されているものが多く、頻繁に建て替えられたといふ。(8・10読)

## 星の誕生とらえた

米航空宇宙局のハッブル宇宙望遠鏡が新しい星の誕生の様子を撮影した。爆発とともに星が形作られていく詳細な過程が明らかにされた。一五〇〇光年離れた空間で、ガス状の噴出物が新星の中心部から破裂しており、縮萎が数十億キロメートルの距離を超高速で走つていている。(6・7読)



ルの高さで数秒間静止した」という。

同じく家族で目撃した消防士は「約四〇〇メートルの距離から、一気に一〇〇メートルの所まで近づいた。自分達は連れ去られると思つた」という。

アンデス山脈上空では一〇日前にも航空機のわきをUFOが数分間並んで飛行している。(8・17読)

# GAP短信

GAP NEWS

## ★福山支部発足

今年八月一日より広島県福山市を本拠とする福山支部が発足した。代表は棗田雅則氏(電話〇八四七一五二一六三〇六)。副代表は片岡豊氏。今後は原則として毎月第一日曜日に福山市丸の内一一三、「びんご荘」で月例セミナーを開催するが、日時変更の場合があるので、必ず事前に代表宛電話で問い合わせせられたい。

## ★久保田会長、アジアテレビに出演

今年八月九日、香港のアジアテレビが来日し、日本GAPの久保田八郎会長を取材。会長はUFO問題について質疑応答のかたちで出演した。この番組は九月末に放映されるという。ただし放送エリアは東南アジアの一部と中國大陸の一部で、日本では見られない。

## ★ワシントン市のアダムスキー大会

九月八、九、一〇日の三日間、米首都のワシントン市でロヂエスターUFO研究会主催のアダムスキーカーが開催され、日本GAPの久保田会長は九日夜、約二時間に渡って講演とスライド映写を行ない、絶賛をあびた。この大会には日本GAPの若手有志が結成する黎明会が応援と観光のツアーレイナードを企画し、ワシントン市内観光、大会出席、ニューヨーク市内観光を行なつて九月一三日に全員無事帰国した。旅行中は両市内でUFOの出現をたびたび目撃して歓声をあげた。詳細記事を本号に掲載。

## ★黎明会会報発行

日本GAPの若手会員で結成している黎明会は隔月刊誌として「ブルー・ウインド」を創刊した。これには久保田会長の近況や各種の報告、東京本部の情報などを掲載し、地方支部や会員との提携を目的としている。希望者は左記へ直接申し込まれたい。一部一〇〇円、送料一九〇円。

## ★本年度日本GAP総会、大盛況

本年度の日本GAP総会は既報のとおり、去る九月二三日に東京都港区芝公園、東京タワー前の機械振興会館大ホールで開催、出席者は約二七〇名。国際能率研究所所長・哲学博士・秋山真人氏が「別な惑星の文明と創造性」と題して極めて有益な内容の講演と超能力の実演を行ない、聴衆を魅了して大盛況であった。夜は同会館六階のホールで大夕食会を開催し、一〇〇名以上が出席。食事と歓談で楽しいひとときをすごした。翌日は希望者約五〇名で都内観光を実施。国会議事堂、新宿御苑、恵比寿のガーデンプレイス等を周遊した。秋山氏の講演全文は本誌次号に掲載の予定(来年一月下旬に発行)。

## ★お知らせ

千葉県市川市在住の双子のH姉妹が

各地の多数の会員に書簡等を発送しているが、この姉妹は今年七月一七日以後、日本GAPとは無関係となつてゐる。したがつて両人の言動に関しては一切関知しないので注意されたい。

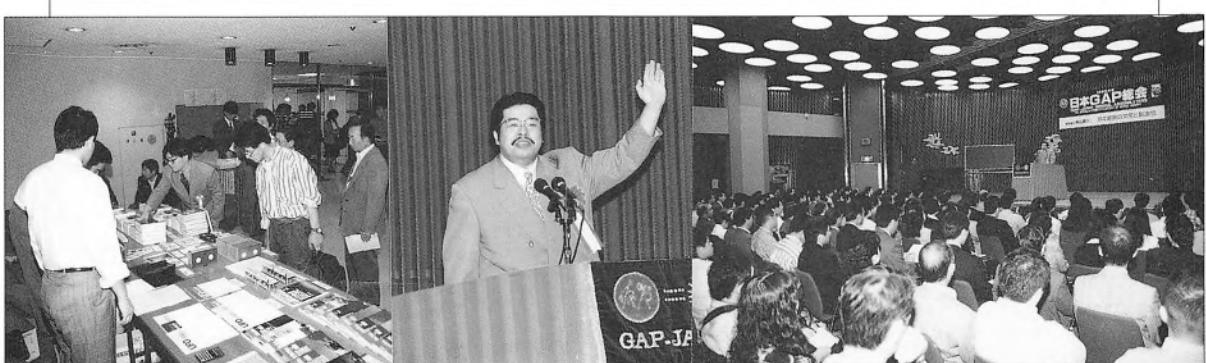
## ★日本GAP特別維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に特別維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、普通会員がさらにGAPの運営と発展に貢献するための援助活動であつて、絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が個人で毎月発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが各維持会員に直送される。これはユーニコン誌に掲載されない秘話や会長独自の宇宙的能力開発法、宇宙哲学の解説、行事の速報、その他が掲載されている。

加入希望者はハガキに「特別維持会員案内書送れ」と書いて日本GAP宛に出せば案内書と振込用紙が送られる。ただし普通会員でない人が特別維持会員だけになることはできない。エッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎつり印刷された記事が三頁分ある美麗オフセット印刷。これを綴じて保存している人が多い。

## ★東京月例セミナー開催日の臨時変更

東京月例セミナーは毎月第一日曜日開催を原則としているが、来年一月に限り、第二日曜日の七日に臨時変更する。この日は出席者全員の記念撮影を行ない、終了後は新年会を開催の予定。



▲左より総会会場入口、秋山氏の講演、会場風景。撮影/松村芳之

# ●アダムスキーダイを思ふ

GAP - Japan Telling the  
World about UFOs

by Shigeru Okada

## 世界へ羽ばたく日本GAP

★岡田 茂

アメリカ合衆国の首都ワシントン市で開催された記念すべき第一回の世界アダムスキーダイ大会に、日本GAPの久保田八郎会長の応援団の一人として参加できたことは、私にとって本当に光栄でした。

そのワシントン市では約一ヶ月間雨が降つていいという記録的な日が続いていたそうで、私達の滞在中も本当によいお天気に恵まれました。久保田先生の講演の当日も約三時間前の午後五時頃から激しい夕立があり、乾いていた市街を気持ちよくしつとりと湿らせました。

久保田先生の講演はスライド上映の説明も含めてすべて英語で行なわれましたので、私の場合、講演の内容がよく理解できないこともあります。そのかわりに会場の様子をよく観察していました。しかし先生のお話がどれほど素晴らしい興味深い内容であつたかは、聴衆の方々の真剣な顔と態度を見ればよくわかりました。他の講演者の時などは出席者が途中で退席したり、おしゃべりをしたりという行為が目につきましたが、久保田先生の講演の時に見せた態度の変わりぶりに驚きました。

また先生の講演が始まると同時に、



▲Tシャツを贈呈された久保田会長（左）と  
贈呈者（氏名不明）。

撮影／大曾根匡史

講演後にアメリカ人の男性が一人飛び出で、久保田先生だけにワシントンに入ると、スライド上映中に手をあげて質問される方もいました。

私がこの旅行で心に強く残った事が三つあります。一つは、久保田先生がいつんなで和氣あいどした雰囲気の中で記念撮影が行なわれました。

私がこの旅行で心に強く残った事が三つあります。一つは、久保田先生がいつんなで和氣あいどした雰囲気の中で記念撮影が行なわれました。

日本ではアダムスキーダイの著作はすべて久保田先生によって訳されていて、何不自由なく読んで学ぶことができます。

また日本GAPには地方に支部があり、素晴らしい方々ばかりが集う団体があります。そこでは月に一回例会が開かれ、先生の講義の録音テープから宇宙哲学の講義が受けられます。いろいろな方の体験を聞いたり、能力開発の練習もあります。多くの友人を作ることもできます。素晴らしい専門誌が年四回も発行されており、さまざまなお事もあります。

私はこれらの事を当たり前のように享受してきましたが、今回の大会に出でて、いかに日本GAPがしっかりと組織化され、まれに見る素晴らしい積極的な活動をしているか、そして日本GAPを育ててきた先生が、いかに忠実にアダムスキーダイの意思を受けついで、スペースプログラムにそつた御活動をなされたかということを深く思いました。私はその

会場全体からいわせいにカメラのフラッシュが点滅しました。後ろの方に座っていた聴衆の方々がゾロゾロと前方に出てきて必死に写真を撮つて、まるで記者会見のようでしたが、先生はかなりまぶしかつたと思います。また「UFO」コントラクティーの英語版はどうすれば手に入るかと、スライド上映中に手をあげて質問される方もいました。

二つ目は講演が終わって、他の講演者の方々や聴衆から握手を求められる先生を見て、本当に強く感じました。二つ目は講演が終わって、他の講演者の方々や聴衆から握手を求められる先生を見て、本当に強く感じました。二つ目は講演が終わって、他の講演者の方々や聴衆から握手を求められる先生を見て、本当に強く感じました。

じたことです。これから世界に貢献していかなければならぬ日本人の一人として、英語が重要な武器になることを、先生の講演を聞いたり、あちらの関係者の方々となんなく英語で話しておられる先生を見て、本当に強く感じました。二つ目は講演が終わって、他の講演者の方々や聴衆から握手を求められる先生を見て、本当に強く感じました。二つ目は講演が終わって、他の講演者の方々や聴衆から握手を求められる先生を見て、本当に強く感じました。二つ目は講演が終わって、他の講演者の方々や聴衆から握手を求められる先生を見て、本当に強く感じました。

日本GAPで学ばさせて頂いている一員として、その幸運と幸せをあらためて感じました。久保田先生、旅行中は本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひ致します。

It Deserves Permanent  
Remembrance  
by Futoshi Nishikawa

## アダムスキーダイの旅を終えて

★西川 太

今回のアダムスキーダイ大会での久保田先生の応援旅行では、大会会場の撮影係として三日間すべての講演に参加することができました。世界大会と呼ぶにはあまりにもこじんまりとした会場ではありましたが、日米欧各国の研究者が一堂に集まつたことは大変興味深いことであると思いました。

英語力のない等しい私にとって、講演の内容をすべて把握することは不可能なので、それが残念でなりませんでした。しかし、それぞれのいろいろな形でのアダムスキーダイに対する深い思いがじみ出た講演であったことは確信できました。特にアリス・ポマロイ女史の講演には非常に高貴な印象を感じ、内容が理解できなかつたにしても、大変素晴らしい体験をしたと思いました。

聴衆はなぜか女性が多く、わりとラフなスタイルの人気がほとんどでしたが、日本GAPの旅行団はみな背広にネクタイ姿での出席でしたので、他の出席者

80年代のアダムスキーダイの旅を終えて

に大きな印象を与えたようでした。

久保田先生の講演中に私のカメラが故障するなど、何かとアクシデントの多い旅になりましたが、良い勉強になりました。

大会終了後にUFOが出現し、ニューヨークでの観光でもひんぱんに出現したことは、やはり見守られているのだなと、プラザーズの存在を再認識した次第です。

### His Innumerable Activities by Masashi Ohneda

#### 素晴らしい大活動 ★大根田匡史

今回の旅行は、アダムスキーア問題とGAP活動を考える上で、とても重要なだつたと思います。世界から、またアメリカ各地から人が集まり、アダムスキーア問題やUFO問題について語りあつた大會に参加したこと、おまざまなことを考えさせられました。

その中でも非常に重要なのが

言葉の問題です。久保田会長が英文版「UFOコンタクトティー」を発行して、世界を対象にGAP活動を開催されていました。GAP活動が日本国内で活動に行なわれていること、そして今回、久保田会長のアダムスキーア大会への招待から考えてみても、今後、日本GAPは世界とかかわる機会が多くなると思います。私はその印象を今回強く受けま

した。その時、英語が話せなくては私達が充分なGAP活動を果たすのは難しいと思います。

久保田会長の講演はスライドも交えて、とても良い内容だったと思います。

それは、講演中は他の講演者のように途中で質問が飛びかうようなこともなく、参加者はみな熱心に聞いていたからです。

講演を当たり前のようく英語でこなす先生を見て、私はさすがだと思いながらもある、久保田会長が日本GAPの代表者であることを、とても頼もしく思いました。

その他、アダムスキーア氏の助手だったアリス・パロイア女史とお会いできただとや、この旅行を通じてUFOを目撃できたこと、ワシントンとニューヨークのさまざまな所を観光したことなど、本当に今回の旅行は素晴らしいだと思いました。書きたいことはたくさんあるのですが、ここまでにしたいと思います。最後に久保田先生、本当に疲れ様でした。

### I Witnessed UFOs in NYC by Michinori Kato

#### ニューヨークで見たUFO ★加藤路徳

加藤純一さんがいなかつたので断定できません。

一〇時一〇分頃、今度は西の方からキラキラ光るストロボの連続フラッシュの音には津田さんや加藤さんが南仰角六〇～七〇度ぐらいに赤い光体を発見。後には津田さんや加藤さんが南仰角六

がら、ゆっくりと通つてゆく。同時に背後には津田さんや加藤さんが南仰角六〇～七〇度ぐらいに赤い光体を発見。私も見ることができた。そして光体を指しながら、「あれ何ですか。ゴミですか」と聞いたら、UFOだと言う。形も確かにフットボール型をしており、風に流されているにしては不自然さあまりない。

その光体を追つてゆくと、薄い雲の中から二つの光体が現われ、さらにその二つの光体をたどると、赤い光体が目がゆく。まるで見せながら導いてくれるよう、なやさしい動きだった。

同日夜、一〇時四五分頃、三次会のための飲み物を買うために店へ入り、そこを出てから前方を見ると加藤さんが天を指している。大根田さんも顔を上げ始める。私も顔を上げて一瞬、息をのんだ。まさしく仰天したのだ。巨大なオレンジ色の母船がビルの谷間から見えた！スジやクビ、中央に縦に光の列が並んでいた。

私は急いで走り、大声で「母船、母船か？」と叫びながら走つていると、母船は高度を上げて、泊まつてゐるホテルの方からセントラルパーク方面へ去つて行く。走つてゐるあいだも加藤さんの方に目を移すと、路上で寝転がつて喜んでいた。でも近くに

五人集まつてから次のブロックまで走ると、ビルの上に母船が停止している。やつとカメラをカバンから出して一枚撮つた。加藤さんも私のカメラで一枚撮つて、太いペンや調理されたアスピラガスを見ると母船をイメージしてしまふほど強烈な体験でした。UFOのファーリングを覚えておくと、見やすくなるのは確かだと思います。

◆筆者が描いた大母船。



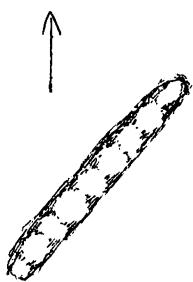
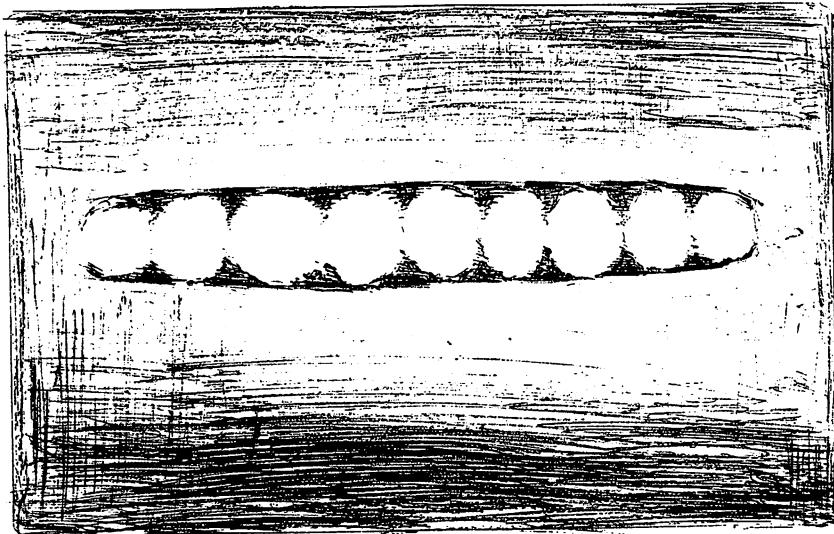
ビル

A Large Mother Ship Appears  
over New York City!  
Illustration by Masashi Ohneda

29

# ニューヨーク上空に出現した大母船型UFO

1995年9月11日夜10時45分頃、ニューヨーク市上空に出現した巨大な母船型UFOを目撃した加藤純一、大根田匡史、加藤路徳の3名の内、大根田君が見たとおりを描いた物体のイラスト。



## 友人に否定されたショック

一九九〇年八月一九日、日曜日の夜の九時から一〇時にかけて、自宅の庭にて南側にUFOを目撃しました。当時は茨城県の鹿島郡に住んでいました。その晩はとてもよく晴れていて、天の川がはつきりと見えました。日本GA P 茨城支部に出席するようになってまもない頃です。当時、ある会員の方より貸して頂いた『異星訪問奇談』をくりかえし読んでいました。

夜空に想念を放射

こここのところ晴れた晩が続いたこと

人達にUFOの存在を全面的に否定されたのです。その友人達は当時の私よりもUFOの事に詳しくて、UFOの雑誌を読んだりしていました。そのうちの一人はアダムスキーの事も正確に知っている人だつだけに悲しくなりました。自分でUFOを目撃したこともないのにとも言わせて、その話は終

## 熱烈な呼びかけに応えたUFO

石井一江

もあつて、一ヵ月あまりテレパシーでUFOの呼びかけもどきのようなことをやつっていました。呼びかけをする前に晴れた夜空に向かつて想念を発していました。自分や自分のまわりの人、万物は宇宙の意識と一体だという想念を放射したのです。「万物は一体である。宇宙の意識に生かされている」と念じながら、その感謝の気持を空に広がつてゆくように発していました。

そういうことをやつていると、自然に気持が落ちついてきます。当時は忙しい会社に勤めていたのですが、仕事

(編注)この本は日本人の一青年が円盤や母船に乗つて別な惑星に行つてきたという驚異的な体験を述べたもので、絶版になつていて。その後、同じ内容の本が中央アート出版社から『UFOと異星人の真相』と題して出版されています)

また、どのように呼びかけしてよいかわからず、本誌に載つていた呼びかけの言葉をくり返して使いました。

その前日に私にとってショッキングな事が起きました。二人の友人と話しあう機会があつたのですが、その友

ときは想念をおこすだけです。話をもとにもどしますと、当日は絶対FOへ呼びかけをします。時間がない限りは想念をおこすだけです。そして、今日は「もしかして出現してくれるのでは」という感じがありましたが。そう考えると胸がドキドキして心に振り回されてしまいそうでしたので、考えないようにしていました。

私は地球の○○○○です。私の想念が届きましたら、地球に来ている進化した惑星の皆様方、どうぞ宇宙船の光を見せて下さい」と、頭の中で呼びかけの言葉をくり返したり、声に出したりしました。家庭の庭なので家族もいるので大声は出しませんでしたが。

呼びかけをしては待つというのをくり返していました。途中で体が緊張したり、顔がこわばつたりしました。体の緊張はストレッチをし、顔は目、鼻、口、耳の力を抜いていくリラックス法を行なつたりしました。腹式呼吸を行なつたりしながら、体の力を抜きた。すごくドキドキしていました。

私は夏でも冷え性で冷たいのですが、とても体の流れが良くなつたようでした。今思いますと、私が見た帽子型のUFOは、『UFO—遭遇と真実』(中央アート出版社)に載つてゐる降旗和彦氏が撮影した土星型円盤と同じ形をしました。私が最初に読んだ本誌は九七号で、表紙にはなんとそのUF

## 光体が出現！

「そろそろ一時間ぐらいたつかな

と思った頃、頭上の空は今まで見ていた空ではないんだと急に思いました。そして、その場所が分かつてたかのように、少し首を上げて空を見上げたら、強い胸の高揚感をおぼえました。その瞬間に光体を目撃しました！

南側の空に、右から左へ落ちるようにスースと消えてゆきました。オレンジ色の光体で、帽子型をしていたのがはっきりわかりました。それは一晩中続く工場の光よりもずっとずっと明るかったです。

とても暖かい感じを受けました。そ

れは私が思うよりもずっと私と(私達)

とスペースピープルは近い存在なん

だよ、と言つてゐるようでした。目撃

したUFOには中に人がいて、笑顔で

答えてくれるような、そんな感じがし

ました。

体がホカホカ暖かくなつていていました。

私は夏でも冷え性で冷たいのですが、

とても体の流れが良くなつたようでした。

今思いますと、私が見た帽子型のU

F Oは、『UFO—遭遇と真実』(中

央アート出版社)に載つてゐる降旗和

彦氏が撮影した土星型円盤と同じ形を

していました。私が最初に読んだ本誌

は九七号で、表紙にはなんとそのUF

## 室内に不思議な現象が発生

前日の友人達とのことや、悩みみたいなことはきれいに消えて、スッキリした気分でした。その夜はなかなか眠れませんでした。UFOを目撃して緊張していたせいでもありました。しかし次第に半分眠ったような状態になりました。きっとそういう状態でなければ、後の事は起こらなかつたでしよう。

半分眠っているのだけれど、まわりの事はわかるような、おかしな状態でした。

すると、外部からの波動（テレビシー）としか思われないような現象が起きました。暖かい、オレンジとピンクの中間の光が窓から入ってきたのです。そして次第に部屋いっぱいに充满してきました。その色には意味があるのかもしれません。楽しかったとき、幸せを感じたとき、人とのコミュニケーションをうまくとれたときなどに、まわりの空を見るとその色が広がつているということが過去に二、三度ありました。窓は壁の二辺にありました。窓の方角の窓からでした。

宇宙的な光とも、エネルギーともあ

らわせるものでした。私は半分安心しました。当時は「くまれですが、そういう状態になることがあります。それは私が驚かせないようにするための、スペーススピーブルからの気づかいだつたように思えます。

最初は私自身の状態がそういうことでしたから、この不思議な現象に驚きました。私は安らかな光の海の中に包まれていました。

当時、毎日くり返していた『宇宙の意識と一体になるイメージ』に似ていると、光の中で思っていました。

〔編注〕この想念法は現在『大宇宙想念法』と題して、東京月例セミナーで実習している

「大きな海に一粒の水滴が落ちて、海と一緒に化する。個体が全体となつていく」。私と光は一体化しているような感じでした。それは金色の海の中に入つてリラックスするというものでした。「細胞の一つ一つが潤い、生命力を感じました。心が勝手に騒ぎ始めました。意識の部分ではまだつながつてゐる感じでしたが、「やめて下さない！」と、叫ぶようにメッセージを放っていました。

感覚器官のトレーニング」というフレーリングが浮かんできました。私はそれを「四つの感覚器官（目、耳、鼻、口）の心をコントロールして、恐怖心を起こさせるな」というメッセージとして受け取っています（その後、重点的にそのことを実践しています）。

その光の海の中での時間は短いものだつたと思いますが、自分には長く感じられました。できるなら、もつとその中にいたかったと思いました（もし生命の海なるものがあつたら、そういう感じかもしれません）。

あの光は、当時私が苦しい状況にながら他の人のために祝福の想念を送り続けていたので（いつも怒る会社の上司などに）、スペーススピーブルからギー（光）は、ちょっと昔のテレビのようにパチンと一点に集まって消えていました。そして部屋の中のオレンジ色の光も、これにともなつてゆつく

りと一つの所に集まるようにして、なくなっていました。

完全になくなるには時間がかかりました。その頃には私も落ちついていました。完全に光が消えて元の部屋になつても、その宇宙的な波動はしばらく残っていました。以前より心地よい部屋になり、ちょっとしたパワースポット化したのかもしれません。

頭の中に恐怖心を起こした瞬間に、『感覚器官のトレーニング』というフレーリングが浮かんできました。私はそれを「四つの感覚器官（目、耳、鼻、口）の心をコントロールして、恐怖心を起こさせるな」というメッセージとして受け取っています（その後、重点的にそのことを実践しています）。

その光の海の中での時間は短いものだつたと思いますが、自分には長く感じられました。できるなら、もつとその中にいたかったと思いました（もし生命の海なるものがあつたら、そういう感じかもしれません）。

あの光は、当時私が苦しい状況にながら他の人のために祝福の想念を送り続けていたので（いつも怒る会社の上司などに）、スペーススピーブルからのプレゼントなのではないかと思つています。それはたいへん宇宙的で、マイナスなものはまったくない光でした。あの目撃の頃に主人と出会つていました。そして忙しい会社とも、結婚というかたちで祝福されて辞めるこ

とができました。あの目撃は私に勇気を与えてくれたように思います。あの目撲のことを人に話しますと、体の中からパワーが湧いてくるような感じがします。今でも――。

## 二個のボール型UFO

一九九〇年の夏の終わり頃、自分の部屋でのことです。会社が忙しくて疲れ気味だったと思います。その夜は眼を閉じましたが、しかし次第に眠くなつていきました。

半分眠つて半分起きているという変な状態でした。眼を閉じて、眠つていたのか、気持は安心してリラックスしていました（以前にも似たような状態になつたことがあります。目を閉じているにもかかわらず天井が見えるのです。そして天井にモヤのような、白い煙のようなものが動いているのが見えました。全然怖い感じではありませんでした）。そのときは目を閉じたまま外の物が見えるわけではありませんでした。しかし、まわりの様子がとても敏感に感じられました。

そのうち夢を見ました。夢を見ていました。夢の中には、当時勤めていた会社の社長の怒っている顔が出てきました。私の気持は「イヤダ！」と思つているようで、その映像は消えて、今度は私の部屋に変な人が座つていま

した。どうして？と思いつつ、明るいことを考えようと思いました（そのまま変な人に関心をよせたままですと、どんどん怖い夢になつてしまいそうでした）。考えなくても、ちょっと想像するだけでも夢の中（シータ波状態）。潜在意識とつながっているときは敏感になつていて、悪いことは悪く、良いことは良い状態で頭に（脳に）来るようになります。

疲れているときには怖い夢を見ました。なかなか目が覚めず、このまま寝ていたのでは悪い波動でよけいに疲れてしまします。そういうときに限つてとても眠たいのですが――。

なんとか意識を変えようと夜中に音楽を聴いたりするということがあります。今はそういうことは起こりません。眠る前に楽しいことを考へるようにしているからです。頭の中でそういうことを考えあせつていました。

すると、タンスとその隣に下げであるハンガーが頭の中に映りました。白いハンガーは白っぽい球体になりました。とても驚き、目を覚まさなくてはなりません。眠る前に楽しいことを考へるようになります。

## 空間に白い球体が二個

今まで見ていた頭のなかの映像は消え、自分の部屋が目に映りました。上半身を起こして目が覚めています。

すると一瞬白っぽい球体が見えました。そしてそれは消えたのか隠れたのか、見えなくなつてしましました（私が驚いたからでしょうか）。

まだ夢を見ているのかもしれない。

## 霊は存在しない

私が見た物と同じ物かもしないと思いました。

その事を会員の方に話しましたところ、靈は存在しないと言われました。靈は残留想念だというほうが、良い表現だと思います。その後、あの夢のようにものは、脳が波動や自分の想像を起きたまま見れるのだろうか。自分に問い合わせをしました。声を出して普通にしゃべれます。

あたりを見回しました。変な物がいるのではないか。窓を開いていることに気がつき、そこを見ていますと、さっきの球体が二個ユラユラと、とてもゆっくり窓から外に出で行くではありませんか！

二個でした。悠長に飛んでいるそれは小さめのメロンぐらいの大きさでした。その頃は小型UFOの存在を知らなかつたので、それはそれは驚きました。この目で見た物をなんと説明してよいか、わかりませんでした。

その後、東京月例セミナーに出席する機会に恵まれました。会員の講演は松村芳之氏で（東京本部役員）小型UFOがひんぱんにまわりに来ていた時期があると話されていました、私の場合もそうかもしれないと思い、安心しました。『UFO—遭遇と真実』（中央アート出版社）で齊藤庄一氏が小型UFOについて話しておられました。

「それはドッジボールぐらいの大きさで、夜は薄い白色系の色で光つていて、右から左へ直線に落ちていきました。

二つだけ残しておいた洗濯物を取り込みもうとベランダに行き、なんとなく外の景色を眺めて目がいつた所にヒュードルが走りました。南東の方角に走つた」とあります。それを読みまして、

## 光線の走行

一九九二年一〇月九日（日本GAP総会の前日）、つくば市吾妻（学園都市）の当時住んでいた公務員宿舎六階のベランダで、東南の方角に目撃しました。形は、はつきりせず、光線が走つたと思いました。夕方の五時から六時頃のことでした。

一つだけ残しておいた洗濯物を取り込みもうとベランダに行き、なんとなく外の景色を眺めて目がいつた所にヒュードルが走りました。南東の方角に走つた」とあります。それを読みまして、

目撃の直後、間髪をいれずに電話のベルが鳴り響きました。それは伊藤陸史氏からでした。「あすの総会に一緒に行きませんか」というものでした。忙しさのあまりGAPの総会が明日だということを忘れていました。

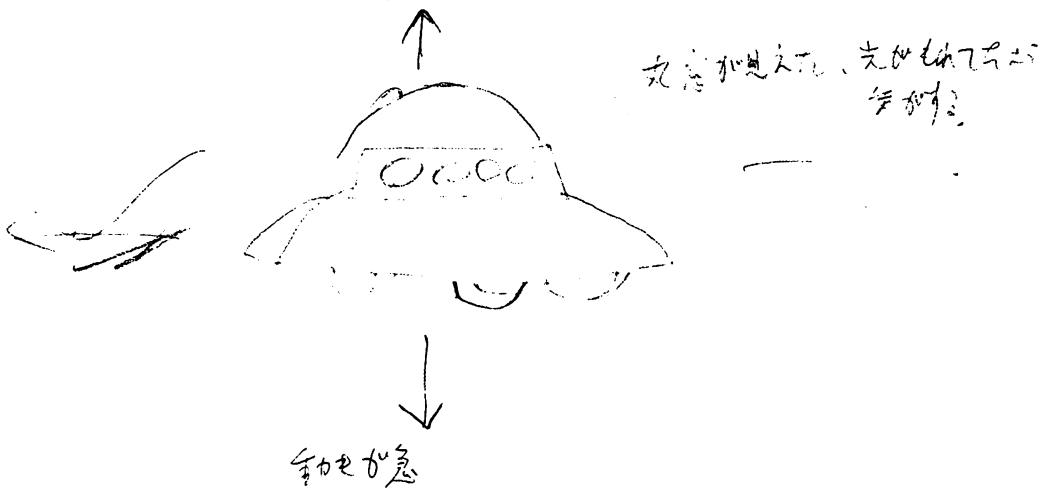
里帰り出産をし、帰ってきたばかりの頃でした。睡眠時間が三時間あまりという日々をすごしていました。頑張りすぎて肉体的にも精神的にも疲れました。

このときの目撃は涙が出るほど嬉しい思いをしました。頑張ついた私に一声かけてくれたのかもしれません。そして明日は総会なんだよと教えてくれたのかも。今まで一度もかかつてこなかつた伊藤氏からの電話のタイミングは素晴らしいものでした。当時は我が家が近くでした。

ここまで読んで下さった皆様に感謝申し上げます。そして協力してくれた主人と息子にも。特に息子の光にはありがとうございます。(編注)ご主人の石井晴美氏は二〇年以上渡る古くからのGAP会員。息子さんは光(ヒカル)と名づけた

## 高松市で目撲されたアダムスキーモードUFO

Adamski-type UFO Witnessed in Takamatu



おき松島駅より歩いて帰宅途中  
屋島方面に見えた。

日本GAP高松支部代表・関高明氏の報告によると、昭和62年ないし63年頃の10月下旬のある夕方5時から7時までのあいだ（本人は年月日をよく覚えていない）、高松市に住む小島靖子さんという当時60歳代の婦人が、松島駅より歩いて帰宅の途中、突然、空中に不思議な物体が無音で飛ぶ光景を屋島の方向に見た。かなり低空であつたらしく、数個の丸窓がはっきりと見えたり、そこから光が洩れていたような気がするという。

これは高松支部が同市内画廊ギャラリー宮脇において、1992年2月上旬、UFO写真展を開催したときに本人が見て関氏に話した実話である。上のイラストは関氏が本人から詳細を聽取しながら描いたもの。全くのアダムスキーモード円盤であることが分かる。目撃時間は約1分間。UFOは木の葉運動のように急な動きをしていた。本人はそれまでアダムスキーモードの名を全然知らなかったが、UFOや異星人の存在は信じていたという。周囲の人達からヘリカ何かの誤認だと非難されたので、目撃年月日、時刻、場所等はいつさい記録しなかった。本人は今も健在で、この目撃は絶対に真実であるから誰に何と言われようと平気であると断言している。

高松市には1984年初秋の頃、当時、市内の木太地区に住んでいた日本GAP会員の西本有水子さんの長女である奈生（なお）ちゃんという当時6歳の少女が、超低空に降下した眼前のアダムスキーモード円盤の丸窓から少年が微笑して手を振るという驚異的な光景を目撲した事件が発生している（詳細は『UFO—遭遇と真実』（中央アート出版社）に掲載）。

# 私のUFO目撃と宇宙的な生き方

忍田 裕昭

## 見上げると 美しい円盤型UFOが

一九五七年頃と思いますが、私は円盤型UFOをよく間近で見たことがあります。ついぶん前のこととて、小学校三年生のときだつたと思いますので、一九五七年としておきます。

その当時住んでいた都内狛江市の自宅の庭に立つていたとき、ふと空を見上げたのです。薄雲の日でした。すると、頭上二、三百メートルぐらいの空中に、ちょうど船底を私に見せるように円盤型UFOが浮かんでいたのです。

私はその頃、空飛ぶ円盤のことは雑誌等を読んだり見たりして知つていませんから、それは間違いなく「空飛ぶ円盤」だということが分かりました。その異様さは今も脳裏に焼きついています。異様でありますながら非常に美しく、端整でありました。

私がそれを見つめていたのは、おそらく三秒前後だと思います。その円盤型UFOを見上げたまま、またたきをした瞬間、それは音もなく一瞬にして消えていたのです。しかしその物体の凄いとか言いようのない形を脳裏に

焼きつけるには、それぐらいの時間で充分でした。

私はこのことをこれまでに自分の記憶の中にしまい込んでおきました。

私は、このことを話しても誰も本気にしないのではないかと思つてきたからです。今もそういう気持が強く残っています。

これまでテレビ新聞雑誌等でUFOのことが報道されたたびに、世間一般では、流星だ、隕石だ、人工衛星だなど、良識あるといわれている人々が発表していましたが、私はそれらをUFOなのだろうと思つていました。

私は四歳になるまでUFOのことには、それが実在するということは分かつていても、UFOについて深く知るとは思つていなかつたのです。しかし四歳になる一九八九年の夏に、頸部に落ちるや否や、それは空気中にすっと消えてなくなってしまったのです。

二度目は自宅の庭で一人で遊んでいたときでした。一度目と同じ物が私のまわりに空から降つてきて、同じようにすっと消えたのです。

その当時、私の住んでいた町の上空には、よつちゅうアメリカ軍のジェット機が飛び交っていましたので、空から降つてきたそれはレーダーの電波を妨害するような物ではないだろかと思つていたのです。そのようなわけで、身体をまったく動かすことができない状態になってしまい、病院のベッドの中、彼ら（スペーススピープル）ならこのケガの治療が可能かもしれない」と思うようになりました。

そして退院後、UFOについての真相を知ろうと思い、いろいろな書物を読みあさつているうちに、ジョージ・

アダムスキーのことを知ったのでした。不思議な現象が二度も発生

私は入院中にそのことを思い出し、空から降つてきた物体は彼らからの贈り物だったのではないかということに気づいたのです。そしてそのことに気づいたために、彼らはわざわざ私の頭上すぐ上の所に現われて見せたのではないかと強く思いました。

身体が弱かった時期から次第に強くなつていった時期が、空から降つて来た物を浴びた後であることと符号しています。

一度目のそれは、私が小学校から一人で帰る途中、長さ約二センチ、幅約二ミリの非常に薄くて光沢のない銀箔のようなものが、空からひらひらと私の周囲に落ちてきて、手のひらや道路

上に落ちるや否や、それは空気中にすっと消えてなくなってしまったのです。

二度目は自宅の庭で一人で遊んでいたときでした。一度目と同じ物が私のまわりに空から降つてきて、同じよう

## 自分は肉体ではない

退院後、ジョージ・アダムスキー全集に出会い、スペーススピープルのことを知ることができました。そしてスペーススピープルの生き方に非常に感激するところがありました。そしてそれまでの自分の生き方に反対する機会を持つことができ、具体的には書きませんでしたが、ケガをするまでの私はあまりにも片寄った生き方をしていたのではないかということに気づきました。

私は小学三年生の冬以降、身体が少なくなつてきました。

私は小学三年生の冬以降、身体が少し丈夫になり、病氣で休むことは

という考えをもつていて、しかし入院中のベッドの中で、まつたく動かすことのできない身体をもてあましながら、あれこれと考えていました。あるとき、ふと思つたことがあります。それは、「自分は肉体ではない」ということでした。

それは、「自分は肉体ではない」ということでした。

そのとき、かすかにそう思つたことが、退院後、ときを経るにしたがつてやはり私自身は肉体ではないということを、実感として思えるようになつてきましたのです。それは何物にも制約されない存在であり、「眞我」とでも言えばよいのでしょうか。私に内在する何か絶対に変化しない存在があるという実感です。

私がふと思つたことが実感としてそ  
う思えるようになつてきたきっかけは、アダムスキ全集によることが大きか  
つたのです。

**エゴが消える**

その後、不自由になつた身体を彼らなら治してくれるかもしれないという私の思いは次第に消えました。

それは、ケガは自分の心に原因があつたことが分かつたこと。世界には私と同じようになつて不自由な身体をした人が限りなくいるなかで、自分だけが治してもらおうというエゴで、心まで不自由にしたくなかったことにもあります。しかし私の思いが消えていった根本

常に外部の条件に左右される肉体を  
自分自身とと思っていたのでは、私は、  
宇宙の意識が慈悲であり慈愛であると  
認識することはできなかつたと思いま  
す。

暑いときは汗を流し、寒ければ厚着をしなければなりません。肉体は外部の条件に反応して適応するようにつくられていますが、それは肉体の機能を適正に維持するためであると思います。また、四つの感覚器官（目、耳、鼻口）や触感によっては、宇宙の意識をとらえることはできないと思います。それらの感覚器官は肉体に付随するものであり、肉体を保護したり維持したりするための使命しか与えられていないからです。

宇宙の意識とは何なのか。私はそれを実感したことがあります。宇宙の意識とは慈悲慈愛であります。

## 宇宙の意識について

今年8月11日、アルゼンチン中部の町クトラルコーの近郊に皿型のUFO（未確認飛行物体）が出現し、目撃者がビデオ撮影に成功していたことが16日に明らかになった。

UFOが出現した町は停電になり、突風が突然発生、エンジンが動かなくなった車もあるという。

UFOをビデオに納めた学校教師のルイス・ルナさんは「町全体が停電した。すると突然、空に青い光が見え、強い光がどんどん自分に近づいてきた」と語る。急いで妻子を呼んで様子を見ていい

その時、町は停電。突風が吹き、車のエンジンもとまりた。

## アルゼンチンにUFO出現

ると、UFOは地上3mの高さで停止し、数秒間動かなかったという。

同じく家族とともに目撃した消防士のイスマエル・パルドさんは「UFOは約400mの距離から一気に約100mの所まで近づいた。私達は連れ去られると思ったが、UFOは約45分間、そこにとどまつただけだった」と話した。

アルゼンチン南西部のアンデス山脈上空では、7月31日、民間航空機のわきをUFOが数分間「並走」したという報告もある(8月12日付松竹新聞)。

識と融合することができると思っておりましたから、そのときはまさにそのような状態であったのです。現在の私は身体が不自由ながら元気で過ごしております。

最後に、私が見た円盤型UFOですが、アダム・スキーモーの円盤型UFOは第二惑星のそれと思っていますが、私が見た円盤型UFOは、円盤の真下を見ただけで上部や側面を見ていないた

め、それとは少し違う箇所がありました。それは、下に突き出ている三個の乳白色をした曇りガラスのような半球の突起物が、写真等で見た第二惑星の円盤型UFOのそれにくらべて大きかったです。いろいろ調べた結果、それは第四惑星のものではないかと思つてゐるのですが、まだはつきりとわかつていません。

The Dawn of the Space Age  
by Hirokazu Murakami

# 宇宙時代の夜明け

科学雑誌「ニュートン」でNASAが二〇〇四年の土星探査に向けて、九七年に探査機を打ち上げる計画を発表しています。米ソ欧の宇宙開発機関はすでに円盤型宇宙船を所持していて、ボイジャーとガリレオ探査で、我々太陽系の惑星については正確なデータを得たものと思われます（詳細は今なお解析中でしょう）。

金星、火星（月にに関してはもちろん

人）については昭和三〇年代からの無人、有人探査（火星には一九六七年に着陸している）で、ほぼ地表、大気の状態などを把握し終えたものと考えられ、次の目標として土星がターゲットにされていると思われます。

月面にはアポロ以前から、火星にはそれ以後、地球人が降り立つていて思えます。木星がなぜとばされたかは、おそらくシユーメイカーレビ彗星の突入で、木製大気に異変が生じたと推測して探査を断念したのか、木星社会の側から探査に問題が生じたかのいずれかでしょう。

宇宙探査も莫大な予算がかかり、米ソ欧とも財政難、予算縮小で、数年に一度しか探査機を出せませんが、月探査ロケット以来（一九五〇年代に始まっている）五〇年で土星まで正確な調査が及ぶことになります。

地球人の探査は軍事面と科学面の両面があつて、異星人側も軍事目的の探査には力で介入しているようです（アポロ一二三号やソ連のミサイルロケットト）。

米欧の宇宙開発機関が宇宙探査を進める背景には、やはり一九四〇年代の円盤墜落回収事件があつて、アダムスボイジャーとガリレオ探査で、我々太陽系の惑星については正確なデータを得たものと思われます（詳細は今なお解析中でしょう）。

金星、火星（月にに関してはもちろ

一九四〇年代当初は国家安全保証上、一般社会に混乱が派生するのを防止するための（宇宙人に対する恐怖、敵対心等）情報隠蔽工作が行なわれました。が、一九五七年の地球観測年を境に、地球環境の危機と、その後の人口爆発で宇宙への進出が急務になってきて、さらに情報公開法の改正があつて、三〇年たったマル秘文書がおおやけにさりげなく、UFOや異星人の存在について公言する元軍人や知識人がふえたしました。

メキシコ、ブラジルのように異星人の存在を公認する国も現われ、異星人の存在を扱ったVTR（レンタルビデオ）も一般市民に広く流れ（「未知との遭遇」、昨年の新作「ロズウェル」その他、）異星人の存在については、（もはやUFOが存在する、しないではない）皆さんご自由にお考え下さい」という段階に来ています。

政府としても軍としても、「いない」とは言つておらず、「いる」と思えばそれでよい、と少しづつ一般市民に宇宙への認識を浸透させていると思われます。

依然として真実の宇宙情報はトップシークレットのままでですが、政府や軍、NASAや国連、バチカンのトップは情報を出したいが、政財界、宗教界、

学会に大混乱が発生するのを恐れるのか、それとも今までの情報隠蔽政策に対しして一般市民が決起するのを恐れるのか、手元に抱える莫大な真実の情報と、自らの政策がつくりだした現実社会との矛盾になすすべもなく苦しんでいるのが現状ではないでしょうか。

異星人の世界にもタテマエとホンネはあるのかも知れないので、いつまでも秘密が隠し通せるわけはありません。いざ明らかになつて責任問題が噴出してくるぐらいなら、今のうちに思いきつて情報公開政策をとつたらどうでしょう。

これからますます情報化社会になり、一般市民も居ながらにして莫大な情報源にアクセスできますし、高速・大容量の情報をコントロールするのは困難になります。まだ我々地球人はテレパシー能力を発達させるところまではいかなくとも、コンピューターネットワーク通信が、その一歩手前まで進みます。

政治不信が高まり、政財官を巻き込んだ疑惑と汚職だけの社会の中で、政治に信頼を回復させ、社会に未来への希望と夢と活力をとりもどすために、宇宙探査の情報公開を進めてゆくことが急務ではないでしょうか。

それは切迫する来世紀の黎明期にこそ、輝かしい宇宙時代の幕開けとして世界に真相が公開されると思うのです。お互いに頑張ろうではありませんか。

# 人間の実態・意識・テレパシー原理

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集 連載12〉

この記事はアダムスキーがサンフランシスコで行なった講演の最終回。人間と「宇宙の意識」との一体性、人間の永遠性等を詳述した宇宙哲学解説の白眉。次号から別な講演を掲載。

## 『心』は何も知らない

さらに腹の中には掃除夫もいます。

彼は、そこに残された不要なものを集めて投げ捨てる仕事に従事しています。つまり排泄の作業を担当しているわけです。排泄がうまく行なわれないかぎり、皆さんは決して健康を保てません。でも『心』はそのとき、ゴルフだとか野球だとか、あるいは他のいろんなことに忙しくて、体の中でそんなことが行なわれていることなどを全く知りません。

また、『心』が正しく機能しないで、

イライラしたり腹を立てたりしていたとしたら、その掃除夫もまたストライキを起こすことになります。働くことをやめてしまします。彼は、歪んだマインドとは決して協調しません。その

結果、食べ物はそこにつまでも残り、やがて酸酵し始めます。同時に、そこからは大量のガスが発生し始め、やがてそのガスは、お腹に充满します。

そうやって皆さんは、完璧な便秘の状態になります。お腹がパンパンに張つて、体調は最悪になります。そして、その責任はすべて皆さんの『心』にあります。要するに、そのとき皆さんは、宇宙の法則、神の法則に逆らったために、その代価をたっぷりと支払わされているのです。

それは皆さんの『心』が『知る者』ではないということを見事に証明するものです。そのとき皆さんの『心』は何も知らないために、皆さん自身を傷つけているのです！ 別の例

をあげてみましょう。

## ヴァイオリンの四絃のたとえ

ヴァイオリンには四本の絃があります。それぞれの絃との調和を全く無視して、勝手に音程を調節したならば、どうなるでしょう。皆さんは、それらの絃の上に弓を走らせて音を出すことはいくらでもできます。しかし、それでもメロディーを奏でることは到底できません。皆さんの四つの感覚器官（目、耳、鼻、口）が互いに争っているとき、皆さんはそれと同じことをしているのです。そしてこの世界全体もまた、現在それと同じことを行なっています。

皆さんは、四本の絃を正しく調絃し

## 四つの感覚器官の争い

私は、皆さんの感覚器官が犬や猫のように互いに争いを続けてることを簡単に証明できます。この会場の床が、とてもなく敏感な状態を作りかえられたとしましょう。花びらが一枚落ちただけでも、皆さんの誰もがはつきりと聞くことのできる、大きな音を発生する状態でです。実際、今の我々の技術をもってすれば、それは簡単にできることです。

我々が今、そんな床の上にいるとし





▲超能力者であったアダムスキーは、ある日過去世透視によって四角な窓のような枠の中にイエスの姿が見えたので、画才豊かな彼はそれを油絵に描いた。この絵が彼の高弟であったメキシコ市のマリア・クリスティーナ・デ・ルエダ夫人に贈られて、夫人の大邸宅の特別室に飾られていたのを証言（久保田八郎）は1977年8月に見たことがある。しかし後にマリア夫人は逝去し、遺言によってこの絵は棺に納められて遺体とともに焼かれた。この写真はアダムスキーが同家を訪れて自分が描いた絵のそばに立っている姿の写真が壁に掛けてあったのを撮影したもの。

撮影／久保田八郎

させた『心の未開拓分野』というプログラムは、我々が一般に言う触覚なる者は、感覚などではなく、単なる神経的反応にはならないことを証明しました。それは、動物が殺された瞬間に発生します。そのとき、視覚は言うであります。他のもう二つの感覚に関するところでも、ベル電話会社がスタート

ましよう。そして、今この瞬間に、そなかつて歩いてきているとします。しかし、音は全く聞こえません。というのも、誰にも内緒でそのように調節されているためです。でも皆さんはそれを知りません。皆さんが知っているのは、この床がとても敏感能にできているということだけです。

そこで皆さんの目は言うでしょう。「彼は確かに歩いている。○○さんじやないか。私は彼のことをよく知っています。間違いない。彼は今確かに歩いている」

そこで皆さんの耳はそれを信じるといふことだけです。

「彼が歩いているだつて？ そんなこと、あるはずがないじゃないか。この床がとても敏感能なことを、僕はよく知っているんだ。ここを音を立てずに歩くことなんて、できるわけがない」

また、別の目は、こんなことを言うかもしません。

「これは、魔法だ！」いや、集団催眠かもしれない。とにかく変なことが起こっている。私にも確かに見える。でも音が聞こえないんだ

要するに、皆さんの聴覚が、皆さん

の視覚を全く信じていない状況が発生しているわけです。さらに、この床の上で足音だけを作り出したとしても、同じようなことが发生します。そのとき、視覚は言うであります。誰かが床の上を歩いている。間違いない。これは人間の足音だ

しかし、視覚は、何も見えないため

に、聴覚の指摘を頑強に否定するで

しょう。皆さんこの二つの感覚は、そのようにして、すぐに仲違いを始めます。他のもう二つの感覚に関しても

全く同様です。

一方、フィーリングと呼ばれているパワーがあります。フィーリングとは、何かに気づいている状態です。そして

気づきは、常に意識とともにあります。意識を持たない人間は、死んだ人間です。分かりますね。

## フィーリング——意識

意識される意識——このパワーは、それ自身を、人間という生命体内のあらゆるものに与えています。それは、それ自身のパワーを、皆さんの四感のすべてに平等にそそぎ込んでいます。皆さんは、実際には四つの感覚しか持たず、その四つは、この一つのパワーが等しく注ぎこまれることで、それぞれが機能を發揮しているわけです。それは、それ自身をあらゆるものに等しく与えています。ちょうど電気がそれ自身を多くのものに与えているのと同じようにです。電気は人を殺す道具にさえそれ自身を与えています。これは永遠の真実です。

## 人間は眞実を知らない

我々が今日ここで話題にしている人間なるものは、我々がこの地球上に生まれるはるか以前に、他の太陽系の惑星からやつて来ました。そしてこの地球に今までずっと存在し続けてきました。しかしほとんどの人は、自分をうまく利用していません。自分自身を全く知らないからです。

人々は自動車を買って、ボルトやナットの一つひとつにいたるまで実によく研究します。そのため彼らはそれが故障しても、とてもうまく修理します。しかし、彼らも人間と呼ばれる機械にはかなりません。だというのに、彼らはその機械に関しては何も知らないのです。彼らは、自分自身を全く研究せず、ただ激しく痛めつけるのみです。

## 肉体はすべてを知る

我々は一度この肉体を理解したならば、これまでに創造されたあらゆるものを探してくるようになります。なぜならば、この肉体は大小取り混ぜたりとあらゆる法則によって支えられている、これまで常に存在し、今後も永遠に存在するものの現われであるからです。その『永遠なるもの』は、今ここに存在しています。この肉体が「いかなる人間にも複製することが不可能

なもの』だと頻繁に語られているほどに素晴らしい機械であるのは、それゆえのことなのです。

皆さんは、その肉体の中にあらゆる知識を所有しています。知識はその中にあるのです。しかし皆さんは本屋に走っては私の本を買い、あるいは他の誰かの本を買い、それを読んで、それで終わりにしてしまっています。ただそれだけで、決して自分自身に目を向けようとしないのです。

宇宙哲学はこれまでいかなる変化も体験していません。それは、宇宙の觀知が宇宙を通じてその姿を現わしていくがゆえに宇宙哲学なのです。それは宇宙を動かしているパワーそのものだとさえいえます。それは常に宇宙とともにあります。それは常に宇宙とともにあります。宇宙がなければそれも当然存在しません。

生命は絶対にストップしません！ 絶対にです！ 皆さんは一つの家（肉体）から次の家へと次々に住処を変えています。それがいわゆる死であります！ 生命は絶対にストップしません！

つたりすることも、どこかの溝で横たわったりすることもなく、延々と活動を続けるのです。

## アダムスキーの妻が語つたこと

ああ、あのことを話しましょうか。

皆さんにとって良いことかもしません。今日ここで話す予定ではなかったのですが、今ちょっと閃きましたので、走っては私の本を買い、あるいは他の誰かの本を買い、それを読んで、それで終わりにしてしまっています。ただそれだけで、決して自分自身に目を向けてはならないのです。

宇宙哲学はこれまでいかなる変化も体験していません。それは、宇宙の觀知が宇宙を通じてその姿を現わしていくがゆえに宇宙哲学なのです。それは宇宙を動かしているパワーそのものだとさえいえます。それは常に宇宙とともにあります。宇宙がなければそれも当然存在しません。

生命は絶対にストップしません！ 絶対にです！ 皆さんは一つの家（肉体）から次の家へと次々に住処を変えています。それがいわゆる死であります！ 生命は絶対にストップしません！

私は、そのとき、あまり深く考えませんでした。彼女もさらっと言つただけで、そのことをくり返して言つたりもませんでした。私たちは自然に次の話題に入つていたのです。

## メリーノ突然の他界

そして、彼女がこの世を去るときがきました。当時私たちはパロマーテラセズに住んでいたのですが、そのとき妻のメリーノロサンジエルスに出かけました。家を出発した時点では、どこも悪そうではなかつたんですがね、ちょうど、デスマンド・レスリーが訪ねてきていたときのことでした。

それと、カウボーイ俳優のジャック・マホニー（あるいはマーニー）も来ていました。彼は私のとても良い友人なんです。それで、彼がやつて来たとき、私はなぜか落ち着きませんでした。しかし彼女は「至高の觀知」を強く信じていました。それで、一年に一度、いや二度ほどだつたでしょ？ か、彼女は、家のテーブルに座つて、胸にあたためいた思いを滔々と語る習性がありました。そしてあれは確か家ではなくて夏に公園に行つたときのことです。そのとき彼女はこんなことを私に言いました。

「ジョージ、私ね、自分がこの世界での役割を終えた後でどこに行くことに決まりました。彼女が飛び込んだのは、その次の日のことでした。デスマンド・レスリーがまだ私のところにいまして、あれこれと手伝つてくれたのです。彼女の死を知つて私は、

「ジョージ、私ね、自分がこの世界での役割を終えた後でどこに行くことに決まりました。彼女が飛び込んだのは、その次の日のことでした。デスマンド・レスリーがまだ私のところにいまして、あれこれと手伝つてくれたのです。彼女の死を知つて私は、



## ●カナダに出現したUFOの編隊

1995年4月6日、宮崎県の角脇篤英氏（43歳）が、カナダのUFO出現地として名高いバンフのレイク・ルイーズで写真を撮ったところ、右上の空中にUFOらしき物体群が写っていた。撮影時には気づかなかった。秋山真人氏の鑑定によると本物のUFOの編隊であるという。

彼女の埋葬が済んで少し過ぎた頃、金星人のオーソンがやつてきました。断つておきますが、オーソンは決して肉体のない靈などではありません。彼は私が水道管とガス管を家に引き込むのを助けてくれました。それらの管を、家の外にいた彼が壁の穴を通して中に押し込んでくれたのです。そして私は内側でそれを受け取りました。靈がそんなことをするわけがありません。となるでもないことです。オーソンは皆さんや私と全く同じ肉体を持つています。彼は普通の人間です。

とにかく、いずれにせよオーソンがやつて来ました。そうしてこう言うのです。「どうやらあなたは、メリーアーのことで混乱しているようですね。（金星に転生したことを）信じたいと思う一方で、確信が持てないでいるでしょう。少しがっかりですね。彼女は息を引き取るとともに、彼女が望んでいたとおりの場所（金星）で間違いなく生まれ変わりましたよ」

それを聞いても私はまだ半信半疑でした。するとオーソンは言いました。「疑いを抱いてはダメです。そんなものは捨ててしまうことです。彼女が少

ある思いにかられました。メリーアーの（金星に行く）夢はかなつたのだろうか。私は確信が持てませんでした。

## 金星人の証言

し成長したら会わせてあげますよ」

私は待ちました。長い間待ちました。  
そしてこの前の一二月、クリスマスの二週間ほど前に、私はボーアイズと三日間を一緒に過ごしました。私は異星人の男達をボーアイズと呼んでいます。彼らは私にとつてまさしくボーアイズですかね（訳注＝大人の男性をも親しみを込めてボーアイといふことがある。ボーアイズはその複数形）。

## 金星に転生した妻に会う

私は、彼らの宇宙船に乗りました。そして、かつて私の妻であった少女に会いました。向こう（訳注＝この場合は金星）の人々は成長がとても早いものですから、彼女は一二、三歳にも見えました。私はすぐに彼女の顔にメリーラード（おもむか）の面影を見つけていました。全く同じというわけではありませんでしたが確かな面影がありました。

ただ私は彼女に会ったとたん、やや当惑しました。というのは私は少女時代の彼女と会ったことがなかったからです。人間というものは成長とともに変化しますからね。ここでも向こう（金星）でも、それは同じです。それともかく、私は彼女と話をしたいと考えました。彼女もそれに応える用意ができていました。

私が彼女に話したことのほとんどは、当然のことく、私の記憶の中から引き出されたものでした。そのため、ある時点で私の心にまたもや疑いの念がわきあがつてきました。これは本当にメリーラードだろうか。我々の心の悪い習性です。彼女は単に私の心の中を読んでいるだけではないのだろうか。私の心を読めば、いくらでも私の話についてされることを、どうやつたら確かめられるのだろう。

彼女は、私のそんな想念の流れを見事に読んでいました。そして千九百、千九百、えー何年だったかは忘れましたが、とにかく、かなり昔に起こった、私が完全に忘れてしまっている出来事について話しましよう、と言いました。それは、私の記憶から完全に消え去っていた出来事でした。彼女はその出来事を私に話しましたのでそれが再び私の記憶によみがえりました。そして私は、彼女がメリーラードであることを確信しました。

私が彼女に写真を撮つてもいいかとたずねましたら彼女はだめだと言うのです。私はほかにも彼女と話したいことはこう言つて私を黙らせました。しかし彼女

## メリーのすごい記憶力

私が彼女に話したことのほとんどは、当然のことく、私の記憶の中から引き出されたものでした。そのため、ある時点で私の心にまたもや疑いの念がわきあがつてきました。これは本当にメリーラードだろうか。我々の心の悪い習性です。彼女は単に私の心の中を読んでいるだけではないのだろうか。私の心を読めば、いくらでも私の話についてされることを、どうやつたら確かめられるのだろう。

## い過去に執着してはいけない

「いいですか。私たちは、一つの段階を終えて次の段階に進んだら、前の段階での出来事をあまり思い出さないほうが良いのです。前の段階でのことをいつも思い出したりすると、新しい段階でしつかりと学ぶことができなくなってしまうのです。私たちは、二

人の主人に、同時に仕えることはできません。ですから、私は、前のこととはあまり思い出したりもありませんし、常に覚えていたくもないのです。写真も撮られたくないかもしれません。あなたは、もし私の写真を撮れば、あなたの体験を人々に信じさせようとしてそれを人々に見せるでしょう。彼らが信じようと信じまいと、そんなことは問題ではありません。でも、彼らやあなたがはありません。でも、彼らやあなたが私の写真を見て、私のことを考えた瞬間、（その波動によって）私の心は地球に引き寄せられることになるのです。それは私にとつては困ることなのです。私はすでに地球での使命を終えています。もう地球での仕事は終わつたのです。そして今、私はここに（金星）にいて、ここでやらねばならないことがあります」

## 生命は永遠に連続する

この話は、あることを明確に証明するものです。私はこの話を誰かの信用を落とすために話したわけでは決してありません。しかしこれはある大切なことを明確に証明しています。イエスは、一緒に十字架に掛けられた泥棒に何と言つたでしょうか。あなたは今日、私とともに楽園にいるであろう。彼はそう言いました。我々は、死んだ後で、どこかに横たわつてしたり、ウサギのように飛び回つたりは決してしないのです。皆さんは引き続いて生きるのであります。『生命』は絶対に立ち止まりません。それは別の肉体に入つて休むことなく生き続けます。そして皆さんはその『観知』なのです。皆さんは、皆さんが考えていくように『形だけのも』ではないのです。

## 宇宙哲学とは何か

「でもあります」と答えました。  
それが、私が彼女に会った最初の日でした。金星にいた三日間のうちの最初の日でした。私は二日目にまた彼女と会い、彼女の家に招待されました。そこには彼女の両親がいましたが、彼らはとても素晴らしい夫婦でした。彼女はその家庭でただ一人の子供でした。

教えています。そして逆に、教えられます。これが宇宙哲学です。それを知つて

「私は彼女に、『今どんなことをしているの？』とたずねてみました。すると彼女は、『私は今、他の子供たちに

いるがゆえに、他の惑星の人々は、互いに深い敬意を払い合っているのです。彼らはあらゆる形あるものを創造主の現われとして見てています。特に人間をその最高の現われとして見てています。彼らの目は、姿形のみには向けられていません。彼らは常に、形あるものを通じてそれ自身を表現している創造主をしつかりと見ているのです。皆さん言い方を変えてみましょう。皆さんは、世の中にはとても多くの人間がいて、それぞれが互いに全く別のことと言っていると言うかもしません。皆さんで音符を考えてみてください。實にたくさんの音符があつて、それらによつて作られた実に多くのメロディーがあります。音楽を作るのは、實に多くの音符が必要とされます。しかもそれぞれに全く異なつた音符がです。

しかしそれらは、うまく並べられると、すべてが一つとなつて素晴らしいメロディーやハーモニーを作り上げます。人類はそれらの音符のようなものです。それぞれが異なる生命の音符です。そして、それぞれが他のすべての音符に敬意を払つたとき、どんな結果が発生するでしょう？ 一つの結果しかありません！ 生命の完璧なメロディーができ上ります。それぞれの生命の音符が調和して完璧なメロディーを奏することになるのです。音楽と全く同じです。それが他の惑星の人々が実践している生命の哲学です。

イエスが、遠い昔に「もしあなたが家族の一人を傷つけたとしたら、そのときあなたは、その全員を傷つけたことになる」と語つたのも、それゆえのことです。もしメロディーの中から音符が一つ取り除かれたとしたら、それだけでメロディー全体がガタガタになってしまいます。それと同じことです。我々はこのことを学ばねばなりません。他の惑星の人々はそれを学んでいます。でも我々はまだ学んでいません。

## まご生命の理解を

我々は生命に関する理解が、まだ全くできていません。我々はまだまだ努力不足です。我々は自分の内部はもとより、他の人々の内部にも神性を見なくてはなりません。あなたが吸つてゐるのと同じ息を——それはまさに神の息そのものです——この空間から皆さんの鼻の穴に吸い込まれてゐると全く同じ息を、他のすべての人々も吸つてゐるのです！

そこまで来ると、皆さんは彼の中に最も自分の中にあるものと同じものを見ざるをえなくなります。彼もまた、生命の、つまり、共に一日を構成するもう一つの音符なのです。さらに他のすべての人々が、それぞれに別の音符なのです！ 我々がそのことを理解し、互いに尊重し合つたとき、我々はすべての一日を完璧なハーモニーに満ちた生命のメロディーとともに生きることになります。

これは、スタンダード石油会社がポンプでくみ上げて皆さんに売つているものでは決してありません。それは皆さんにタダで与えられているのです。これが他の惑星の人々の宗教です。宗教という言葉がいやであれば人生哲学と言つてもいいでしよう。言葉は問題ではありません。しかし、彼らはな

どになる」と語つたのも、それゆえのことです。もしメロディーの中から音符が一つ取り除かれたとしたら、それだけでメロディー全体がガタガタになってしまいます。それと同じことです。我々はこのことを学ばねばなりません。他の惑星の人々はそれを学んでいます。でも我々はまだ学んでいません。

皆さんには、ふだん自分が息をしているのだと考へても、それがあまりにも自然なことだからです。でもときおり考へて下さい。この息なしで私は生きられるのだろうか。今行なつていてることを行なえるのだろうか。今考へているように考へられるのだろうか。いや、絶対にできない！ だとしたら、それが私なんだ！ 私は肉体なんかじゃない！」

さらに皆さんは、こう考へます。

「では、あそこにいるあの男は何をしているのだろう。彼も同じことをしている！」

そこまで来ると、皆さんは彼の中に最も自分の中にあるものと同じものを見ざるをえなくなります。彼もまた、生命はその機能を停止しなくてはならないくなるからです。生命は常に活動しています。なぜならば、理解すべき問題や永遠に進化を続けねばならないのです。皆さんと創造主との間の唯一の違いは、創造主は決して歳をとらないといふ点のみです。皆さん何度も聞いてきたように、創造主は同じ状態を延々と維持し続けています。一方人間は、イエスが語つた「人はそれ自身が考え方となりの者になる」という言葉からも明らかのように、想念とともに常に変化を遂げているのです。私がここでイエスを持ち出したのは、皆さんが彼を良く知っているからで、同じ事は、他の多くの賢者たちによつても語られています。

## 人間は活動する想念

いざれにせよ人間は活動する想念です。彼は考えないかぎり動けません。彼は最初、創造主の意識内の想念でした。創造主に思い描かれ、形作られ、息を吹き込まれたのです。そして今や彼は歩き回り活動している想念です。彼は考えないかぎり生きられません。彼が考えるのをやめるときは生きるのをやめるときです。人間はまさしく想念なのです。

そして、皆さんのが自分の意識で知覚しうる生命の意識が存在していない場所がどこにあるでしょうか。どこにもありますん！ ということは、皆さんは、同時にあらゆる場所にいることになります。それを自覚できるかできないかは、皆さん的心の波長を、どんな波動に合わせるかで決まっています。それがすべてです。皆さんは一つの周波数帯にのみ波長を合わせていたのは決して宇宙と一つにはなれません。でも、皆さん、あらゆる周波数帯に波長を合わせることができます。そうすることによって、全宇宙を皆さんのかこに引き寄せることがあります。そうです、皆さんにはそれができるのです！

## 人間は意識そのもの

皆さん、はるかかなたの場所まで、どれほどの速さで移動することができます。意識が移動できるのと同じ速さです。では意識はどれほど遠く移動できるのでしょうか。皆さんは今、意識になることができます。例えば、皆さんのがスイスあるいはローマからこのカリフォルニアにやって来ているとしましよう。そこで皆さん、アメリカに向けて旅立つた港なり駅なり空港に、意識的に、どれほどの速さで戻ることができるでしょうか。まさに一瞬です！ とても時間を計つている暇などありません。あつと言ふ間にそこに行ってしまいます。

意識はいかなる限度も、いかなる距離も知りません。それはすべてを包み込んでいます。なぜならばそれは創造主そのものだからです。そして皆さんのはその意識なのです！ それだからこそ他の惑星の人々は靈媒の力を借りたり、奇妙なからくりを用いたりしなくとも様々なことを知ることができたのです。彼らは彼ら自身を良く知つてゐます。しかし人々は今、あまりにもこの地球が生んだ、マルコニーやパンクその他のあらゆる偉大な科学者たちは決して心には頼りませんでした。彼らはもちろん心を用いていました。しかし彼らは意識に頼つていたのです！

めに、眞実を自分たちのもとに引き寄せることができたのです。バーバンクはそのことを明確に語っています。彼は意識を神と呼んでいます。

もし皆さん、神という言葉が好きであるならば、意識はまさしく神に他なりません。自然のすべてが具現化している神です。神について学びたいのなら自然を観察することができます。それ以上に良い方法は一つとして存在してません。なぜならば、自然は神の作品だからです！

## 自然界を観察する」と

皆さんは絵を見ているとき、それを描き上げた画家を見ることができました。しかし皆さんは絵を見始めた瞬間に、それを創造した画家の心を理解し始めます。自然界を観察したときにも同じことが起ります。皆さんは自然を観察すればするほど、それを創造した神をより良く理解することになります。聖書も、「自然と親しむ人間は聖霊の道を知り、自然から離れてしまつた人間はその道を知らない」と語っています。しかし人々は今、あまりにも自然界から離れすぎています。

このとえば数年前にパロマー山でこんなことがありました。そこにはウェルズ女史が經營していたレストランがありまして、なかなかの繁盛を見せていました。私が望遠鏡を設置していました。この地球上に集中しています。そして彼らは市部に集中しています。自然界にほとんど思いをめぐらさなくなっています。たとえば皆さんにはカチンコカチンに踏み固められたドライブウエー（訳注）この場合は一般の道路と

のはそのまま近くです。そしてその付近には、かなりの数のインディアンが住んでいました。彼らはいろんな動物を飼っていました。あのあたりの斜面にはたくさんのが木が並んでいて、インディアン所有のブタたちが、それらの木から落ちるドングリを餌にしていました。それである日、一匹の雌ブタが何匹もの子ブタを引き連れて、そこでドングリを食べていたときのことです。観光バスが到着して、五十年配の紳士連中が降りてきました。彼らは母ブタがブタであることはすぐに理解したようでした。しかし子ブタたちに質問してきました。「アダムスキースさん、あのウサギたちは、なんでブタにつきまとっているんでしょうね」

彼らは、あまりにも自然界から遠ざかつてしまつて、いたために、子ブタたちが母ブタの周囲に集まるという実に自然な光景を見ても、そのことを認識できなかつたのです。人々がいかに自然界から遠ざかつてしまつて、いるかを如実に示す出来事でした。同じような例は皆さん周囲にもたくさんあります。とても憂慮すべきことです。

家を結ぶ未舗装の道路)を観察したことがありますか。そこは、鋭いピッケルのようなものでも用いないかぎり、とても掘り起こせないほどに固くなっています。でも春になると、そこから小さな草の葉が顔を出し始めます。それは皆さんにつまみ上げられて、皆さんの手中であつと言ふ間に潰されてしまうほどの、か弱い存在です。しかし、それでも固い地面を突き破つて顔を出してくるのです。そのパワーを考えてみてください! それを導いている観知に目をやつてみてください! 生命の神秘を我々が学ぶために、自然界以上に適した場所がどこにあるでしょう!

## 万物は創造主の現われ

皆さんには、金星に行きたがつています! 火星にも行きたがつています! でも皆さんまだ向こうで生きるために方法を知つていません! いつたい、どうやつたら向こうで生きられるというのでしょうか! 他の惑星の人々はそのすべてを知つています。でも皆さんはそれに関してまだ何も知りません。

一つの偉大な創造王が存在しています。皆さんがそれをどう呼ぼうとかまいません。名前などには何の意味もないのです! もちろんそれは、我々が個々のものを他のものと区別して認識するためには必要なものです。しかし

とても掘り起こせないほどに固くなっています。でも春になると、そこから小さな草の葉が顔を出し始めます。それは皆さんにつまみ上げられて、皆さんの手中であつと言ふ間に潰されてしまうほどの、か弱い存在です。しかし、それでも固い地面を突き破つて顔を出してくるのです。そのパワーを考えてみてください! それを導いている観知に目をやつてみてください! 生命の神秘を我々が学ぶために、自然界以上に適した場所がどこにあるでしょう!

## 賢明と愚劣との相違

賢い人間と愚かな人間の違いはどこにあるのでしょうか。賢い人間は、熱い鍋の蓋で一度手の指をやけどすると、そのファイリングを忘れず、二度と同じ過ちを犯しません。そして彼らはさらに皆さんが同じ過ちを犯さないよう導いてくれます。もし皆さんのが充分

見たならば、そして創造主を理解しようと努めながら少しずつ成長を遂げている同胞として眺めたらば、皆さんは、彼らの欠点を探したり彼らの無知を蔑んだりすることなど決してしなくなるはずです。彼らも皆、皆さん同様に成長期にあります。

もし皆さんが創造主をこの観点から見たならば、そして創造主を理解しようと努めながら少しずつ成長を遂げている同胞として眺めたらば、皆さんは、彼らの欠点を探したり彼らの無知を蔑んだりすることなど決してしなくなるはずです。彼らも皆、皆さん同様に成長期にあります。

## 人間は永遠に進歩する

もし皆さんがこのアイデアを受け入れ、この世界の人類を一つのものとし、皆さんの理解力が飛躍的に高まるはずです。人間はすでに永遠です。人間は何の努力をするまでもなく、すでに永遠なのです。そして皆さんたとえ八十歳であろうと九〇歳であろうと、常に子供のままです。皆さんが知つていることは、まだほんのわずかなことのいいほどです。しかし皆さんには、これからいくらでも学ぶことができますし、そうしなくはなりません。

要するに、皆さんはある大きな教室にて常に学び続けているわけです。そして皆さんのが学習は決して終わることはありません。そうやって皆さんは永遠に成長し続けるのです。それは地

球の学校システムの中で学ぶことと何ら変わりのないプロセスです。

皆さんは、幼稚園から、一年生、二年生、三年生といった具合に、徐々に知識レベルを上げていくことになります。他の惑星の人々は、その点をよく理解しています。ですから彼らは子供たちの欠点を指摘したり、過ちを糾弾したりすることを決してしません。彼らは、一年生もやがて十年生へと進級することをよく知っています。幼稚園児もやがては大学を卒業し、もし望むならば別の大学でさえ学ぶことができます。そしてその後もいくらでも学び続けられます。

我々は、地球人類のすべてを、年齢に関係なく同じ教室で学ぶ同胞として見るようになくてはなりません。それができたとき、我々は自分たちの注意を、互いに欠点を見ることにではなく、互いに助け合い、ともに成長を目指すことに集中して向けるようになるでしょう。これは、皆さんのが金星、火星、あるいはその他のいかなる惑星に行くためにも絶対に従う必要のある法則です。と同時に、これは永遠性というものの意味を我々に明確に教えてくれている法則もあります。

今ここにいる我々の誰もが、これまで常に存在してきましたし、今後も延々と存在し続けることになります。これまでに我々が住んできた肉体と呼

ばれる家の数はまさに天文学的だと言えます。我々はそれらの家の居住者です。そして家というものは時代とともに進歩を遂げるものです。

たとえば、我々の祖父の家は——皆さんの祖先の家の場合も同じだったはずですが——流しやトイレが内側にありませんでした。ですから、雪が二メートルも積もっているときでさえ、外に出て用を足さねばなりませんでした。当時の人々はそんな家に住んでそれでも満足していたのです。

しかし人々は、徐々に学んできました。こうすれば便利だ、ああすれば便利だというように、次々と家に改良を加えてきました。それを続けてきた結果、我々は今、排泄物を一瞬にして家の外に流し出すシステムを利用しています。そしていざれ、そう遠くない将来に、排泄物を水などで流さなくとも、それが出現した瞬間に氣化してしまうようなシステムが開発されることになるでしょう。全く音立てない、パイプも水も必要としないシステムです。それは水資源の保護にも大いに役立つことになります。そうしたら皆さんはそれを当然欲しがるでしょう。そしてそのシステムが完備された家に引っ越すことになるでしょう。

皆さんが肉体と呼ばれる家を離れる状況もそれとほとんど一緒です。一つの肉体とともに充分に学んだとき、皆さんは次のより良い肉体へと引っ越す

ことになるわけです。皆さんはその引越を行なうたびに常に良いい肉体を手にしています。そしてそうすることによって皆さんは、創造主を援助することになるのです。なぜならば、そのプロセスは皆さんがより粗雑な元素のかたまりを、より洗練された表現へと昇華させるプロセスであるからです。

それこそがまさに、生命の目的だと言つていいでしよう。生命は、そのようにして、それ自身をいつも忙しくしているのです。

結局、皆さんや私は、たとえどんなに大きな肉体を所持していようと、たとえ体重が一〇〇キロもあろうとも、宇宙という観点から見るとその存在すら知られない程に小さな存在です。ただもちろんそれは、我々を肉体として見たときのことです。我々は『生命的磨き人』として、その存在が明らかに知られています。しかし肉体としては知られていません。

ではありません。

飛行機に乗つて地上を眺めてみると、道路を行き交う人の群はまるでアリの行列です。そして間もなく飛行機の高度が上がると、人々の姿は全く見えなくなってしまいます。彼等はもはや存在しないも同然です。

結局、我々はその程度のものなのです。とつもなく小さな存在なのです。我々の肉体は自分たちが考えるほどには、決して大きくなれないということです。

ジョージ・アダムスキー（右）



## Letters

## ユートピアシン広場



## 地球鎖国からの脱皮

北海道 大寺 勉

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

地球鎖国から地球人が自覚める時が異星人の仲間になれる時だと思います。しかし、閉鎖性の強い日本人が、欠陥資本主義にどっぷりつかつてアップアップしているのが今日の日本であると思います。科学もデカルト欠陥科学に明治維新以来どっぷりつかつて「今さら漢方東洋哲学など」と、イソップ物語の狐を決めこんでいるものと思われます。

聖書を一度ひもとき、読ませて頂いておられます。欠陥生物の地球上については仏教の見方とキリスト教の見方とは異なります。けれども、宇宙大生命から見ると、地球人が異星人の仲間であることに早く覚めることが大切かと思います。スペースペーパーによつてこそ、東西対立が消え、核も減少していくと思います。でも日本人はこうした世界や宇宙の影の力を読み取る能力はないと思います。フリーメーソンやラロックフェラー、ロスチャイルドなどは日本のテレビに登場しません。またN.H.K.がU.F.O.の特集を組んだこともないようです。

教科書的な科学も大きく後退しつつあります。欧米の方がはるかにU.F.O.を受け入れているようですが、その普及の度合も書物などで紹介して頂ければ幸いです。

来るべき二一世紀へパラダイムシ

フトするにあたつて、心と意識と宇宙哲学を学んでおります。昭和三〇年小学校四年の時に、山頂に三時間くらい浮遊するピンポン玉のようなU.F.O.を見ました。当時北海道新聞では「宇宙特急」という物語を連載していました。これは月を中心とした宇宙もので、月には空気があり人間動物も住んでいること、ダイアモンドを食べる怪星人がいること、腰のベルトを回すと宙に浮くことが、絵と文で物語られています。私はとても興味をもち、切り抜いて持っていました。現在は所有していませんが、先日北海道新聞本社を訪問したところ、マイクロフィルムに納められているのを確認しました。懐かしく、奇遇であると思います。

私はあと三年余りで自衛官を終えますので、子供達に夢を与える仕事をしたいと思っております。息子達も先生のご子息のように米国へ行かせたくも思います。日米安保は日本人の意識改革のために必要です。あの人意識改革のために必要です。ある将軍は、「三沢基地は今日の長崎出島である」といつていきました。日本人の視野が狭く、ほとんど日本人だけの社会ですから、考え方も進歩しないのだと思います。しかし、早く退職して先生のような活動をしてみたいと思います。そうなればよろしくお願い致します。

部屋はあんなに揺れたのに、乾燥機の上にあるダンボールは落ちてきません。乾燥機をかけている時はよく落ちてくるのに、地震の時には何も落ちきませんでした。本当に不思議です。また、実家は古い家で活断層の上にあり、母はタンスとピアノとテレビと本棚に囲まれて寝てました。が、何も落ちきませんでした。家族は皆、大丈夫でした。兵庫県の本家では二階が崩れましたが、全員一階にいたので無事だったそうです。墓のある寺は壊れ、ほとんど

防車が喰っていました。電車は動いていなかつたので仕事を休みました。土曜日には病院で勤めていましたが、先日病院本社を訪問しつた時、急に静かになりました。消防車が喰っていました。電車は動いていなかつたので仕事を休みました。

兵庫県や大阪からも先生がいらっしゃいます。治療所が倒壊したり、マンションの壁が壊れて住めなくなつた人もいます。

## 因果

大阪 中村英津子

大坂支部では毎月先生の元気なお顔をビデオで拝見させて頂いております。講義の内容も回を重ねる度に興味をそります。それは本当に素晴らしいことで、実生活で実行することにより実証されて自分の体験となるからです。こんな素晴らしい宇宙哲学を教えて頂き、いつも何度もお返しすることもなくして申し訳なく思つております。そこで失礼かと思い申上げます。

## 書物よりも実体験

鹿児島県 曽我部くみ子

先般機関誌一二九号をお送り頂きましてどうもありがとうございます。また、「意識の声」もいつもありがとうございます。双方とも素晴らしい読みございます。奈良で開催されました大坂支部大会におきまして、久保田先生が講演された内容をつぶさに思い出しました。「あらゆる書物を読むより実体験の方がはるかに貴い」というようなことを話されたと記憶しております。

の墓が倒れたのに、鎌田家の墓はちゃんと立っていたそうです。私の買つた線香立ても、非常に狭い所に置いてあつたのに倒れなかつたことを聞くと、嬉しくて涙が出来ました。これらは全て私が宇宙哲学を勉強できるようになりましたからです。アダムス博士も立派な人です。

近頃地球は疊りで気圧も低く風の強くなるばかりですが、先生がいつも若々しく活動を続けられます。年に一つを紹介します。宇宙哲学の中の一つは、宇宙哲学の思想を持っています。詩集の中の一つは、『アダムスキー全集第八巻』七ページの九行目に、「また、仏教でも同じような象徴があります。両側に一二の腕を持つ像がそれです。」とあります。この仏像の名前を以前から調べていますが、どうしてもわかりません。教えてください。また、地震雲といふのはどのような形をしているのですか。それから、「スペースペーパー」は太陽系からいらつしゃつていて、太陽系以外にはどのようないい所があるのですか。以上の事柄を何年も前から調べていますが、どうしてもわかりません。宜しくお願ひ申し上げます。

俊太郎詩集を送ります。娘が見つけた線香立ても、非常に狭い所に置いてあつたのに倒れなかつたことを

いたのですが、身近な人にいつも感謝の念を持っています。いいことがあります。

私も最近痛切にそのように感じるところがあります。反面教師という言葉があります。日常生活においていろいろな出来事に遇いますが、そのような時にちょっとと視点を変えて考えてみますと、快くない出来事も、自分にとつて成長の場を与えて考いるのだということに気付きます。私なりのリズムで緩慢ながらも成長していけたらと思います。

## 歴史的偉業ワシントン大会

愛知県 林 国宣

残暑厳しい中、お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。先日は「意識の声」を送付して頂き、誠にありがとうございました。今回、誠にあります。スペースラザーズサイドも大いに注目していると推測致します。

更に、スペースプログラムの一環として、対地球援助計画のターニングポイントになる可能性が高いと思います。この企画が一つの起爆剤となり、今後はアダムスキー問題が大きく再浮上し、来世紀への確かな推進力になるよう思えてなりません。ワシントン市での久保田先生のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

ところで、日本薬局協議会愛知支部大会での久保田先生の講演は、GAP活動として新たなきっかけに値すると思います。古川氏によれば、先生を講演者としてお招きしたいと協議会で紹介したところ、若い方から「あの有名な久保田八郎先生ですか？」との声があがつたそうです。かなり感心されている方もあるよう

ですでの、私もこの機会にたいへん興味を持っております。

九月はワシントン市と総会、そして一月は名古屋とハードスケジュールですが、お体には充分お気をつけてくださいようお願い申し上げます。

## ワシントン市のアダムスキー大会に期待

長野県 宮下かづえ

この度の阪神大震災は世界にとって大きなショックでした。苦痛と恐怖の中で亡くなつた大勢の人々、被災された人々には誠にお氣の毒です。一日も早く元気になって強く生きていってほしいと願うばかりです。

國民は自分のできることを提供し、被災者を励まし見守りながら、その後復興を信じるしかありません。それをしてもつくづく思うのは、地球人は何故こんなにも鈍感なのかという

ことです。地震の前触れは多々ありましたようですが、役立ちはせんでした。日本人はよく「平和はけ」というますが、「平和はけ」しているといわれますが、そのこと自体は悪くはないと思います。それよりも現象や事象に対して鈍感かつ無関心であつてはならないでしょう。私はGAP会員は、テレパシーの感覚がいかに大切であるかを再認識させられました。それにしても一年前のロサンゼルス地震と同じ日の同じ時刻

話は変わりまして、私の身体に起きた妙な出来事をお話し致します。昨年の夏に手や腕に細かい金粉が出現しました。原因ははつきりしません。二度目の時はわざかに大きくなり再浮上し、来世紀への確かな推進力になるよう思えてなりません。

ワシントン市での久保田先生のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

ところで、日本薬局協議会愛知支部大会での久保田先生の講演は、GAP活動として新たなきっかけに値すると思います。古川氏によれば、先生を講演者としてお招きしたいと協議会で紹介したところ、若い方から「あの有名な久保田八郎先生ですか？」との声があがつたそうです。かなり感心されている方もあるよう

の住む土地に発生することがわかれます。その前にちょっとした「力」を加えて被害を最も少なくさせたでしょう。昨年から彼らの動きが激しくなっているとの情報がありましたが、今回の地震と関係があるのでしょうか。スペースブームの方々が常に地球上を見守つてくださる事実に、心から感謝せねばなりません。

この夏に「アダムスキー大会」が開催されることを知り、「やつた！」と大いに嬉しくなりました。それと並んで、アダムスキー氏を認めつつあるとすれば、まさに欣喜雀躍ですね。先生が、日本ではなく米国での大会を望んだのは不況のせいばかりではなく、今回の地震や事件などを考慮し、米国において一般にまったく知られなかつたこの問題をアピールしよう、という意図があるのではと憶測致します。実りある大会を期待しております。

話は変わりまして、私の身体に起きた妙な出来事をお話し致します。昨年の夏に手や腕に細かい金粉が出現しました。原因ははつきりしません。二度目の時はわざかに大きくなり再浮上し、来世紀への確かな推進力になるよう思えてなりません。

ワシントン市での久保田先生の講演は、GAP活動として新たなきっかけに値すると思います。古川氏によれば、先生を講演者としてお招きしたいと協議会で紹介したところ、若い方から「あの有名な久保田八郎先生ですか？」との声があがつたそうです。かなり感心されている方もあるよう

宇宙の意識が私に何かを示唆しているのでしょうか。

昨年の総会で、ロス氏の泥瓦の例え話の最中に、両手の親指がとても強くしびっていました。以前にも気を感じる経験がありました。総会のことがあってから意識するようになりました。それからは宇宙の意識に関する本を読んでいると手がしびれるようになりました。これが本当にエネルギーを感じている状態なんか、それとも単に手の細胞がしびを感じているのかは、よくわかりません。

## 超人的なパワーで大成功を

香川県 関 高明

厳しい暑さも峠を越え、朝夕涼しくなりましたが、お元気でお過ごしのことと存じます。

先般の第一回高松支部大会をきっかけに、福山支部が誕生されましたことは、ご同慶の至ります。福山には熱心な会員が多く、今後の発展が期待できると思いまます。高松支部としても、今回の支部大会で先生から頂戴した知識と宇宙的パワーを元に、更なる飛躍を目指して頑張ってゆきたいと思っております。今後ともご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

さて、いよいよ「アダムスキー大会」が迫ってきましたが、もうすっかり準備万端のことと拝察致します。それにしても一年前のロサンゼルス地震と同じ日の同じ時刻であったことは、誰もが驚いたでしょう。たいていの人はただの偶然としか思わなかつたでしょうが、GAP会員の中には偶然すぎていぶかしく思つた人が少なからずいたと思います。そこで頭に浮かぶのが、スペースブームです。彼らの地球での活動に鑑みて、自然の活動が人間

今回の総会には久しぶりに出席させて頂こうと思っております。その時は、先生の大満足の笑顔とご報告を拝聴させて頂きますので、宣しくお願い申し上げます。くれぐれもお体に気をつけてください。

## 素晴らしいワシントン市の講演

大阪市 福井賛子

このたびのアダムスキー大会とアメリカ東部の旅に参加致して大変お世話になりました。大会には一般旅行班の私は二日目の九月九日午後より出席しました。オーバンな感じのする会場で、講演者の方々はもちろんすべて英語でございました。アメイリカ英語での講演ですから、聴衆の方々にはとてもわかりやすい様子で、水を打つたように静まり、聞き入つておられました。ご講演後の記念撮影の際もとても和やかな雰囲気で、感謝されたアメリカの人から先生にTシャツをプレゼントされるというハーフィングもあり、大変楽しいフィーリングのなかにその日は終わってしまいました。日本GAPの活動は奥

が深いとつくづく思います。この時代に日本に生まれたことは大変幸運ですね。初めて訪れたワシントン市とニューヨークはとても素敵な街で魅力的でした。私も皆さん方とともにUFOを目撃致しました。あの感動は生涯忘ることはできません。

今後も未長く日本GAPと行動を共にして成長してゆくつもりです。

# UFO contactee バックナンバー主要記事

\*在庫は101号と105号以降全部（100号以前と102,103,104号品切れ絶版）。代金後払い可。ハガキに号数、冊数、住所、氏名、電話番号を明記して日本GAP宛気軽にお注文下さい。バックナンバーに限り送料は当方サービス。

No.130

1995年(平成7年)7月25日発行 ¥900

- M氏の「UFOと異星人」体験——久保田八郎  
 アダムスキー型UFOの飛行原理を解明——遠藤昭則  
 超能力者ティナの驚異的パワー——久保田八郎  
 異星人女性との出会い——佐々木八郎  
 スペースビープルを見かける私——原垣内良子  
 透視・臨死体験・不思議な女性——千葉福造  
 白山のUFO——沼倉孝彦  
 父と従兄が“UFO”目撃——高橋克彦  
 人間の実体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

No.129

1995年(平成7年)4月25日発行 ¥900

- 地獄の大地震からの奇跡の脱出——平塚和義  
 大地震を前夜予感した私——西村悠子  
 健大な教訓となった大地震——田辺健司  
 ロスで見かけた異星人女性——加藤純一  
 アダムスキーの大地を訪れて——黎明会有志  
 巨大母船、安比高原に出現!——秋山和広  
 サイコメトリーによる書物の質の感知法——林 国宣  
 UFOの速度・肉体と魂——  
 真の科学・長寿法——G・アダムスキー

No.128

1995年(平成7年)1月25日発行 ¥900

- アダムスキー・永遠の真実と栄光——ダニエル・ロス  
 わが母の驚異のUFO目撃——ミシェル・ジルガーネ  
 総会の日にUFO出現——  
 那須高原で巨大母船出現!——堀江健一  
 ダニエル・ロス氏宅訪問記——久保田八郎  
 あなたもオーラが見える——遠藤昭則  
 予知能力を持つ土星人女性の援助——G・アダムスキー

No.127

平成6年10月25日発行 ¥900

- UFO出現の国——メキシコ——久保田八郎  
 ロズウェル事件とMJ12文書——坂本寅一  
 UFO目撃と不思議体験の旅——4名執筆  
 私もアダムスキー型円盤を見た!——田口邦雄  
 UFOとオーラと想念——山崎和子  
 奇跡的に難病を治す方法——久保田八郎  
 異星人とUFOの真相(2)——G・アダムスキー

No.126

平成6年7月25日発行 ¥900

- 驚異の瞬間移動とUFOの超低空降下——久保田八郎  
 UFOを頻繁に見る私のカルマ(2)——溜池みゆき  
 GAP活動と共にUFO出現頻発——林 寛子  
 東北自動車道に母船が出現——林 慎子  
 私も母船を見た!——津田篤孝  
 ムー大陸から見た原日本人——櫻井達男  
 昔のUFO目撃の思い出——橋本恒一  
 異星人とUFOの真相(1)——G・アダムスキー

No.125

平成6年4月25日発行 ¥900

- UFO、デザートセンター上空を飛ぶ——久保田八郎  
 私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た——大野義和  
 UFOを頻繁に見る私のカルマ——溜池みゆき  
 不思議な予知透視——米川宣雄  
 突然出現した不思議な人間——千葉敏江  
 生命と物質と超能力——伊藤睦史  
 異星人はなぜ地球へ来るのか——G・アダムスキー

No.124

平成6年1月25日発行 ¥900

- 信念の力、希望の力、絶対に諦めない力を起こす方法——久保田八郎  
 今世紀末、大変動発生なし!——秋山眞人  
 私を助けてくれる異星人達——上原則子  
 アダムスキー型円盤、長時間出現——石井佳子  
 浅草上空に出現したUFO——堀江健一  
 UFO・宇宙・人間——G・アダムスキー

No.123

平成5年10月25日発行 ¥900

- 凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視——編集部  
 私を助けてくれる異星人(1)——上原則子  
 山梨県に出現した巨大UFO——編集部  
 エゼキエルはUFOを見た?——久保田八郎  
 私はアダムスキー型円盤を見た——海瀬宏子  
 UFOと異星人の実態——G・アダムスキー  
 謎の古代マヤ遺跡とUFO——久保田八郎

No.122

平成5年7月25日発行 ¥900

- 金星文字を解説してUFOの推進原理を解明!——バシリ・パン・デン・バーグ  
 星々への切符——遠藤昭則  
 オメ教授が発見した金星?文字——久保田八郎  
 不思議な体験連続の人生——千葉福造  
 オーラで異星人を見分ける——紙屋光孝  
 私だけが見るUFO——須山有美子/宮本浩子  
 万物は人間の想念に感応する——塩谷信男  
 四感・生命の息・転生——G・アダムスキー

No.121

平成5年1月25日発行 ¥900

- パロマー山にUFO出現——久保田八郎  
 宇宙ボタルはUFO——  
 アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる!——  
 江戸川堤防の怪光体——鈴木 武  
 不思議な筒状の雲——沼倉孝彦  
 人間・イメージ・波動——佐々木八郎  
 驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動——G・アダムスキー

No.120

平成5年1月25日発行 ¥900

- 宇宙的な信念と勇気を起こす方法——久保田八郎  
 二人の異星人からの忠告——辻 俊昭  
 テレパシーで植物を動かす方法——遠藤昭則  
 人間は生来テレパシー能力を持つ——堀江健一  
 夜空の不思議な“映像”——田辺優子  
 重力と宇宙の自然のパワー——G・アダムスキー  
 モアイとUFOの島へ——伊東芳和

No.119

平成4年10月25日発行 ¥900

- 夜空に不思議な「U」の文字が出現——久保田八郎  
 私の超能力開発体験と異星人女性との出会い——佐々木八郎  
 溺死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快——口ノ町一男  
 ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る——穴原美智子  
 神室山上空のUFO——沼倉 孝彦  
 UFO・異星人・地球人——G・アダムスキー

# 本年度総会、大盛況

49

既報のとおり、去る九月二三日、今年度の日本GAP総会が都内港区芝公園の機械振興会館地下二階の大ホールで午後一時より開催された。

この日はお天気もよく、出席は快調で、二五〇人定員のホールは超満員となり、約二七〇名の参会者があり、熱気に満ちた会場で、まず久保田会長のユーモラスな挨拶があり、続いて主役の秋山眞人氏の登場となつた。氏は国際氣能法研究所所長で哲学博士。演題は「別な惑星の文明と創造性」。氏は超能力者として名高いが、実は太陽系の別な惑星の文明やUFOの実体にも詳しい方で、いわば日本のアダムスキーモードというべき凄い体験を持つ先駆者である。

氏の講演は、この分野に関して全く関心を持たぬ人には無味乾燥かもしだれぬが、そこはUFO問題と宇宙的哲学の高度な知識を持つ日本GAP会員の集いであるから、会場は水を打つたように静肅で、一言も聞きもらすまいと真剣なまなざしが壇上に注がれる。

約一時間半の素晴らしい講演の最後に、参会者のなかから任意に数名の人々壇上へ上がつてもらって、秋山氏が背後から気を送りながら被験者の身体を動かすという実験が行なわれた。

続いて久保田会長のワシントン市におけるアダムスキーハイバードの経過報告があり、全員のレバーシー練習に続き、最後は秋山氏の質疑応答で大成功

夜は六時より同会館六階のホテルで盛大な大夕食会を開催。これにも約二〇名が参加して、華やかなBGMのもとに、北は北海道、南は沖縄から駆けつけた全国の会員が一同に会して、ビールを飲みながら久闊を叙し、歓談

裏に終了した。

翌日は台風情報の流れるなかを、薄日のかかる都内を約五〇名で観光。今日はまず国会議事堂内を見学して新宿御苑の広大な敷地を散策後、ここでお弁当を広げて楽しい昼食。その後恵比須のガーデンプレイスに行ってビールの知識を得たり、二〇〇円の生ビールでノドをうるおしてから東京駅で解散。一同別れを惜しんで来年の再開を約した。秋山博士の講演全文は本誌次号（二三三号。九六年一月下旬発行予定）に掲載の予定。

（田中）

▲講演中の秋山氏。



▲左上より会場風景。下、秋山氏の超能力実験。

右上より大夕食会。下、同（参加者の一部）。撮影／松村芳之

# George Adamski 新アダムスキー全集

ジョージ・アダムスキー=著／久保田八郎=訳

全面改訂・改訳／全10巻／各 四六判



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

## ① 第2惑星からの地球訪問者 ●352頁●定価=1,980円

UFO研究家として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人と会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者自ら円盤や母船に乗り込み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

## ② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) ●192頁●定価=1,300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視などの超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

## ③ 21世紀／生命の科学 ●208頁●定価=1,300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と実際のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心靈現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

## ④ UFO問答100 ●216頁●定価=1,300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

## ⑤ 金星・土星探訪記 ●380頁●定価=2,400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

## ⑥ UFOの謎 ●262頁●定価=1,980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が明確に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

## ⑦ 21世紀の宇宙哲学 ●148頁●定価=1,030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド（心）と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかつた人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

## ⑧ UFO・人間・宇宙 ●370頁●定価=2,400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

## ⑨ UFOの真相 ●320頁●定価=1,980円

アダムスキーの薫陶を受けた人々の論説・講演録等を収録。宇宙的実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。アダムスキー氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフ、ハンス・ビーターゼン、金星文字を解説して画期的な永久モーターを開発したバジル・バン・デン・バーグらの証言が白眉。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

## ⑩ 超人ジョージ・アダムスキー ●232頁●定価=1,300円

龐大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ一冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究家・久保田八郎が書き下ろし執筆。

## 別巻 UFO-宇宙からの完全な証拠 ●480頁●定価=2,800円

ダニエル・ロス=著／久保田八郎=訳

アメリカの気鋭UFO研究家ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA（米航空宇宙局）の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の実在性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に興味ある人にきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



中央アート出版社

〒104 東京都中央区京橋3-7-13

TEL=03-3561-7017／郵便振替=00180-5-66324

\*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。

\*定価は、全て税込みです。

# UFOと異星人の真相

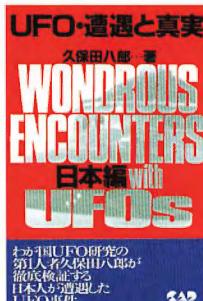
●久保田八郎著 定価1650円 送料310円 四六判・256頁

UFO研究の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとに構成されています。青年が著者に語った証言を通してUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を豊富なイラストを使い、詳細に明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも触れ、様々に疑問を解消していく内容になっているUFOを研究する人の必携の書です。



## UFO・遭遇と真実 一日本編—

●久保田八郎著 定価1500円 送料310円 四六判・264頁



日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編纂した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。  
ハガキでご注文下されば代金後払いにて直送します。



中央アート出版社

〒104 東京都中央区京橋3-7-13  
TEL = 03-3561-7017 / 郵便振替 = 00180-5-66324

## 英文版「UFO contactee」No.10

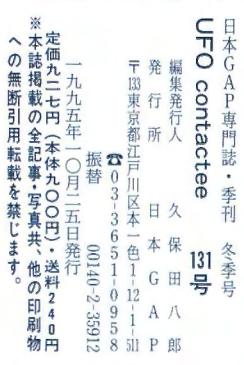
発行 日本GAP

B5版/12頁/コート紙使用/￥500 送料￥190/5冊まで￥270/6冊以上￥390 (NO.1~3は品切れ)

日本GAP発行英文版ユーコン誌は理想主義的なUFO専門誌として、世界各国のUFO研究団体や個人研究家から絶賛をあびています。多くのUFO研究誌はオバケ宇宙人、誘拐事件、その他恐怖心を煽るような記事に終始しているなか、日本GAPは日本語版・英語版とも地球の未来に大いなる希望を持ち、人間の無限大の可能性を引き出すための指針に満ちた記事を満載しています。英文版第10号には昨年度総会におけるダニエル・ロス氏の講演全文を掲載。他にも新アダムスキーエ全集第4巻掲載の質疑応答の原文、日本GAPの活動状況を伝えた記事等が流麗な英文で掲載されています。もとの日本語記事と対照して読めば英語学習用にも最適です。

編集後記

★★★



- アメリカ・ワシントン市のアダムスキーエ大会におけるワシントン市のアダムスキーエ大会では、新たな業者の講演は大成功でした。講演内容は、これは新なものではありませんが、これで多少とも日本GAPの存在が知られるようになります。ご支援のほどに感謝します。
- その大会後にワシントン、ニューヨーク両市にひんぱんに出現したUFOは、壮观でした。なぜ、アメリカ市民は見ないので、「上空を見上げねば見られない」の一語に尽きます。
- カイベーベルトの記事もアダムスキーエの説を裏書きしそうです。宇宙開発の進展が期待できます。
- 石井一江さんの「熱烈な呼びかけに応えたUFO」は出色の体験記です。純粹な心と出現に関連があることを思われます。
- アダムスキーエの連載講演録も佳境にはいつてきました。亡き妻メリーリーの金星人に転生した姿の描寫は圧巻です。この件の詳細は新アダムスキーエ全集第五巻「金星・土星探訪記」に出ています。
- 次号には、今年度総会における秋山眞人氏の素晴らしい講演全文を掲載します。ご期待下さい。
- UFOの目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きのにてての方には面談して取材します。ふるってご応募下さい。掲載分には薄謝を呈します。
- 本誌は多數のボランティアにより全国の主要書店に卸されていてます。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

1995年度 日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プロограм・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※来年1月のみ第2日曜日の7日に変更。 全員記念撮影。写真希望者は￥1000別納。 終了後、別会場で新年会。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研究室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958  ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の 右側の入口から入る。	会 場 費 ¥1000 セミナー 受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 テキスト=「生命の科学」 3:10→5:00 超能力開発練習／近況報告／質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-411-2367	¥500	東京月例セミナーにおける久保田会長の講義のビデオまたは録音テープを公開。テキストは上記と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=三星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141㈹ JR東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、セミナーは中止。	連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥500	同上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎166-61-0044	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	宜野湾市嘉数1-6-5早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-52-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせること。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384	¥300	同上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市役所裏「御殿山会館」1F 小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時に変更があるため事前に高梨宛電話。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上
福山支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:00 ※日時は変更があるため事前に電話。	広島県福山市丸の内1-3「びんご荘」 ☎0849-25-3977 福山駅から徒歩3分。 連絡先=棗田(なつめだ) 雅則	¥500	同上



## オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーガ米カリオルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、自撮者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ガイ・ベツツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130



## 金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



## ESPカード(超能力開発用)

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の图形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2~5個)¥190



## テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第7弾。1951年3月15日、午前10時30分、アダムスキーガバロマー山で6インチ反射望遠鏡を使用して連続4枚撮影した金星の母船の4枚目です。母船から6機のスカウトシップ(円盤)が発射されているのが見えます。

¥1,500 送料10枚まで¥80



## GAPキー ホルダー

日本GAPガザインして製作したオリジナル・キー ホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



## 会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂ガキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで¥130



## ブックカバー

主として新アダムスキーエル集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優美なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270



## GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80

申込先

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替も現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品当着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

## 新アダムスキーエル集

訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキーエル集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

**日本GAP** 振替 00140-2-35912

☎ 03-3651-0958



## 日本GAP能力開発力セッターテープ

### ★日本GAP東京本部月例セミナー

毎月開催される日本GAP東京本部月例セミナーから、久保田会長の「超能力開発法」解説講義と質疑応答その他を録音したテープ。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、あらゆる障害を超えて成功に到達できます。

●テープ① ¥1500

(内容) 久保田会長による新アダムスキーエル集第2巻「超能力開発法」の講義、近況報告。

●テープ② ¥1200

(内容) 会員による講演、超能力開発練習、質疑応答。

●1995年度日本GAP総会

2巻セット ¥2700

(内容) 超能力者、秋山真尋博士の「別なる惑星の文明と創造性」と題する素晴らしい講演と質疑応答。※総会テープのハサウエーナンバーあり、往復ハガキにてお問い合わせください。送料=テープ1本 ¥190、2~3本 ¥270、4~6本 ¥390

申込先

品名、〇年〇月分、個数、氏名、住所、電話番号をご明記の上、郵便振替でご注文下さい。(テープの代金後払いは不可)

〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202

松村芳之 振替 00100-2-162644 ☎ 03-3653-9387



## 日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000

(内容) 久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本GAP総会 全2巻各¥3000

(内容) 毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1995年度分から在庫あり)

●日本GAP海外研修旅行

全1巻 ¥3000

(内容) 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1995年度分から在庫あり)

●米ワシントン市のアダムスキーエル大会における久保田会長の講演(英語)。

全1巻 ¥3000

(内容) 1995年9月8日、久保田会長が英語で長時間講演した美しいビデオ。英語字幕付き。日本語翻訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ1本¥390、2本以上3本まで¥780。

申込先

ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所、氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払いは不可)

〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103

伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎ 03-3351-9526

# 新発見のパワーストーン日本上陸!

## 極少水晶レッド・クウォーツ!

波動に感受的センスをお持ちの方は、水晶をはじめとするさまざまな鉱石、貴石から心をなごませたり、能力を強化するバイブレーションが発せられていることを御存知でしょう。そもそも、私たち人類が、古代より「石を身につける」という不便な行為をあえて実践したのも、実はこの石の性質を生活の中にとり入れるためでした。しかし、地球はまだまだ奥の深い存在です。古代人も知らなかったスーパーストーンの発見が、近年、南米を中心 ラッシュとなり、今回、誌上初の頒布となりましたレッド・クウォーツ(一般流通されている紅水晶・ローズクウォーツとは別のものです)は、南米の山中でかなり深い鉱脈から発見されました。天然水晶、そして無加工で、プラスの波動のみ強化するのはこの石しかありません。

今回、誠に申し訳ありませんが90個のみの限定頒布となります。この機会を過ぎると入手がむずかしい石です。美しい、おちついた赤色水晶の波動をぜひお楽しみ下さい。

- ハーフ(透明水晶の一部が赤水晶化したもの)1個 15,000円(送料400円)携帯用本革袋付
- ムク(全体が赤水晶の純結晶)1個 19,000円(送料400円)携帯用本革袋付



レッド・クウォーツ



ブレスレット&ペンダント

■前号でご紹介した秋山のデザインのオリジナル天然石(紅水晶&エンゼルヘア・クウォーツ)のブレスレット(S・Mサイズ)と、ペンダント(天然水晶&18Kヘッド金具)は、まだ少し在庫がございます。この機会にぜひ御入手下さい。(美麗桐箱でお届けします)

- ブレスレット・サークル(S18cm・M20cm共)1個 22,800円(送料500円)(税込)
- ペンダント(チェーン60cm、18Kヘッド金具)1個 26,800円(送料500円)(税込)



縄文石器グッズ

## 縄文石器=究極のパワーストーン!!前世覚醒へのいざない!

手にすると不思議な過去世をかいま見たり、潜在能力がアップしたり、また、リラックスする能力開発&ヒーリングストーンの原点である縄文石器(本物)が、今、大変注目されています。私たちの先祖である縄文人はレムリア文明の子孫とも言われていますが、彼らはある特定の石でしか石器を作りませんでした。これはアメリカ・インディアンとともに共通しており、古代人はパワーの強い石材をよく知っていたのだと思います。手にされたら、家の中によく一週間ほど置いてみて下さい。夢の中などに過去世の自分らしきものが出てきたり、運命の好転現象などがあらわれてきます。秋山先生の鑑定証書(発掘地明記)と携帯用本革袋付でお届けします。1ヶ9,600円(税込)送料400円(税込)ストックが少なくなっていますので御希望の方はお早めにお申し込み下さい。

■国際気能法研究所では、国外国内の希少な良質波動を持つアンティックをコレクションしています。研究所内にミニ・ショップをオープンしましたので、興味のある方はお誘い合わせの上、ぜひお越し下さい。(完全電話予約制、前日の10~18時までに御予約ください、夜間や休日でもオープンする場合もあります)現在、中村天風氏の書や、古書画、大黒天・エビス(江戸~昭和)、イギリス・エリザベス朝時代のアクセサリー、アメリカ・インディアン手作りのリング、中国・玉の発掘品、磁器等があります。(伊万里、九谷等)どれも、波動をチェックし、私たちの身体と心によいものばかりです。(5,000円~50,000円位のものが中心です)



### ミニ・ショップオープンキャンペーン

今回の掲載分につき商品価格(送料別)で30,000円以上お買い上げの方には、あなたの波動に合った秋山直筆のヒーリングアートカードをプレゼントします。(お一人様一点のみ)

#### お申し込み方法

限定販売の為、まずは、お電話でお申し込み下さい。

代金は、現金書留か郵便為替でお申し込み下さい。

又、お申し込みの際に次のような事項を記入した用紙を同封して下さい。

捺印は忘れずにお願い致します。

◎商品代金とともに送料代金も必ず同封して下さい。

◎お手元に商品が届く迄、2週間前後かかることもありますので御了承下さい。

#### お申し込み先

〒175 東京都板橋区成増1-4-1 成増ビルズビル1F

国際気能法研究所 P係 FAX03-3939-0688(24時間受付)

●職業	●年生月日・年齢	●数	●商品名
●住所・氏名(フリガナ)印			

#### お問い合わせ先

TEL 03-3939-0382 (受付(月)~(金)10:00~18:00)